

土木工事施工管理基準及び規格値（ 2 - 2 ）

平成 1 7 年 4 月

香 川 県 土 木 部

港湾工事出来形管理基準及び規格値

凡 例

- ①特 : 図面及び特記仕様書
②共 ; 土木工事共通仕様書 第9編 港湾編
業務共通仕様書 ; 港湾設計・測量・
調査等業務共通仕様書

港湾工事出来形管理基準

目 次

1 . 共通の工種	
1 - 1 浚渫土工	1
1 - 2 圧密・排水工	1
1 - 3 締固工	3
1 - 4 固化工	4
1 - 5 洗掘防止工	5
1 - 6 中詰工	5
1 - 7 蓋コンクリート工	5
1 - 8 蓋ブロック工	5
1 - 9 鋼矢板工	6
1 - 10 控 工	7
1 - 11 鋼杭工	9
1 - 12 コンクリート杭工	9
1 - 13 防食工	10
1 - 14 コンクリート舗装工	11
1 - 15 アスファルト舗装工	12
1 - 16 植生工	13
2 . 土捨工	
2 - 1 浚渫土工	14
3 . 海上地盤改良工	
3 - 1 床掘工	14
3 - 2 床掘土工	14
3 - 3 置換工	14
3 - 4 圧密・排水工	15
3 - 5 締固工	15
3 - 6 固化工	15
4 . 基礎工	
4 - 1 基礎盛砂工	15
4 - 2 洗掘防止工	15
4 - 3 基礎捨石工	16
4 - 4 基礎ブロック工	17

5 . 本体内工 (ケーソン式)	
5 - 1 ケーソン製作工	18
5 - 2 ケーソン進水据付工	18
5 - 3 中詰工	19
5 - 4 蓋コンクリート工	19
5 - 5 蓋ブロック工	19
6 . 本体内工 (ブロック式)	
6 - 1 本体ブロック製作工	19
6 - 2 本体ブロック据付工	20
6 - 3 中詰工	20
6 - 4 蓋コンクリート工	20
6 - 5 蓋ブロック工	20
7 . 本体内工 (場所打式)	
7 - 1 場所打コンクリート工	21
7 - 2 水中コンクリート工	21
7 - 3 プレパックドコンクリート工	21
7 - 4 水中不分離性コンクリート工	22
8 . 本体内工 (捨石・捨ブロック式)	
8 - 1 洗掘防止工	22
8 - 2 本体捨石工	22
8 - 3 捨ブロック工	22
8 - 4 場所打コンクリート工	23
9 . 本体内工 (鋼矢板式)	
9 - 1 鋼矢板工	23
9 - 2 控 工	23
10 . 本体内工 (コンクリート矢板式)	
10 - 1 コンクリート矢板工	24
10 - 2 控 工	24
11 . 本体内工 (鋼杭式)	
11 - 1 鋼杭工	24
12 . 本体内工 (コンクリート杭式)	
12 - 1 コンクリート杭工	24

13 . 被覆・根固工		
13 - 1	被覆石工	25
13 - 2	被覆ブロック工	25
13 - 3	根固ブロック工	25
14 . 上部工		
14 - 1	上部コンクリート工	26
14 - 2	上部ブロック工	27
15 . 付属工		
15 - 1	係船柱工	28
15 - 2	防舷材工	28
15 - 3	車止・縁金物工	28
15 - 4	防食工	29
15 - 5	付属設備工	29
16 . 消波工		
16 - 1	洗掘防止工	29
16 - 2	消波ブロック工	29
17 . 裏込・裏埋工		
17 - 1	裏込工	30
17 - 2	裏埋工	30
17 - 3	裏埋土工	30
18 . 陸上地盤改良工		
18 - 1	圧密・排水工	31
18 - 2	締固工	31
18 - 3	固化工	31
19 . 土 工		
19 - 1	掘削工	31
19 - 2	盛土工	31
19 - 3	路床盛土工	31
19 - 4	法面工	32
20 . 舗装工		
20 - 1	コンクリート舗装工	32
20 - 2	アスファルト舗装工	32

21 . 維持補修工		
21 - 1 維持塗装工	32
21 - 2 防食工	32
22 . 構造物撤去工		
22 - 1 取壊し工	33
22 - 2 撤去工	33
23 . 仮設工		
23 - 1 仮設鋼矢板工	34
23 - 2 仮設鋼管杭・鋼管矢板工	34
23 - 3 仮設道路工	34
24 . 雑 工		
24 - 1 現場鋼材溶接工	34
24 - 2 現場鋼材切断工	35
24 - 3 その他雑工	35
25 . 浚渫工		
25 - 1 ポンプ浚渫工	35
25 - 2 グラブ浚渫工	35
25 - 3 硬土盤浚渫工	35
25 - 4 岩盤浚渫工	36
25 - 5 バックホウ浚渫工	36
25 - 6 浚渫土工	36
26 . 埋立工		
26 - 1 固化工	36
26 - 2 埋立土工	36
27 . 道路舗装工		
27 - 1 コンクリート舗装工	37
27 - 2 アスファルト舗装工	37
27 - 3 道路付属工	37
28 . 緑地工		
28 - 1 植生工	37

[参 考]

様式・出来形 1-1-1	; 土砂掘削出来形管理表	38
様式・出来形 1-2-2(1)	; 敷砂出来形管理表	39
様式・出来形 1-2-2(2)	; 敷砂出来形管理図	40
様式・出来形 1-3-2(1)	; サトコハ、クヨハ、ハ出来形管理表	41
様式・出来形 1-3-2(2)	; 砂投入管理表	42
様式・出来形 1-3-2(3)	; 締固工深浅図	43
様式・出来形 1-4-1(1)	; 深層混合処理杭出来形管理表	44
様式・出来形 1-4-1(2)	; 深層混合処理杭鉛直度管理表	45
様式・出来形 1-5-1(1)	; 洗掘防止マット出来形管理表	46
様式・出来形 1-5-1(2)	; 洗掘防止マット出来形管理図	47
様式・出来形 1-6-1	; 砂・石材中詰出来形管理表	48
様式・出来形 1-7-1	; 蓋コンクリート出来形管理表	49
様式・出来形 1-9-2	; 鋼矢板出来形管理表	50
様式・出来形 1-10-5	; 腹起出来形管理表	51
様式・出来形 1-10-6	; タイ材出来形管理表	52
様式・出来形 1-11-2(1)	; 鋼杭打込記録	53
様式・出来形 1-11-2(2)	; 鋼杭出来形管理表	54
様式・出来形 1-13-1(1)	; 電気防食出来形管理表	55
様式・出来形 1-13-1(2)	; 電気防食電位測定管理表	56
様式・出来形 1-14-1(1)	; 路盤出来形管理表	57
様式・出来形 1-14-1(2)	; 路盤出来形管理図	58
様式・出来形 1-15-3(1)	; 舗装出来形管理表	59
様式・出来形 1-15-3(2)	; 舗装出来形管理図	60
様式・出来形 3-3-1	; 置換材出来形管理表	61
様式・出来形 4-3-2(1)	; 基礎石均し出来形管理図(1)	62
様式・出来形 4-3-2(2)	; 基礎石均し出来形管理図(2)	63
様式・出来形 5-1-1	; ケーソン製作出来形管理表	64
様式・出来形 5-2-1	; ケーソン据付出来形管理表	65
様式・出来形 6-1(1)	; ブロック(方塊)製作出来形管理表	66
様式・出来形 6-1(2)	; L型ブロック製作出来形管理表	67
様式・出来形 6-1(3)	; セルラーブロック製作出来形管理表	68
様式・出来形 6-1(4)	; ブロック製作等外見チェックリスト	69
様式・出来形 13-1-1(1)	; 被覆石均し出来形管理図(1)	70
様式・出来形 13-1-1(2)	; 被覆石均し出来形管理図(2)	71
様式・出来形 13-3-1	; 根固ブロック製作出来形管理表	72
様式・出来形 14-1(1)	; 上部コンクリート(防波堤)出来形管理表	73
様式・出来形 14-1(2)	; 上部コンクリート(岸壁)出来形管理表	74

港湾工事出来形管理基準

様式・出来形 15-1-1	；係船柱出来形管理表	75
様式・出来形 15-2-1	；防舷材出来形管理表	76
様式・出来形 15-3-1	；車止出来形管理表	77
様式・出来形 24-1-1(1)	；すみ肉溶接出来形管理表	78
様式・出来形 24-1-1(2)	；突合わせ溶接出来形管理表	79
様式・出来形 24-1-1(3)	；鉄筋フレア溶接出来形管理表	80
様式・出来形 25-1(1)	；浚渫出来形管理表	81
様式・出来形 25-1(2)	；浚渫出来形管理図	82

1. 共通の工種

1-1 浚渫土工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. 土砂掘削 2. 土砂盛土	基準高	レベル等により測定	法肩、法尻及び中心を延長20mに1箇所以上	1 cm	測定表を作成し提出	☒による。	様式・出来形1-1-1参照
	幅	スチールテープ等により測定	延長20mに1箇所以上	10cm	測定表を作成し提出	☒による。	
	法長	スチールテープ等により測定	延長20mに1箇所以上	10cm	測定表を作成し提出	☒による。	
	延長	スチールテープ等により測定	両端及び中心	10cm	測定表を作成し提出	☒による。	

1-2 圧密・排水工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. サンドドレーン	位置	トランシット及び光波測距儀により測定	転船毎及び工事監督員の指示による。	1 cm	管理図に測定結果を記入し提出	☒による。	自動位置決め装置を使用している場合、その作動状況が確認されていれば不要
	天端高 先端深度	打込記録の確認	全数	10cm	打込記録紙及び管理表を作成して提出	天端高 + 規定しない - 0 先端深度 + 0 - 規定しない	+ ; 設計値より浅いことをいう。 - ; 設計値より深いことをいう。
	砂の投入量	打込記録の確認	全数	0.1m ³	打込記録紙に砂の圧入量を記入し提出		
2. 敷砂均し	延長	スチールテープ、間縄、光波測距儀等により測定	施工完了後	10cm	管理図に延長を記入し提出	+ 規定しない - 0	様式・出来形1-2-2参照
	天端高 天端幅 法面勾配	陸上部；スチールテープ、レベル、光波測距儀等で測定 水中部；スチールテープ、間縄、レッド又は音響測深機等により測定	測線間隔20m以下 測点間隔10m以下 測線間隔20m以下 測点間隔20m以下	天端高 1 cm 天端幅 10cm 10cm	管理図に天端高、法肩、法尻、天端幅及び法面勾配を記入し提出	天端高 ± 30cm 天端幅、法面勾配は☒による。	
3. 載荷土砂	延長	スチールテープ、間縄等により測定	施工完了後	10cm	管理図に延長を記入し提出	+ 規定しない - 0	
	天端高 天端幅 法面勾配	陸上部；スチールテープ、レベル、光波測距儀等で測定	測線間隔20m以下 測点間隔10m以下	天端幅 10cm 天端高 1 cm	管理図に天端高、法肩、法尻、天端幅及び法面勾配を記入し提出	天端高 ± 50cm 天端幅、法面勾配は☒による。	

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
4 . ペーパードレーン	位 置	水中部；スチールテープ、間縄、レッド又は音響測深機により測定 トランシット及び光波測距儀により測定	測線間隔20m以下 測点間隔20m以下	10cm			
	天端高 先端深度	打込記録の確認	全 数	10cm	管理図に測定結果を記入し提出	☑による。	自動位置決め装置を使用している場合、その作動状況が確認されていれば不要
	ドレーン材の打込長	打込記録の確認	全 数	10cm	打込記録紙及び管理表を作成して提出	天端高 + 規定しない - 0 先端深度 + 0 - 規定しない	+ ; 設計値より浅いことをいう。 - ; 設計値より深いことをいう。
5 . グラベルマット	延 長	スチールテープ、間縄、光波測距儀等により測定	施工完了後	10cm	管理図に延長を記入し提出	+ 規定しない - 0	様式・出来形1-2-2参照
	天端高 天端幅 法面勾配	陸上部；スチールテープ、レベル、光波測距儀等で測定 水中部；スチールテープ、間縄、レッド又は音響測深機等により測定	測線間隔20m以下 測点間隔10m以下	天端高 1 cm 天端幅10cm	管理図に天端高、法肩、法尻、天端幅及び法面勾配を記入し提出	天端高 ±30cm 天端幅、法面勾配は☑による。	
6 . グラベルドレーン	位 置	トランシット及び光波測距儀により測定	測線間隔20m以下 測点間隔20m以下	10cm			
	天端高 先端深度	打込記録の確認	全 数	10cm	管理図に測定結果を記入し提出	☑による。	自動位置決め装置を使用している場合、その作動状況が確認されていれば不要
	砕石の投入量	打込記録の確認	全 数	0.1m ³	打込記録紙に砕石の投入量を記入し提出	天端高 + 規定しない - 0 先端深度 + 0 - 規定しない	+ ; 設計値より浅いことをいう。 - ; 設計値より深いことをいう。

1 - 3 締固工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1．ロッドコンパクション	位 置	トランシット及び光波測距儀により測定	☒による。	10cm	管理図に測定結果を記入し提出		
	充填材の投入量			0.1m ³	測定記録等の提出		
	天端高	打込記録の確認	全 数	10cm	打込記録の提出	天端高 + 規定しない - 0	
	先端深度	打込記録の確認	全 数	10cm	打込記録の提出	先端深度 + 0 - 規定しない	+ ; 設計値より浅いことをいう。 - ; 設計値より深いことをいう。
2．サンドコンパクションパイル	位 置	トランシット、光波測距儀により測定	転船毎及び工事監督員の指示による。	1 cm	管理図に測定結果を記入し提出	☒による。	様式・出来形1-3-2参照 自動位置決め装置を使用している場合、その作動状況が確認されていれば不要
	天端高 先端深度	打込記録の確認	砂杭全数	10cm	打込記録紙及び管理表を作成して提出	天端高 + 規定しない - 0 先端深度 + 0 - 規定しない	+ ; 設計値より浅いことをいう。 - ; 設計値より深いことをいう。
	砂の投入量	打込記録の確認	砂杭全数	0.1m ³	打込記録紙に砂の圧入量を記入し提出		
	盛上り量	レベル、音響測深機又はレッドにより測定	完了後 測線・測点間隔は☒による。	10cm	盛上り量の平面図を作成し提出		
3．盛上土砂撤去	撤去量	レベル、音響測深機又はレッドにより測定	完了後 測線・測点間隔は☒による。	10cm	撤去量の平面図を作成し提出		
4．敷砂均し							1-2-2敷砂均しを適用する。

1 - 4 固化工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 深層混合処理杭	位 置	トランシット及び光波測距儀により測定	海上施工は改良杭全数。 陸上施工は☒による。	1 cm	管理図に測定結果を記入し提出		様式・出来形1-4-1参照 自動位置決め装置を使用している場合、その作動状況が確認されていれば不要
	鉛直度 接 合	トランシット及び傾斜計等により処理機の鉛直度を測定	改良杭全数 深度方向に2～5m程度毎に測定（引抜きと貫入時）	1分又は1cm	改良杭先端部の軌跡図を作成し提出	☒による。	陸上施工は除く。
	天端高 先端深度	深度計、ワイヤー繰出長さ、潮位計、乾舷及び処理機等により確認	改良杭全数	1 cm	打込記録紙に天端高、先端深度を記入し管理表を提出	天端高 + 規定しない - 0 先端深度 + 0 - 規定しない	+ ; 設計値より浅いことをいう。 - ; 設計値より深いことをいう。
	硬化材吐出量	流量計等により硬化材のm当りの吐出量を確認	改良杭全数	1 または 1 t	打込記録紙に硬化材吐出量を記入し提出		
	盛上り量	音響測深機又はレッドにより測定	改良前、改良後	10cm	盛上り量の図面を作成し提出		
2. 敷砂均し							1-2-2敷砂均しを適用する。
3. 事前混合処理	延 長	スチールテープ、間縄等により測定	施工完了後	10cm	管理図に延長を記入し提出	+ 規定しない - 0	
	天端高、天端幅	陸上部：スチールテープ、レベル、光波測距儀等で測定 水中部：スチールテープ、間縄、レッド又は音響測深機により測定	測線間隔20m以下 測点間隔10m以下 測線間隔20m以下 測点間隔20m以下	天端幅10cm 天端高1cm 10cm	管理図に天端高、天端幅を記入し提出	☒による。	
4. 表層固化処理	延 長	スチールテープ、間縄等により測定	施工完了後	10cm	管理図に延長を記入し提出	+ 規定しない - 0	
	天端高、天端幅、厚さ	スチールテープ、レベル、光波測距儀等で測定	測線間隔20m以下 測点間隔10m以下	天端幅10cm 天端高・厚さ1cm	管理図に天端高、天端幅、厚さを記入し提出	☒による。	

1 - 5 洗掘防止工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 洗掘防止	敷設位置	スチールテープ、間縄等により測定	始、終端及び変化する箇所毎並びに20mに1箇所以上	10cm	測定表及び敷設図を作成し提出	☒による。	様式・出来形1-5-1参照 アスファルトマット、繊維系マット、合成樹脂系マット
	重ね幅	スチールテープ等により測定	1枚に2点	1 cm	測定表及び敷設図を作成し提出	50cm以上(アスファルトマット・繊維系マット) 30cm以上(合成樹脂系マット)	
	延 長	スチールテープ、間縄等により測定	マットの中心を区間毎及び全長	10cm	測定表及び敷設図を作成し提出	+ 規定しない - 10cm	

1 - 6 中詰工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 砂・石材中詰	天端高	レベル、水系張り、スチールテープ等によりケーソン天端面からの下りを測定	1室につき1箇所(中心)	1 cm	管理表を作成し提出	陸上 ± 5 cm 水中 ± 10cm	様式・出来形1-6-1参照
2. コンクリート中詰 3. プレパックドコンクリート中詰	天端高	レベル、水系張り、スチールテープ等によりケーソン天端面からの下りを測定	1室につき1箇所(中心)	1 cm	管理表を作成し提出	陸上 ± 3 cm 水中 ± 5 cm	

1 - 7 蓋コンクリート工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 蓋コンクリート	天端高	レベル、水系張り、スチールテープ等により測定	1室につき1箇所(中心)	1 cm	管理表を作成し提出	陸上 ± 3 cm 水中 ± 5 cm	様式・出来形1-7-1参照

1 - 8 蓋ブロック工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 蓋ブロック製作	幅、高さ、長さ、壁厚	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数	1 cm	管理表を作成し提出	幅 + 2 cm, - 1 cm 高さ + 2 cm, - 1 cm 長さ + 2 cm, - 1 cm 壁厚 ± 1 cm	
	対角線	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数	1 cm	管理表を作成し提出		
2. 蓋ブロック据付	蓋ブロック据付(天端高)	レベル、水系張り、スチールテープ等により測定	1室につき1箇所	1 cm	管理表を作成し提出	陸上 ± 3 cm 水中 ± 5 cm	

1 - 9 鋼矢板工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 先行掘削	位 置	トランシット、スチールテープ等により測定	全 数	10cm	測定表を作成し提出	☑による。	
	掘削長 掘削深度	レベル等により測定	全 数	10cm	測定表を作成し提出	☑による。	
	掘削径	スチールテープ等により測定（水中の場合はケーシング径等により確認）	全数（水中の場合は適宜）	10cm	測定表を作成し提出	☑による。	
2. 鋼矢板							
イ) 鋼矢板	打込記録	共第1編 5-3-14-2-11 打込記録	40枚に1枚		打込記録を提出		様式・出来形1-9-2参照
	矢板壁延長	スチールテープ等により測定（天端付近）	施工中適宜 打込完了時	1 cm	管理表を作成し提出	+ 矢板1枚幅 - 0	
	矢板法線に対する出入り	トランシット、スチールテープ等により測定	打込完了時、20枚に1枚 及び計画法線の変化点	1 cm	管理表を作成し提出	±10cm	全数を目視で確認
	矢板法線に対する傾斜	トランシット、下げ振り、傾斜計等により測定	打込完了時、20枚に1枚 及び計画法線の変化点	1/1000	管理表を作成し提出	10/1000以下	
	矢板法線方向の傾斜	トランシット、下げ振り、傾斜計等により測定	施工中適宜 打込完了時（両端部）	1 cm 1/1000	管理表を作成し提出	上下の差が矢板1枚幅未満 10/1000以下	
	矢板天端高	レベルにより測定	打込完了時、20枚に1枚	1 cm	管理表を作成し提出	±10cm	全数を目視で確認
	矢板継手部の離脱	観察（水中部は潜水土）	全 数		観察結果を報告		
ロ) 鋼管矢板	打込記録	共第1編 5-3-14-2-11 打込記録	20本に1本		打込記録を提出		
	矢板壁延長	スチールテープ等により測定（天端付近）	施工中適宜 打込完了時	1 cm	管理表を作成し提出	☑による。	
	矢板法線に対する出入り	トランシット、スチールテープ等により測定	打込完了時、10本に1本 及び計画法線の変化点	1 cm	管理表を作成し提出	±10cm	全数を目視で確認
	矢板法線に対する傾斜	トランシット、下げ振り、傾斜計等により測定	打込完了時、全数確認後 10本に1本及び変化点	1/1000	管理表を作成し提出	10/1000以下	
	矢板法線方向の傾斜	トランシット、下げ振り、傾斜計等により測定	施工中適宜 打込完了時（両端部）	1 cm 1/1000	管理表を作成し提出	上下の差が矢板1枚幅未満 10/1000以下	
	矢板天端高	レベルにより測定	打込完了時、10本に1本	1 cm	管理表を作成し提出	±10cm	全数を目視で確認
	矢板継手部の離脱	観察（水中部は潜水土）	全 数		観察結果を報告		

1 - 10 控工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. 控鋼矢板	打込記録	共第1編 5-3-15-2-11 打込記録	40枚に1枚		打込記録を提出		様式・出来形1-9-2参照
	矢板壁延長	スチールテープ等により測定（天端付近）	施工中適宜 打込完了時	1 cm	管理表を作成し提出	+ 矢板 1 枚幅 - 0	
	矢板法線に対する出入り	トランシット、スチールテープ等により測定	打込完了時、20枚に1枚 及び計画法線の変化点	1 cm	管理表を作成し提出	± 10cm	全数を目視で確認
	矢板法線に対する傾斜	トランシット、下げ振り、傾斜計等により測定	打込完了時、20枚に1枚 及び計画法線の変化点	1/1000	管理表を作成し提出	10/1000以下	
	矢板法線方向の傾斜	トランシット、下げ振り、傾斜計等により測定	施工中適宜 打込完了時（両端部）	1 cm 1/1000	管理表を作成し提出	上下の差が矢板 1 枚幅未満 10/1000以下	
	矢板天端高	レベルにより測定	打込完了時、20枚に1枚	1 cm	管理表を作成し提出	± 10cm	全数を目視で確認
	矢板継手部の離脱	観察（水中部は潜水士）	全数		観察結果を報告		
2. 控鋼杭	打込記録	共第1編 5-3-15-3-9 打込記録	20本に1本		打込記録を提出		様式・出来形1-11-2参照
	杭頭中心位置	トランシット、スチールテープ等により測定	打込完了時、全数	1 cm	管理表を作成し提出	10cm以下	
	杭天端高	レベルにより測定	打込完了時、全数	1 cm	管理表を作成し提出	± 5 cm	
	杭の傾斜	トランシット、下げ振り、傾斜計等により測定	打込完了時、全数	1°	管理表を作成し提出	直杭 2° 以下 斜杭 3° 以下	
3. プレキャストコンクリート控壁	幅、高さ、長さ、壁厚	スチールテープ等により測定	型枠取外後全数	1 cm	管理表を作成し提出	幅 + 2 cm, - 1 cm 高さ + 2 cm, - 1 cm 長さ + 2 cm, - 1 cm 壁厚 ± 1 cm	
	法線に対する出入り	スチールテープ等により測定	据付後ブロック 1 個につき 2 箇所（最下段、最上段）	1 cm	管理表を作成し提出	± 5 cm	
	隣接ブロックとの間隔	スチールテープ等により測定	据付後ブロック 1 個につき 2 箇所（最下段、最上段）	1 cm	管理表を作成し提出	☒による。	
	延長	スチールテープ等により測定	据付完了後、法線上（最上段のみ）	1 cm	管理表を作成し提出		
	天端高	レベル等により測定	据付後ブロック 1 個につき 2 箇所	1 cm	管理表を作成し提出		

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
4．場所打コンクリート控壁	天端高又は厚さ	レベル、スチールテープ等により測定	1スパン3箇所	1 cm	測定表を作成し提出	± 2 cm	天端高又は厚さの管理項目の選定は☒による。
	天端幅	スチールテープ等により測定	1スパン3箇所	1 cm	測定表を作成し提出	± 2 cm	
	延長	スチールテープ等により測定	法線上	1 cm	測定表を作成し提出	+ 規定しない - 0	
	法線に対する出入	トランシット、スチールテープ等により測定	1スパン2箇所	1 cm	測定表を作成し提出	± 3 cm	
5．腹 起	取付高さ	レベル等により測定	取付完了時、両端（継手毎）全数	1 cm	管理表を作成し提出		様式・出来形1-10-5参照
	継手位置	観 察	取付完了時、全数		観察結果を報告		
	ボルトの取付け	観 察	取付完了時、全数		観察結果を報告		
6．タイ材 イ) タイロッド取付	取付け高さ及び水平度	レベル等により測定	締付後両端、全数	1 cm	管理表を作成し提出		様式・出来形1-10-6参照 腹起しに取り付ける場合は不要
	矢板法線に対する取付角度及び取付間隔	スチールテープ等により測定	締付後両端、全数	1 cm	管理表を作成し提出		
	定着ナットの締付け	観 察	全 数		観察結果を報告	ねじ山が3つ山以上突き出していること。	
	ターンバックルのねじ込み長さ	観 察	全 数	1 cm	観察結果を報告	定着ナットの高さ以上	
	リングジョイントのコンクリートへの埋込み	観 察	全 数		観察結果を報告		
	支保材の天端高	レベル等により測定	適 宜	1 cm	管理表を作成し提出		
	ロ) タイワイヤー取付	取付高さ	レベル等により測定	締付後両端、全数	1 cm	管理表を作成し提出	
矢板法線に対する取付角度及び取付間隔		スチールテープ等により測定	締付後両端、全数	1 cm	管理表を作成し提出		
定着ナットの締付け		観 察	全 数		観察結果を報告	ねじ山が3つ山以上突き出していること。	

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
	定着具端部 柱の取付け	観 察	全 数		観察結果を報告		
	トランペット トシースの 取付	観 察	全 数		観察結果を報告		

1 - 11 鋼杭工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1 . 先行掘削							1-9-1先行掘削を適用する。
2 . 鋼 杭	打込記録	共第 1 編 5-3-16-2-9 打込記録	共第 1 編 5-3-16-2-9 支持杭は全数、支持杭以外 は20本に 1 本		打込記録を提出		様式・出来形1-11-2参照
	杭頭中心位 置	トランシット、スチール テープ等により測定	打込完了時、全数	1 cm	管理表を作成し提出	10cm以下	
	杭天端高	レベルにより測定	打込完了時、全数	1 cm	管理表を作成し提出	± 5 cm	
	杭の傾斜	トランシット、下げ振り、 傾斜計等により測定	打込完了時、全数	1°	管理表を作成し提出	直杭 2°以下 斜杭 3°以下	

1 - 12 コンクリート杭工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1 . コンクリート杭	打込記録	JIS A 7201 記録	支持杭は全数、支持杭以外 は20本に 1 本		JIS A 7201 付表 5 打込み工法記録を作成し提出		
	杭頭中心位 置	トランシット、スチール テープ等により測定	打込完了時、全数	1 cm	管理表を作成し提出	10cm以下	
	杭天端高	レベルにより測定	打込完了時、全数	1 cm	管理表を作成し提出	± 5 cm	
	杭の傾斜	トランシット、下げ振り、 傾斜計等により測定	打込完了時、全数	1°	管理表を作成し提出	直杭 2°以下 斜杭 3°以下	

1 - 13 防食工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 電気防食	取付位置	目視（承諾された図面より確認）潜水土による。	取付完了後、全数	☒による	確認結果を提出		様式・出来形1-13-1参照
	電位測定	測定機器による。	取付完了後、測定端子取付箇所毎	1 m V	測定表を作成し提出	飽和かんこう電極基準； - 770m V 海水塩化銀基準； - 780m V 又は飽和硫酸銅電極基準； - 850m V	
2. FRPモルタルライニング	取付高さ	レベルにより測定	取付完了後、上端高さ 鋼管杭；全 数 矢板；1打設3箇所以上	☒による	測定表を作成し提出		
3. ペトロラタムライニング 4. コンクリート被覆 5. 防食塗装	高さ	レベルにより測定	完了後、上端・下端高さ 鋼管杭；全 数 矢板；1打設3箇所以上	☒による	測定表を作成し提出		

1 - 14 コンクリート舗装工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 下層路盤	高 さ	レベル等により測定	舗装は中心及び両端部の3点を延長20mに1箇所、道路舗装は中心及び両端部の3点を延長40mに1箇所	1 cm	測定表を作成し提出	± 4 cm	様式・出来形1-14-1参照
	厚 さ	レベル等により測定	舗装は1,000m ² に1箇所、道路舗装は☒による。	1 cm	測定表を作成し提出	+ 規定しない - 4.5cm	
	幅	スチールテープ等により測定	舗装は延長20mに1箇所、道路舗装は延長40mに1箇所	1 cm	測定表を作成し提出	+ 規定しない - 5 cm	
	延 長	スチールテープ等により測定	両端 2 箇所	1 cm	測定表を作成し提出	+ 規定しない - 0	
2. 上層路盤	厚 さ	レベル等により測定	舗装は1,000m ² に1箇所、道路舗装は☒による。	1 cm	測定表を作成し提出	+ 規定しない - 2.5cm	
	幅	スチールテープ等により測定	舗装は延長20mに1箇所、道路舗装は延長40mに1箇所	1 cm	測定表を作成し提出	+ 規定しない - 5 cm	
	延 長	スチールテープ等により測定	両端 2 箇所	1 cm	測定表を作成し提出	+ 規定しない - 0	
3. コンクリート舗装版	厚 さ	レベル等により測定	舗装は中心及び両端部の3点を延長20mに1箇所、道路舗装は中心及び両端部の3点を延長40mに1箇所	1 cm	測定表を作成し提出	+ 規定しない - 1 cm	コンクリート版の厚さ、その他を確認するため、工事監督員が必要と認めたときは、コアを採取する。
	幅	スチールテープ等により測定	舗装は延長20mに1箇所、道路舗装は延長40mに1箇所	1 cm	測定表を作成し提出	+ 規定しない - 2.5cm	
	延 長	スチールテープ等により測定	両端 2 箇所	1 cm	測定表を作成し提出	+ 規定しない - 0	
	平坦性	3 mプロフィールメータにより測定	各レーン毎全延長	1 mm	記録紙及び管理表を作成し提出	機械舗設の場合 2 mm以下 人力舗設の場合 3 mm以下	

1 - 15 アスファルト舗装工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 下層路盤	高 さ	レベル等により測定	舗装は中心及び両端部の3点を延長20mに1箇所、道路舗装は中心及び両端部の3点を延長40mに1箇所	1 cm	測定表を作成し提出	± 5 cm	
	厚 さ	レベル等により測定	舗装は1,000m ² に1箇所、道路舗装は☒による。	1 cm	測定表を作成し提出	+ 規定しない - 4.5cm	
	幅	スチールテープ等により測定	舗装は延長20mに1箇所、道路舗装は延長40mに1箇所	1 cm	測定表を作成し提出	+ 規定しない - 5 cm	
	延 長	スチールテープ等により測定	両端 2箇所	1 cm	測定表を作成し提出	+ 規定しない - 0	
2. 上層路盤	厚 さ	レベル等により測定	舗装は1,000m ² に1箇所、道路舗装は☒による。	1 cm	測定表を作成し提出	+ 規定しない - 3 cm	
	幅	スチールテープ等により測定	舗装は延長20mに1箇所、道路舗装は延長40mに1箇所	1 cm	測定表を作成し提出	+ 規定しない - 5 cm	
	延 長	スチールテープ等により測定	両端 2箇所	1 cm	測定表を作成し提出	+ 規定しない - 0	
3. 基 層	厚 さ	抜き取りコアをスチールテープ等で測定	1,000m ² に1箇所	1 mm	測定表を作成し提出	+ 規定しない - 1.2cm	様式・出来形1-15-3参照
	幅	スチールテープ等により測定	舗装は延長20mに1箇所、道路舗装は延長40mに1箇所	1 cm	測定表を作成し提出	+ 規定しない - 2.5cm	
	延 長	スチールテープ等により測定	両端 2箇所	1 cm	測定表を作成し提出	+ 規定しない - 0	
4. 表 層	厚 さ	抜き取りコアをスチールテープ等で測定	1,000m ² に1箇所	1 mm	測定表を作成し提出	+ 規定しない - 9 mm	様式・出来形1-15-3参照
	幅	スチールテープ等により測定	舗装は延長20mに1箇所、道路舗装は延長40mに1箇所	1 cm	測定表を作成し提出	+ 規定しない - 2.5cm	
	延 長	スチールテープ等により測定	両端 2箇所	1 cm	測定表を作成し提出	+ 規定しない - 0	
	平坦性	3 mプロファイルメータにより測定	各レーン毎全延長	1 mm	記録紙及び管理表を作成し提出	2.4mm以下	

1 - 16 植生工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 張 芝 2. 筋 芝	材料の使用数量	使用数量表等により確認	施工完了後		使用数量表等を作成し提出		
	長さ、幅（面積）	スチールテープ等により測定	施工完了後	10cm (0.1m ²)	管理表を作成し提出	+ 規定しない - 0	
	植生状況	観 察	施工完了後、区域全体		観察結果を報告		
3. 播 種 4. 種子吹付	材料の使用数量	使用数量表等により確認	施工完了後		使用数量表等を作成し提出		
	長さ、幅（面積）	スチールテープ等により測定	施工完了後	10cm (0.1m ²)	管理表を作成し提出	+ 規定しない - 0	
	植生状況	☒による。	☒による。		☒による。	☒による。	
5. 植 栽	材料の使用数量	使用数量表等により確認	搬入時、全数		使用数量表等を作成し提出		
	樹高、枝張り幅、幹周り	スチールテープ等により測定	種類毎、搬入後適宜	樹高、枝張り幅 10cm 幹周り 1cm	管理表を作成し提出	+ 規定しない - 0	
	植付け状況	観 察	施工完了後、全本数		観察結果を報告		

2. 土捨工

2-1 浚渫土工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
浚渫土工							1-1浚渫土工を適用する。

3. 海上地盤改良工

3-1 床掘工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. ポンプ床掘 2. グラブ床掘 3. 硬土盤床掘 4. 砕岩床掘 5. バックホウ床掘	水深 (底面) 法面	調査共通仕様書による。又は☒による。 調査共通仕様書による。又は☒による。	測線間隔は☒による。 測線間隔は☒による。	10cm 10cm	平面図に実測値を記入し提出 平面図に実測値を記入し提出	±30cm又は☒による。 外側2m(法面に直角) 内側30cm(法面に直角)又は☒による。	断面図は工事監督員が指示したとき作成し提出

3-2 床掘土工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. 土砂掘削							1-1-1土砂掘削を適用する。
2. 土砂盛土							1-1-2土砂盛土を適用する。

3-3 置換工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. 置換材均し	延長 天端高、天端幅、法面	スチールテープ、間縄、光波測距儀等により測定 陸上部；スチールテープ、レベル、光波測距儀等で測定 水中部；スチールテープ、間縄、レッド又は音響測深機等により測定	施工完了後 測線間隔20m以下測点間隔10m以下 測線間隔20m以下測点間隔20m以下	10cm 天端高1cm 天端幅10cm 10cm	管理図に延長を記入し提出 管理図に天端高、法肩、法尻、天端幅及び法面勾配を記入し提出	+規定しない -0 天端高 ±50cm又は☒による 天端幅、法面は☒による。	様式・出来形3-3-1参照

3 - 4 圧密・排水工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
圧密・排水工							1-2圧密・排水工を適用する。

3 - 5 締固工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
締固工							1-3締固工を適用する。

3 - 6 固化工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
固化工							1-4固化工を適用する。

4 . 基礎工

4 - 1 基礎盛砂工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 . 盛砂均し	延長	スチールテープ、間縄、光波測距儀等により測定	施工完了後	10cm	管理図に延長を記入し提出	+ 規定しない - 0	様式・出来形1-2-2参照
	天端高 天端幅 法面勾配	スチールテープ、間縄、レッド又は音響測深機等により測定	測線間隔20m以下 測点間隔20m以下	10cm	管理図に天端高、法肩、法尻、天端幅及び法面勾配を記入し提出	天端高 ±30cm 天端幅、法面勾配は☒による。	

4 - 2 洗掘防止工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
洗掘防止工							1-5洗掘防止工を適用する。

4 - 3 基礎捨石工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 基礎捨石 (均しを行わない面)	天端高	音響測深機、レッド又はレベル等により測定	測線及び測点間隔は10m以下	10cm	均し出来形図を作成し提出	☒による。	
	法 面	音響測深機、レッド又はレベル等により測定	測線間隔は10m以下測点3点以上、但し、マウンド厚2m以下の場合は2点以上	10cm	均し出来形図を作成し提出	☒による。	
	天端幅	スチールテープ、間縄等により測定	測線間隔は10m以下	10cm	均し出来形図を作成し提出	☒による。	
	延 長	スチールテープ、間縄等により測定	法線上	10cm	均し出来形図を作成し提出	☒による。	
2. 捨石本均し	天端高	レベル又は☒により測定	測線及び測点間隔は10m以下	1 cm	均し出来形図を作成し提出	± 5 cm	様式・出来形4-3-2参照
	天端幅	スチールテープ、間縄等により測定	測線間隔は10m以下	10cm	均し出来形図を作成し提出	+ 規定しない - 10cm	
	延 長	スチールテープ、間縄等により測定	法線上	10cm	均し出来形図を作成し提出	+ 規定しない - 10cm	
3. 捨石荒均し	天端高	音響測深機、レッド又はレベル等により測定	測線及び測点間隔は10m以下	10cm	均し出来形図を作成し提出	注)-1 ±50cm、岸壁前面+0, -20cm又は☒による。異形ブロック据付面(整積)の高さ(法面に直角)±30cm又は☒による。	注)-1 係留施設・護岸・土留壁等の背面については、荒均しを適用しない。
	法 面	音響測深機、レッド又はレベル等により測定	測線間隔は10m以下測点3点以上、但し、マウンド厚2m以下の場合は2点以上	10cm	均し出来形図を作成し提出	注)-2 ±50cm(法面に直角)異形ブロック据付面(整積)の高さ(法面に直角)±30cm又は☒による。	注)-2 係留施設・護岸・土留壁等の背面については、荒均しを適用しない。
	天端幅	スチールテープ、間縄等により測定	測線間隔は10m以下	10cm	均し出来形図を作成し提出	+ 規定しない - 10cm	
	延 長	スチールテープ、間縄等により測定	法線上	10cm	均し出来形図を作成し提出	+ 規定しない - 10cm	

4 - 4 基礎ブロック工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 基礎ブロック製作	幅、高さ、長さ、壁厚	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数	1 cm	管理表を作成し提出	幅 + 2 cm, - 1 cm 高さ + 2 cm, - 1 cm 長さ + 2 cm, - 1 cm 壁厚 ± 1 cm	様式・出来形6-1参照 ブロック(方塊)
	対角線	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数	1 cm	管理表を作成し提出		
	型枠形状寸法(異形ブロック)	観察	型枠搬入後適宜		観察結果を報告		
	ブロック外觀(異形ブロック)	観察	全 数		観察結果を報告		
2. 基礎ブロック据付	法線に対する出入	スチールテープ等により測定	据付後ブロック1個につき2箇所(最下段、最上段)	1 cm	管理表を作成し提出	± 5 cm	
	隣接ブロックとの間隔	スチールテープ等により測定	据付後ブロック1個につき2箇所(最下段、最上段)	1 cm	管理表を作成し提出	ブロック(方塊) 3 cm以下	
	延 長	スチールテープ等により測定	据付完了後、法線上(最上段のみ)	1 cm	管理表を作成し提出		
	天端高	レベル等により測定	据付後ブロック1個につき2箇所(最上段のみ)	1 cm	管理表を作成し提出		

5. 本土工 (ケーソン式)

5-1 ケーソン製作工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. ケーソン製作	摩擦増大用 マット敷設 位置	スチールテープ等によ り確認	始・終端及び変化する箇 所毎	10cm	測定表及び敷設図 を作成し提出	☑による。	
	高さ	スチールテープ等によ り測定	完成時、四隅	1 cm	管理表を作成し提 出	+ 3 cm - 1 cm	様式・出来形5-1-1参照
	幅	スチールテープ等によ り測定	各層完成時に中央部及び 底版と天端は両端	1 cm	管理表を作成し提 出	+ 3 cm - 1 cm	
	長さ	スチールテープ等によ り測定	各層完成時に中央部及び 底版と天端は両端	1 cm	管理表を作成し提 出	+ 3 cm - 1 cm	
	壁厚	スチールテープ等によ り測定	各層完成時、各壁 1 箇所	1 cm	管理表を作成し提 出	± 1 cm	
	底版厚さ	レベル、スチールテー プ等により測定	底版完成時、各室中央部 1 箇所	1 cm	管理表を作成し提 出	+ 3 cm - 1 cm	
	フーチング 高さ	スチールテープ等によ り測定	底版完成時、四隅	1 cm	管理表を作成し提 出	+ 3 cm - 1 cm	
	対角線	スチールテープ等によ り測定	底版完成時及び完成時	1 cm	管理表を作成し提 出	± 5 cm	
	バラスト	レベル等により測定	各室中央部 1 箇所	1 cm	管理表を作成し提 出	砕石・砂 ± 10cm コンクリート ± 5 cm	投入量管理

5-2 ケーソン進水据付工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. ケーソン進水据 付	法線に対す る出入	トランシット及びス チールテープ等により 測定	据付完了後、両端 2 箇所	1 cm	管理表を作成し提 出	防波堤 ケーソ質量 2,000t未満 ± 20cm 2,000t以上 ± 30cm 岸 壁 ケーソ質量 2,000t未満 ± 10cm 2,000t以上 ± 15cm	様式・出来形5-2-1参照
	据付目地間 隔	スチールテープ等によ り測定	据付完了後、天端 2 箇所	1 cm	管理表を作成し提 出	防波堤 ケーソ質量 2,000t未満 20cm以下 2,000t以上 30cm以下 岸 壁 ケーソ質量 2,000t未満 10cm以下 2,000t以上 20cm以下	
	天端高さ	レベルにより測定	据付完了後、四隅 中詰完了時、四隅	1 cm	管理表を作成し提 出		
	延長	スチールテープ等によ り測定	据付完了後、法線上	1 cm	管理表を作成し提 出		

5 - 3 中詰工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
中詰工							1-6中詰工を適用する。

5 - 4 蓋コンクリート工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
蓋コンクリート工							1-7蓋コンクリート工を適用する。

5 - 5 蓋ブロック工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
蓋ブロック工							1-8蓋ブロック工を適用する。

6 . 本体工 (ブロック式)

6 - 1 本体ブロック製作工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1 . 本体ブロック製作	幅、高さ、長さ、壁厚	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数	1 cm	管理表を作成し提出	幅 + 2 cm, - 1 cm 高さ + 2 cm, - 1 cm 長さ + 2 cm, - 1 cm 壁厚 ± 1 cm	様式・出来形6-1参照 L型ブロック セルラーブロック ブロック(方塊)
	対角線	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数	1 cm	管理表を作成し提出		様式・出来形6-1参照 セルラーブロック ブロック(方塊)
	型枠形状寸法(異形ブロック)	観 察	型枠搬入後適宜		観察結果を報告		
	ブロック外観(異形ブロック)	観 察	全 数		観察結果を報告		

6 - 2 本体ブロック据付工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 本体ブロック据付	法線に対する出入	スチールテープ等により測定	据付後ブロック1個につき2箇所(最下段、最上段)	1 cm	管理表を作成し提出	± 5 cm	
	隣接ブロックとの間隔	スチールテープ等により測定	据付後ブロック1個につき2箇所(最下段、最上段)	1 cm	管理表を作成し提出	L型ブロック セルラーブロック 5 cm以下 直立消波ブロック ブロック(方塊) 3 cm以下	
	延 長	スチールテープ等により測定	据付完了後、法線上(最上段のみ)	1 cm	管理表を作成し提出		
	天端高	レベル等により測定	据付後ブロック1個につき2箇所(最上段のみ)	1 cm	管理表を作成し提出		

6 - 3 中詰工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
中詰工							1-6中詰工を適用する。

6 - 4 蓋コンクリート工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
蓋コンクリート工							1-7蓋コンクリート工を適用する。

6 - 5 蓋ブロック工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
蓋ブロック工							1-8蓋ブロック工を適用する。

7. 本体工（場所打式）

7-1 場所打コンクリート工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
場所打コンクリート工							
イ) 防波堤	天端高	レベル等により測定	天端面は1スパン4箇所以上 パラペット頂部は1スパン2箇所以上	1 cm	測定表を作成し提出	天端幅10m以下の場合 は± 2 cm 天端幅10mを超える 場合は+ 5 cm - 2 cm	様式・出来形14-1参照 天端高さの管理項目の選 定は☒による。
	天端幅	スチールテープ等により測定	1スパン3箇所	1 cm	測定表を作成し提出	天端幅10m以下の場合 は± 3 cm 天端幅10mを超える 場合は+ 5 cm - 3 cm	
	延長	スチールテープ等により測定	法線上	1 cm	測定表を作成し提出	+ 規定しない - 0	
	法線に対する出入	トランシット、スチールテープ等により測定	1スパン2箇所	1 cm	測定表を作成し提出	± 5 cm 注) 又は☒による。	
ロ) 岸壁	天端高又は厚さ	レベル、スチールテープ等により測定	1スパン3箇所	1 cm	測定表を作成し提出	± 2 cm	天端高又は厚さの管理項目の選定は☒による。
	天端幅	スチールテープ等により測定	1スパン3箇所	1 cm	測定表を作成し提出	± 2 cm	
	延長	スチールテープ等により測定	法線上	1 cm	測定表を作成し提出	+ 規定しない - 0	
	法線に対する出入	トランシット、スチールテープ等により測定	1スパン2箇所	1 cm	測定表を作成し提出	± 3 cm	
	防舷材ベッド	スチールテープ等により測定	スパン毎	1 cm	測定表を作成し提出		

7-2 水中コンクリート工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
水中コンクリート工							7-1場所打コンクリート工を適用する。

7-3 プレパックドコンクリート工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
プレパックドコンクリート工							7-1場所打コンクリート工を適用する。

7 - 4 水中不分離性コンクリート工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
水中不分離性コンクリート工							7-1場所打コンクリート工を適用する。

8 . 本体工 (捨石・捨ブロック式)

8 - 1 洗掘防止工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
洗掘防止工							1-5洗掘防止工を適用する。

8 - 2 本体捨石工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
本体捨石工							4-3基礎捨石工を適用する。

8 - 3 捨ブロック工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 . 捨ブロック製作	幅、高さ、長さ、壁厚	スチールテープ等により測定	型枠取外し後10個に1個以上測定	1 cm	管理表を作成し提出	幅 + 2 cm, - 1 cm 高さ + 2 cm, - 1 cm 長さ + 2 cm, - 1 cm 壁厚 ± 1 cm	様式・出来形6-1参照 ブロック(方塊)
	対角線	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数10個に1個以上測定	1 cm	管理表を作成し提出		
	型枠形状寸法 (異形ブロック)	観察	型枠搬入後適宜		観察結果を報告		
	ブロック外観 (異形ブロック)	観察	全数		観察結果を報告		
2 . 捨ブロック据付	法線に対する出入	スチールテープ等により測定	据付後ブロック1個につき2箇所(最下段、最上段)	1 cm	管理表を作成し提出	± 5 cm	
	隣接ブロックとの間隔	スチールテープ等により測定	据付後ブロック1個につき2箇所(最下段、最上段)	1 cm	管理表を作成し提出	ブロック(方塊) 3 cm以下	
	延長	スチールテープ等により測定	据付完了後、法線上(最上段のみ)	1 cm	管理表を作成し提出		
	天端高	レベル等により測定	据付後ブロック1個につき2箇所(最上段のみ)	1 cm	管理表を作成し提出		

8 - 4 場所打コンクリート工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
場所打コンクリート工	天端高	レベル等により測定	天端面は1スパン4箇所以上 パラペット頂部は1スパン2箇所以上	1 cm	測定表を作成し提出	天端幅10m以下の場合 は± 2 cm 天端幅10mを超える場合は + 5 cm - 2 cm	様式・出来形14-1参照 天端高さの管理項目の選 定は☒による。
	天端幅	スチールテープ等により測定	1スパン3箇所	1 cm	測定表を作成し提出	天端幅10m以下の場合 は± 3 cm 天端幅10mを超える場合は + 5 cm - 3 cm	
	延 長	スチールテープ等により測定	法線上	1 cm	測定表を作成し提出	+ 規定しない - 0	
	法線に対する出入	トランシット、スチールテープ等により測定	1スパン2箇所	1 cm	測定表を作成し提出	± 5 cm 注) 又は☒による。	

9 . 本體工 (鋼矢板式)

9 - 1 鋼矢板工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
鋼矢板工							1-9鋼矢板工を適用する。

9 - 2 控 工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
控 工							1-10控工を適用する。

10. 本体工（コンクリート矢板式）

10-1 コンクリート矢板工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. コンクリート矢板	矢板壁延長	スチールテープ等により測定（天端付近）	施工中適宜 打込完了時	1 cm	管理表を作成し提出	+ 矢板 1 枚幅 - 0	
	矢板法線に対する出入り	トランシット、スチールテープ等により測定	打込完了時、20枚に 1 枚及び計画法線の変化点	1 cm	管理表を作成し提出	☒による。	全数を目視で確認
	矢板法線に対する傾斜	トランシット、下げ振り、傾斜計等により測定	打込完了時、20枚に 1 枚及び計画法線の変化点	1/1000	管理表を作成し提出	☒による。	
	矢板法線方向の傾斜	トランシット、下げ振り、傾斜計等により測定	施工中適宜 打込完了時（両端部）	1 cm 1/1000	管理表を作成し提出	上下の差が矢板 1 枚幅未満2/100以下	
	矢板天端高	レベルにより測定	打込完了時、20枚に 1 枚	1 cm	管理表を作成し提出	± 5 cm	全数を目視で確認
	矢板継手部の離脱	観察(水中部は潜水土)	全数		観察結果を報告		

10-2 控工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
控工							1-10控工を適用する。

11. 本体工（鋼杭式）

11-1 鋼杭工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
鋼杭工							1-11鋼杭工を適用する。

12. 本体工（コンクリート杭式）

12-1 コンクリート杭工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
コンクリート杭工							1-12コンクリート杭工を適用する。

13. 被覆・根固工

13-1 被覆石工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. 被覆石 (均しを行わない面)	天端面	音響測深機、レッド又はレベル等により測定	測線及び測点間隔は10m以下	10cm	出来形図を作成し提出	☒による。	様式・出来形13-1-1参照
2. 被覆石均し	法面	音響測深機、レッド又はレベル等により測定	測線間隔は10m以下、測点3点以上但し、マウンド厚2m以下の場合は2点以上	10cm	出来形図を作成し提出	±50cm(法面に直角)異形ブロック据付面(整積)の高さ(法面に直角)±30cm又は☒による。	
	天端幅	スチールテープ、間縄等により測定	測線間隔は10m以下	10cm	出来形図を作成し提出	+ 規定しない - 20cm	
	延長	スチールテープ、間縄等により測定	天端中心上	10cm	出来形図を作成し提出	+ 規定しない - 20cm	

13-2 被覆ブロック工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. 被覆ブロック製作	型枠形状寸法(異形ブロック)	観察	型枠搬入後適宜		観察結果を報告		
	ブロック外観(異形ブロック)	観察	全数		観察結果を報告		
2. 被覆ブロック据付	延長	スチールテープ等により測定	据付完了後、法線上(最上段のみ)	1cm	管理表を作成し提出		

13-3 根固ブロック工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. 根固ブロック製作	幅、高さ、長さ、壁厚	スチールテープ等により測定	10個に1個以上測定	1cm	管理表を作成し提出	幅 + 2cm, - 1cm 高さ + 2cm, - 1cm 長さ + 2cm, - 1cm 壁厚 ± 1cm	様式・出来形13-3-1参照
	対角線	スチールテープ等により測定	10個に1個以上測定	1cm	管理表を作成し提出		
2. 根固ブロック据付							13-2-2被覆ブロック据付を適用する。

14. 上部工

14-1 上部コンクリート工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
上部コンクリート工 イ) 防波堤	天端高又は厚さ	レベル等により測定	天端面は1スパン4箇所以上 パラペット頂部は1スパン2箇所以上	1 cm	測定表を作成し提出	天端幅10m以下の場合 は± 2 cm 天端幅10mを超える場合は + 5 cm - 2 cm	様式・出来形14-1参照 天端高さ又は厚さの管理項目の選定は☒による。 注) 本体がケーソンの場合 ケーソン質量 2,000t未満 ±20cm 2,000t以上 ±30cm
	天端幅	スチールテープ等により測定	1スパン3箇所	1 cm	測定表を作成し提出	天端幅10m以下の場合 は± 3 cm 天端幅10mを超える場合は + 5 cm - 3 cm	
	延 長	スチールテープ等により測定	法線上	1 cm	測定表を作成し提出	+ 規定しない - 0	
	法線に対する出入	トランシット、スチールテープ等により測定	1スパン2箇所	1 cm	測定表を作成し提出	± 5 cm 注) 又は☒による。	
ロ) 岸 壁	天端高又は厚さ	レベル、スチールテープ等により測定	1スパン3箇所	1 cm	測定表を作成し提出	± 2 cm	天端高又は厚さの管理項目の選定は☒による。
	天端幅	スチールテープ等により測定	1スパン3箇所	1 cm	測定表を作成し提出	± 2 cm	
	延 長	スチールテープ等により測定	法線上	1 cm	測定表を作成し提出	+ 規定しない - 0	
	法線に対する出入	トランシット、スチールテープ等により測定	1スパン2箇所	1 cm	測定表を作成し提出	± 3 cm	
	防舷材ベッド	スチールテープ等により測定	スパン毎	1 cm	測定表を作成し提出		
ハ) 棧 橋							14-1上部コンクリート工 ロ)岸壁を適用する。 梁(高さ、幅)、床版厚は 型枠検査による。

14 - 2 上部ブロック工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 上部ブロック製作	幅、高さ、長さ、壁厚	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数	1 cm	管理表を作成し提出	幅 + 2 cm, - 1 cm 高さ + 2 cm, - 1 cm 長さ + 2 cm, - 1 cm 壁厚 ± 1 cm	
	対角線	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数	1 cm	管理表を作成し提出		
2. 上部ブロック据付							
イ) 防波堤							14-1上部コンクリート工 イ)防波堤を適用する。
ロ) 岸 壁							14-1上部コンクリート工 ロ)岸壁を適用する。
ハ) 栈橋上部コンクリート							14-1上部コンクリート工 ハ)栈橋を適用する。

15. 付属工

15-1 係船柱工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. 係船柱	天端高	レベルにより測定	据付完了時、中心部、全数	1 cm	管理表を作成し提出	曲柱 ± 2 cm 直柱 ± 2 cm	様式・出来形15-1-1参照
	岸壁前面に対する出入	トランシット、スチールテープ等により測定	据付完了時、全数	1 cm	管理表を作成し提出		
	中心間隔	スチールテープ等により測定	据付完了時、各スパン毎中心部、各基	1 cm	管理表を作成し提出		
	直柱基礎コンクリート(幅)	スチールテープ等により測定	完了時、全数、天端両端	1 cm	管理表を作成し提出		
	(長さ)	スチールテープ等により測定	完了時、全数、前後面	1 cm	管理表を作成し提出		
	(高さ)	レベルにより測定	完了時、全数、中心点	1 cm	管理表を作成し提出		

15-2 防舷材工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. 防舷材	取付高さ	レベル又はスチールテープ等により測定	取付完了時、中心部、全数	1 cm	管理表を作成し提出		様式・出来形15-2-1参照
	中心間隔	スチールテープ等により測定	取付完了時、中心部、全数	1 cm	管理表を作成し提出		

15-3 車止・縁金物工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
車止・縁金物工	天端高	レベルにより測定	取付完了時、中心部、全数	1 cm	管理表を作成し提出	± 3 cm	様式・出来形15-3-1参照
	岸壁前面に対する出入	トランシット、スチールテープ等により測定	取付完了後中心部を1点	1 cm	管理表を作成し提出		
	取付間隔	スチールテープ等により測定	上部工1スパンに2箇所	1 cm	管理表を作成し提出		
	塗装	目視による観察			観察結果を報告		
	警戒色(シマ模様)	スチールテープ等により測定	完了時適宜		確認結果を報告		

15 - 4 防食工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
防食工							1-13防食工を適用する。

15 - 5 付属設備工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
係船環	取付位置	スチールテープ等により測定	取付完了時、中心部、全数	1 cm	管理表を作成し提出		

16 . 消波工

16 - 1 洗掘防止工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
洗掘防止工							1-5洗掘防止工を適用する。

16 - 2 消波ブロック工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1 . 消波ブロック製作	型枠形状寸法（異形ブロック）	観 察	型枠搬入後適宜		観察結果を報告		
	ブロック外観（異形ブロック）	観 察	全 数		観察結果を報告		
2 . 消波ブロック据付	延 長	スチールテープ等により測定	据付完了後、法線上（最上段のみ）	1 cm	管理表を作成し提出		

17. 裏込・裏埋工

17-1 裏込工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. 裏込材 (均しを行わない面)	天端高	レベル、レッドにより測定	測線及び測点間隔は10m以下	陸上 1cm 水中 10cm	出来形図を作成し提出	☒による。	
	法面	レベル、レッドにより測定	測点は3点以上	10cm	出来形図を作成し提出	☒による。	
	天端幅	スチールテープ、間縄等により測定	測線間隔は10m以下	10cm	出来形図を作成し提出	☒による。	
	延長	スチールテープ、間縄等により測定	天端中心上	10cm	出来形図を作成し提出	☒による。	
2. 裏込均し	天端面	レベル、レッドにより測定	測線及び測点間隔は10m以下	陸上 1cm 水中 10cm	出来形図を作成し提出	±20cm	
	法面	レベル、レッドにより測定	測点は3点以上	10cm	出来形図を作成し提出	±20cm (法面に直角)	マット等を使用する場合を含む。
	天端幅	スチールテープ、間縄等により測定	測線間隔は10m以下	10cm	出来形図を作成し提出	+ 規定しない - 10cm	
	延長	スチールテープ、間縄等により測定	天端中心上	10cm	出来形図を作成し提出	+ 規定しない - 10cm	
3. 吸出し防止材	敷設位置	スチールテープ、間縄等により測定	始、終端及び変化する箇所毎並びに20mに1箇所以上	10cm	測定表及び敷設図を作成し提出	☒による。	様式・出来形1-5-1参照 アスファルトマット、繊維系マット、合成樹脂系マット
	重ね幅	スチールテープ等により測定	1枚に2点	1cm	測定表及び敷設図を作成し提出	50cm以上(アスファルトマット・繊維系マット) 30cm以上(合成樹脂系マット)	
	延長	スチールテープ、間縄等により測定	マットの中心を区間毎及び全長	10cm	測定表及び敷設図を作成し提出	+ 規定しない - 10cm	

17-2 裏埋工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
裏埋工	地盤高 (陸上部)	レベル等により測定	測線間隔20m以下 測点間隔20m以下	1cm	平面図に実測値を記入し提出	☒による。	変化点は測定する。
	(水中部)	レベル、レッド及び音響測深機等により測定	測線間隔20m以下 測点間隔20m以下	10cm	平面図に実測値を記入し提出	☒による。	変化点は測定する。

17-3 裏埋土工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. 土砂掘削							1-1-1土砂掘削を適用する。
2. 土砂盛土							1-1-2土砂盛土を適用する。

18. 陸上地盤改良工

18-1 圧密・排水工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
圧密・排水工							1-2圧密・排水工を適用する。

18-2 締固工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
締固工							1-3締固工を適用する。

18-3 固化工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
固化工							1-4固化工を適用する。

19. 土工

19-1 掘削工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. 土砂掘削							1-1-1土砂掘削を適用する。

19-2 盛土工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. 土砂盛土							1-1-2土砂盛土を適用する。

19-3 路床盛土工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. 路床盛土	高さ	レベル等により測定	舗装は中心及び両端部の3点を延長20mに1箇所、道路舗装は中心及び両端部の3点を延長40mに1箇所	1 cm	測定表を作成し提出	± 5 cm	
	幅	スチールテープ等により測定	舗装は延長20mに1箇所、道路舗装は延長40mに1箇所	1 cm	測定表を作成し提出	+ 規定しない - 10cm	
	延長	スチールテープ等により測定	両端2箇所	1 cm	測定表を作成し提出	+ 規定しない - 0	

19 - 4 法面工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 法 面							1-1-1土砂掘削、1-1-2土砂盛土及び1-16植生工を適用する。

20. 舗装工

20 - 1 コンクリート舗装工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
コンクリート舗装工							1-14コンクリート舗装工を適用する。

20 - 2 アスファルト舗装工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
アスファルト舗装工							1-15アスファルト舗装工を適用する。

21. 維持補修工

21 - 1 維持塗装工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 係船柱塗装	塗装箇所	目視（承諾された図面より確認）	塗装完了後、全数		確認結果を提出	☒による。	
2. 車止塗装							
イ) 鋼 製	塗装箇所	目視（承諾された図面より確認）	塗装完了後、全数		確認結果を提出	☒による。	
ロ) その他	塗装箇所	目視（承諾された図面より確認）	塗装完了後、全数		確認結果を提出	☒による。	
3. 縁金物塗装							21-1-2車止塗装を適用する。

21 - 2 防食工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
防食工							1-13防食工を適用する。

22. 構造物撤去工

22-1 取壊し工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. コンクリート取壊し	外観	目視による観察	全数		観察結果を報告		

22-2 撤去工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. 水中コンクリート撤去	幅、高さ、延長	トランシット、スチールテープ等により測定	☒による。	☒による。	管理表を作成し提出	☒による。	
	外観	潜水土による観察	全数		観察結果を報告		
2. 鋼矢板等切断撤去	形状寸法	スチールテープ等により測定	全数	1 mm	測定表を作成し提出	☒による。	
	外観	目視又は潜水土による観察	全数		観察結果を報告		
3. 腹起・タイ材撤去	形状寸法	スチールテープ等により測定	全数	☒による。	測定表を作成し提出	☒による。	
	外観	目視又は潜水土による観察	全数		観察結果を報告		
4. 舗装版撤去	幅、高さ、延長	トランシット、スチールテープ等により測定	☒による。	☒による。	管理表を作成し提出	☒による。	
	外観	目視による観察	全数		観察結果を報告		
5. 石材撤去	幅、高さ、延長	トランシット、スチールテープ等により測定	☒による。	☒による。	管理表を作成し提出	☒による。	
	外観	目視又は潜水土による観察	全数		観察結果を報告		
6. ケーソン撤去	形状寸法	スチールテープ等により測定	全数	☒による。	測定表を作成し提出	☒による。	
	外観	目視又は潜水土による観察	全数		観察結果を報告		
7. ブロック撤去	形状寸法	スチールテープ等により測定	全数	☒による。	測定表を作成し提出	☒による。	
	外観	目視又は潜水土による観察	全数		観察結果を報告		
8. 鋼矢板・H形鋼杭引抜き撤去	形状寸法	スチールテープ等により測定	全数	1 mm	測定表を作成し提出	☒による。	
	外観	目視又は潜水土による観察	全数		観察結果を報告		

23. 仮設工

23-1 仮設鋼矢板工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. 仮設鋼矢板・H形鋼杭							1-9-2鋼矢板 1)鋼矢板を適用する。

23-2 仮設鋼管杭・鋼管矢板工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. 先行掘削							1-9-1先行掘削を適用する。
2. 仮設鋼管杭・鋼管矢板工							1-9-2鋼矢板式 2)鋼管矢板及び1-11-2鋼杭を適用する。

23-3 仮設道路工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. 仮設道路工							1-14コンクリート舗装工及び1-15アスファルト舗装工を適用する。

24. 雑工

24-1 現場鋼材溶接工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. 現場鋼材溶接	形状寸法 (のど厚、脚長、溶接長等)	スチールテープ、ノギス、溶接ゲージ等により測定	適宜	1 mm	測定表を作成し提出	☒による。	様式・出来形24-1-1参照
	ひずみ	目視による観察	全数		観察結果を報告		
	有害な欠陥の有無	目視による観察	適宜		観察結果を報告		
2. 被覆溶接(水中)	形状寸法 (のど厚、脚長、溶接長等)	スチールテープ、ノギス、溶接ゲージ等により測定	適宜	1 mm 溶接長は 1 cm	測定表を作成し提出	☒による。	
	外観	潜水士による観察	全数		観察結果を報告		
3. スタッド溶接(水中)							24-1-2被覆溶接(水中)を適用する。

24 - 2 現場鋼材切断工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 現場鋼材切断							
イ) 陸上現場切断	形状寸法	スチールテープ等により測定	全 数	1 mm	測定表を作成し提出	☒による。	
	外 観	目視による観察	全 数		観察結果を報告		
ロ) 水中切断	形状寸法	スチールテープ等により測定	全 数	1 mm	測定表を作成し提出	☒による。	
	外 観	目視又は潜水土による観察	全 数		観察結果を報告		

24 - 3 その他雑工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 清 掃	幅、長さ、延長	スチールテープ等により測定	全 数	1 mm	測定表を作成し提出	☒による。	
	外 観	目視又は潜水土による観察	全 数		観察結果を報告		
2. 削 孔	形状寸法	スチールテープ等により測定	全 数	1 mm	測定表を作成し提出	☒による。	
	外 観	目視又は潜水土による観察	全 数		観察結果を報告		

25. 浚渫工

25 - 1 ポンプ浚渫工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. ポンプ浚渫	水 深 (底面)	業務共通仕様書による。又は☒による。	☒による。	10cm	業務共通仕様書2-2-5 平面図に実測値を記入し提出	+ 0 - 規定しない又は☒による。	様式・出来形25-1参照 + ; 設計値より浅いことをいう。 - ; 設計値より深いことをいう。
	(法面)	☒検測方法による。	測線間隔は☒による。	10cm	業務共通仕様書2-2-5 平面図に実測値を記入し提出		

25 - 2 グラブ浚渫工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. グラブ浚渫							25-1-1ポンプ浚渫を適用する。

25 - 3 硬土盤浚渫工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 硬土盤浚渫							25-1-1ポンプ浚渫を適用する。

25 - 4 岩盤浚渫工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1 . 砕岩浚渫							25-1-1ポンプ浚渫を適用する。

25 - 5 バックホウ浚渫工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1 . バックホウ浚渫							25-1-1ポンプ浚渫を適用する。

25 - 6 浚渫土工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
浚渫土工							1-1浚渫土工を適用する。

26 . 埋立工

26 - 1 固化工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
固化工							1-4固化工を適用する。

26 - 2 埋立土工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1 . 土砂掘削							1-1-1土砂掘削を適用する。
2 . 土砂盛土							1-1-2土砂盛土を適用する。

27. 道路舗装工

27-1 コンクリート舗装工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
コンクリート舗装工							1-14コンクリート舗装工を適用する。

27-2 アスファルト舗装工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
アスファルト舗装工							1-15アスファルト舗装工を適用する。

27-3 道路付属工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. 縁石	高さ	レベルにより測定	工事監督員の指示による。	1 cm	測定表を作成し提出	± 3 cm	
	総延長	スチールテープ等により測定	図面に記載する箇所	1 cm	測定表を作成し提出	+ 規定しない - 5 cm	
2. 区画線及び道路標示	幅	スチールテープ等により測定	工事監督員の指示による。	1 cm	測定表を作成し提出	± 1 cm	
	長さ	スチールテープ等により測定	工事監督員の指示による。	1 cm	測定表を作成し提出	± 10cm	
3. 道路標識	高さ	スチールテープ等により測定	1箇所に1回	1 cm	測定表を作成し提出	± 5 cm	
4. 防護柵	高さ	スチールテープ等により測定	工事監督員の指示による。	1 cm	測定表を作成し提出	+ 3 cm - 2 cm	
	総延長	スチールテープ等により測定	図面に記載する箇所	1 cm	測定表を作成し提出	+ 規定しない - 10cm	

28. 緑地工

28-1 植生工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
植生工							1-16植生工を適用する。

土砂掘削出来形管理表

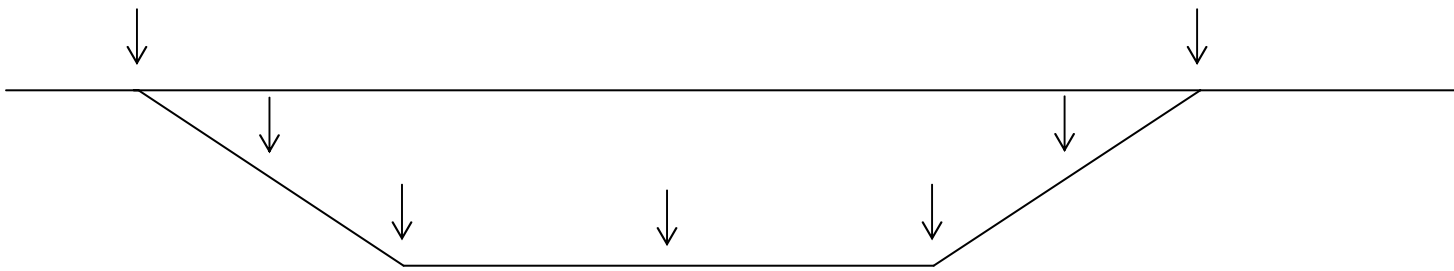
様式・出来形1-1-1

平成 年 月 日

工事名: _____

主任技術者(監理技術者) _____

測点	種別	高さ						幅			延長		
		設計値	測定値	差	設計値	測定値	差	設計値	測定値	差	線上	法線上	線上
NO.								~	~	~	NO.	NO.	NO.
NO.											∟	∟	∟
NO.													

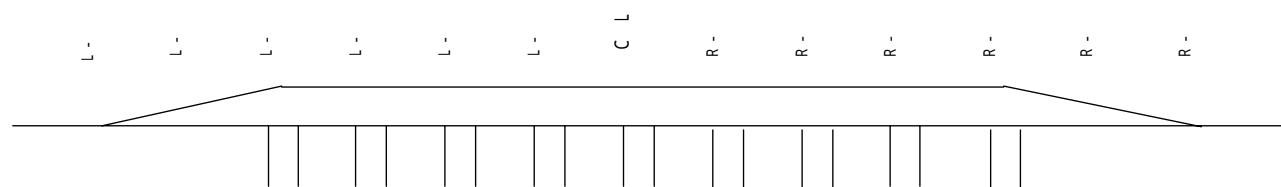


敷砂出来形管理表

工事名: _____

主任技術者(監理技術者) _____

測点	種別	天 端 高										天 端 幅			延 長						
		L-50m	L-40m	L-30m	L-20m	L-10m	CL	R-10	R-20	R-30	R-40	R-50	港外法面	天端港外	天端港内	港内法面	港外側	法線上	港内側		
NO.	設計値 測定値 差																	NO.	NO.	NO.	
NO. + .	設計値 測定値 差																		.	.	.
NO.	設計値 測定値 差																				
NO.	設計値 測定値 差																		E	E	E
NO. + .	設計値 測定値 差																		.	.	.
NO.	設計値 測定値 差																				
NO.	設計値 測定値 差																				
NO.	設計値 測定値 差																				
NO. + .	設計値 測定値 差																		NO.	NO.	NO.
NO.	設計値 測定値 差																				
NO.	設計値 測定値 差																				
NO.	設計値 測定値 差																		E	E	E
NO.	設計値 測定値 差																		.	.	.
NO.	設計値 測定値 差																				
NO.	設計値 測定値 差																				
NO.	設計値 測定値 差																				
NO.	設計値 測定値 差																				
NO.	設計値 測定値 差																		NO.	NO.	NO.



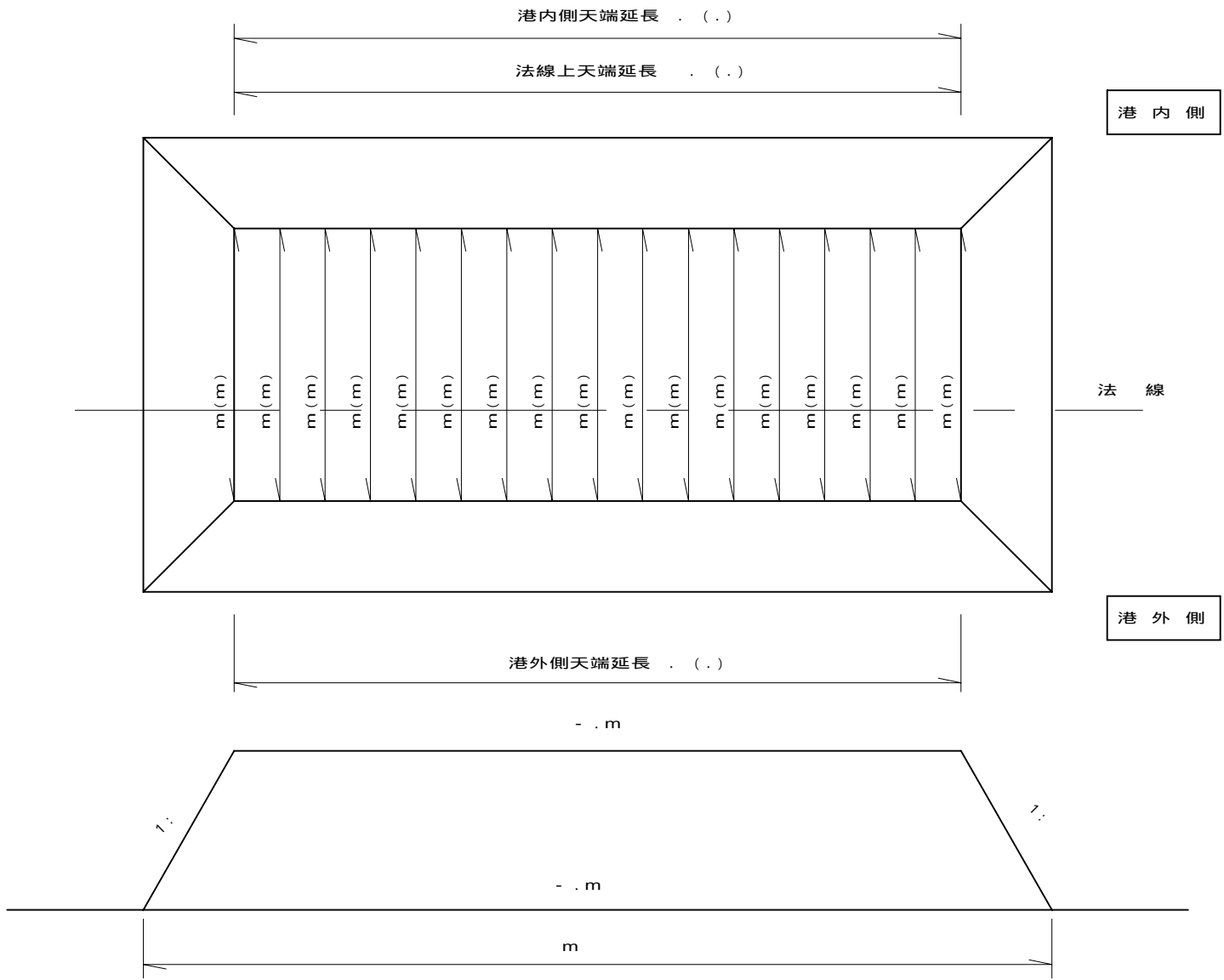
工事名: _____

敷砂出来形管理図

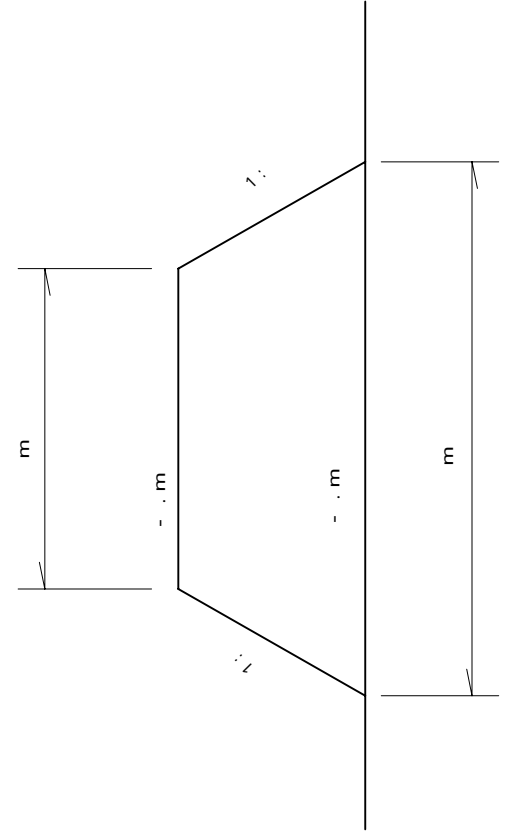
様式・出来形 1 - 2 - 2(2)

敷砂 平面図

- NO. 0
- NO. 1
- NO. 2
- NO. 3
- NO. 4
- NO. 5
- NO. 6
- NO. 7
- NO. 8
- NO. 9
- NO. 10
- NO. 11
- NO. 12
- NO. 13
- NO. 14
- NO. 15
- NO. 16
- NO. 17
- NO. 18
- NO. 19
- NO. 20



標準断面図



凡 例

() : 設計値

実 数 : 実測値

サンドコンパクションパイル出来形管理表

平成 年 月 日

工事名: _____

主任技術者(監理技術者) _____

杭列	杭番号	1			2			3			4			5		
		天端高	先端深度	杭長	天端高	先端深度	杭長	天端高	先端深度	杭長	天端高	先端深度	杭長	天端高	先端深度	杭長
A列杭	設計値															
	測定値															
	差															
		変位置X	変位置Y	偏芯量	変位置X	変位置Y	偏芯量	変位置X	変位置Y	偏芯量	変位置X	変位置Y	偏芯量	変位置X	変位置Y	偏芯量
	設計値															
	測定値															
差																

杭列	杭番号	1			2			3			4			5		
		天端高	先端深度	杭長	天端高	先端深度	杭長	天端高	先端深度	杭長	天端高	先端深度	杭長	天端高	先端深度	杭長
B列杭	設計値															
	測定値															
	差															
		変位置X	変位置Y	偏芯量	変位置X	変位置Y	偏芯量	変位置X	変位置Y	偏芯量	変位置X	変位置Y	偏芯量	変位置X	変位置Y	偏芯量
	設計値															
	測定値															
差																

杭列	杭番号	1			2			3			4			5		
		天端高	先端深度	杭長	天端高	先端深度	杭長	天端高	先端深度	杭長	天端高	先端深度	杭長	天端高	先端深度	杭長
列杭	設計値															
	測定値															
	差															
		変位置X	変位置Y	偏芯量	変位置X	変位置Y	偏芯量	変位置X	変位置Y	偏芯量	変位置X	変位置Y	偏芯量	変位置X	変位置Y	偏芯量
	設計値															
	測定値															
差																

杭列	杭番号	1			2			3			4			5		
		天端高	先端深度	杭長	天端高	先端深度	杭長	天端高	先端深度	杭長	天端高	先端深度	杭長	天端高	先端深度	杭長
列杭	設計値															
	測定値															
	差															
		変位置X	変位置Y	偏芯量	変位置X	変位置Y	偏芯量	変位置X	変位置Y	偏芯量	変位置X	変位置Y	偏芯量	変位置X	変位置Y	偏芯量
	設計値															
	測定値															
差																

砂投入管理表

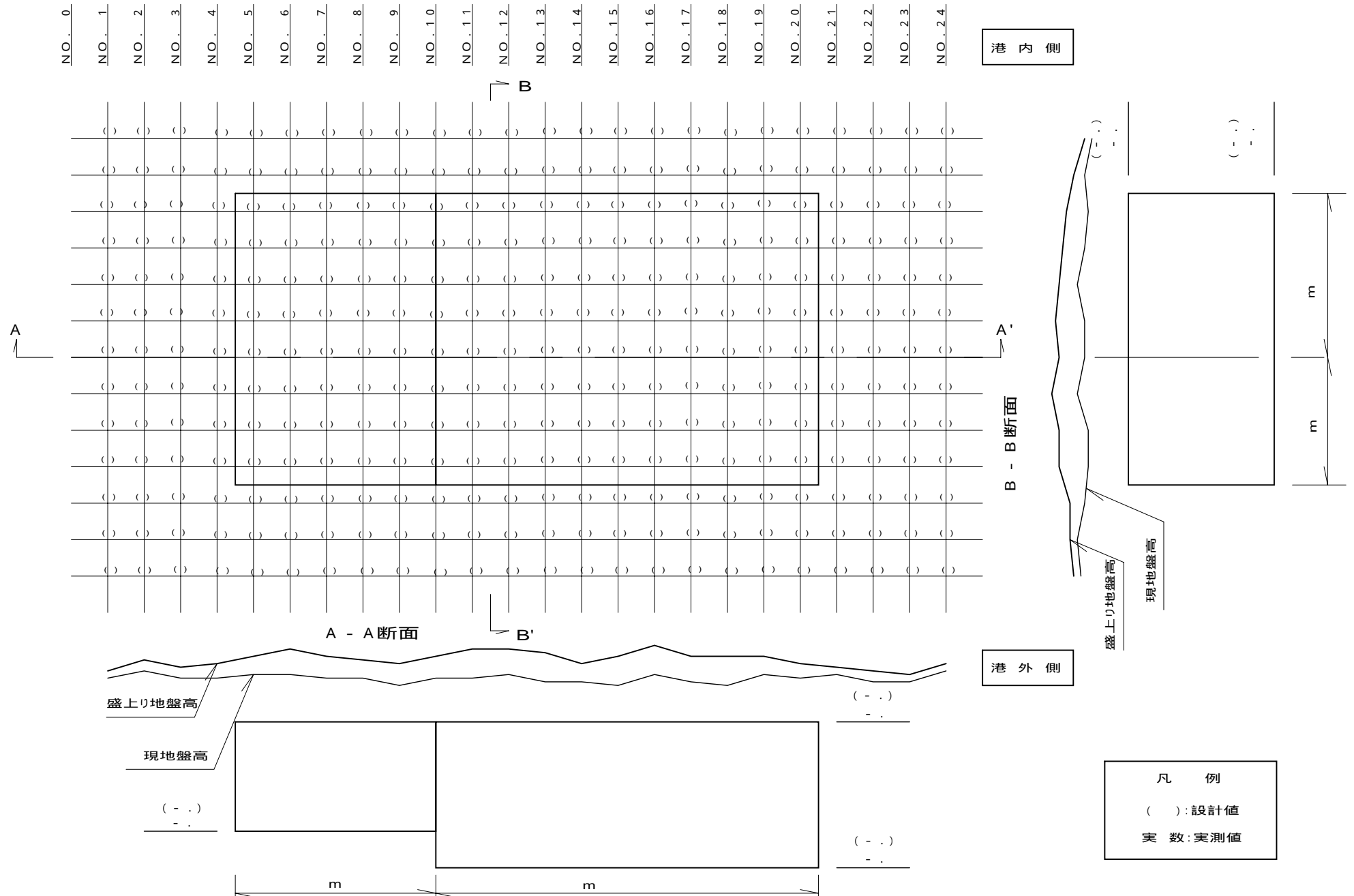
工事名: _____

主任技術者(監理技術者) _____

打設杭NO	SCP部					SD部					全砂量				
	設計		実施		累計打設量	設計		実施		累計打設量	設計		実施		累計打設量
	打設長	打設量	打設長	打設量		打設長	打設量	打設長	打設量		打設長	打設量	打設長	打設量	
A - 1															
A - 2															
-															
-															
-															
-															
-															
計															

締固工 深浅図

平面図



深層混合処理杭出来形管理表

工事名: _____

主任技術者(監理技術者) _____

NO.	打設位置		杭出来形			スラリー量		NO.	打設位置		杭出来形			スラリー量	
	X方向	Y方向	天端高	先端深度	改良長	総吐出量	1m当り		X方向	Y方向	天端高	先端深度	改良長	総吐出量	1m当り
	設計値								設計値						
	実測値								実測値						
	差								差						

深層混合処理杭鉛直度管理表

工事名: _____

主任技術者(監理技術者) _____

NO.	測定深度	鉛 直 度				NO.	測定深度	鉛 直 度				NO.	測定深度	鉛 直 度			
		(X 方向)		(Y 方向)				(X 方向)		(Y 方向)				(X 方向)		(Y 方向)	
		分	秒	分	秒			分	秒	分	秒			分	秒	分	秒

洗掘防止マット出来形管理表

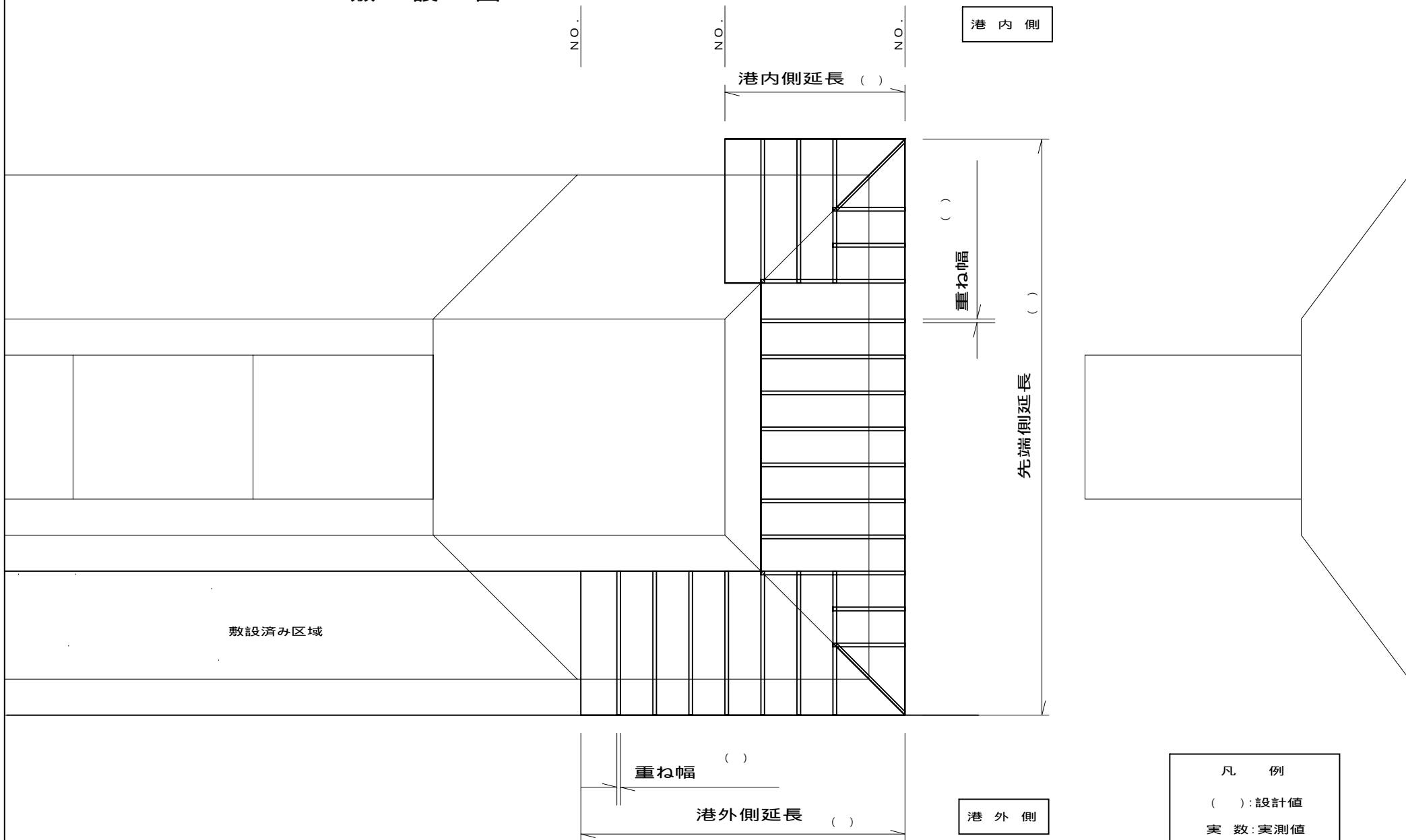
工事名: _____

主任技術者(監理技術者) _____

マットNO.	敷 設 月 日	測 定 値				備 考
		敷設位置	重ね幅	敷設幅	延 長	
	設計値					
	実測値					
	差					
	設計値					
	実測値					
	差					
	設計値					
	実測値					
	差					
	設計値					
	実測値					
	差					
	設計値					
	実測値					
	差					
	設計値					
	実測値					
	差					
	設計値					
	実測値					
	差					
	設計値					
	実測値					
	差					
	設計値					
	実測値					
	差					
	設計値					
	実測値					
	差					
	設計値					
	実測値					
	差					

洗掘防止マット出来形管理図

敷設図



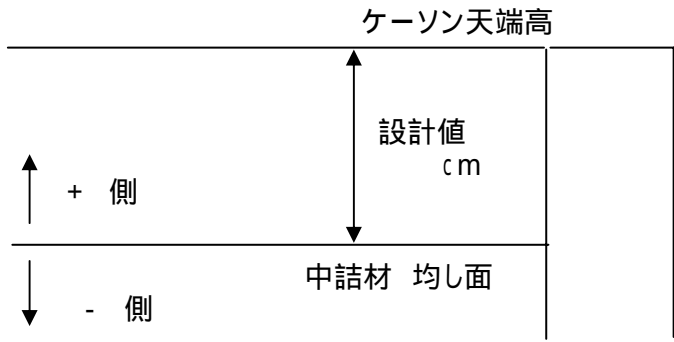
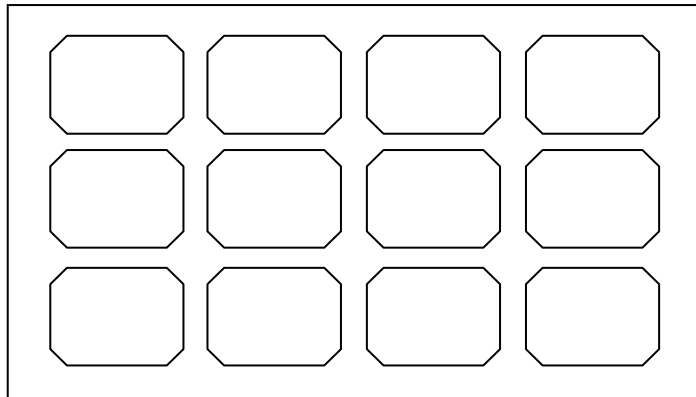
砂・石材中詰出来形管理表

平成 年 月 日

工事名: _____

主任技術者(監理技術者) _____

測定位置	ケーソン天端からの値			測定位置	ケーソン天端からの値		
	実測値	設計値	差		実測値	設計値	差



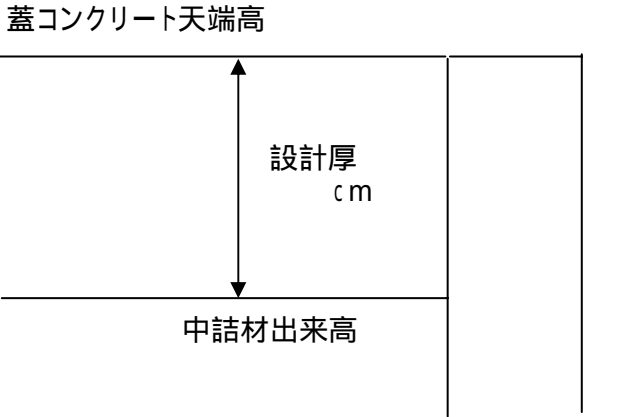
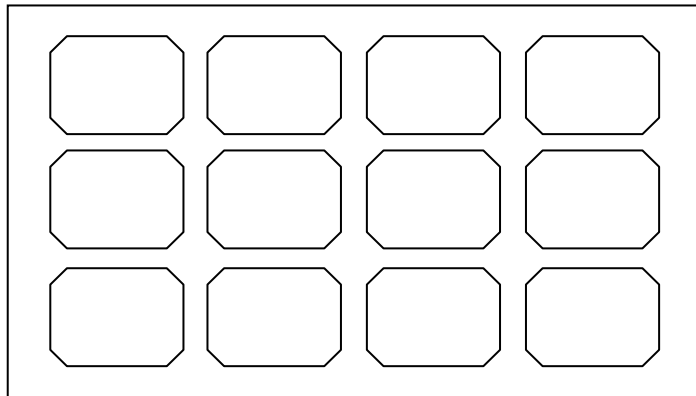
蓋コンクリート出来形管理表

平成 年 月 日

工事名: _____

主任技術者(監理技術者) _____

測定位置	ケーソン天端からの値			測定位置	ケーソン天端からの値		
	実測値	設計値	差		実測値	設計値	差



鋼矢板出来形管理表

工事名: _____

主任技術者(監理技術者) _____

番 号	長 さ (m)	打設 年月日	矢板天端高 (m)			矢板先端高 (m)			矢板法線に対する出入り (mm)			矢板法線に 対する傾斜 実測値(cm)	矢板法線方向 の傾斜 実測値(1/1000)	備 考	
			設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差				

腹起出来形管理表

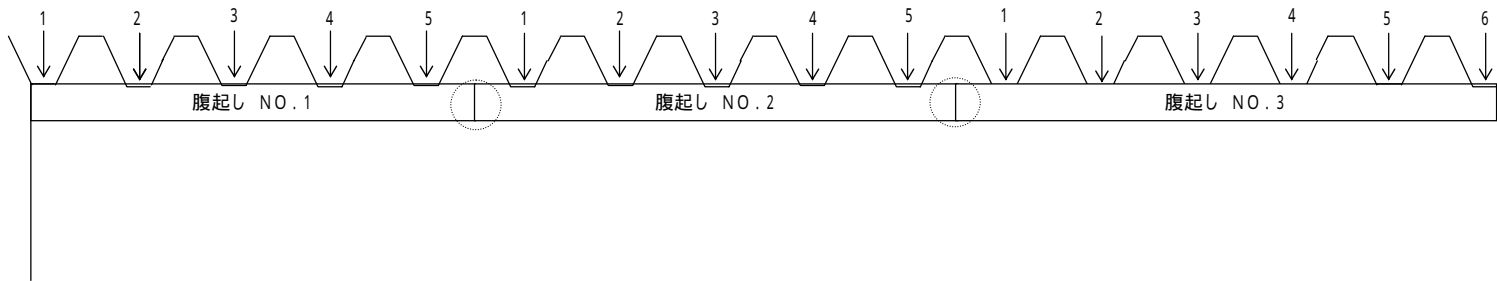
様式・出来形1-10-5
平成 年 月 日

主任技術者(監理技術者)

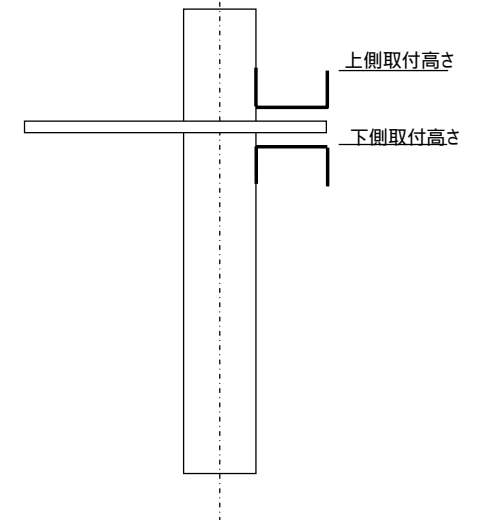
測点	種別	取付高さ		取付長さ	継手の状況
		上側	下側		
NO.1	始点側	設計値			/
		測定値			
		差			
	終点側	設計値			
		測定値			
		差			
NO.2	始点側	設計値			
		測定値			
		差			
	終点側	設計値			
		測定値			
		差			
NO.3	始点側	設計値			
		測定値			
		差			
	終点側	設計値			
		測定値			
		差			

腹起し NO	位置 ボルト NO	ボルトの取付状況	矢板との密着状況	備考
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
NO.2	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
NO.3	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			

平面図



断面図



タイ材出来形管理表

工事名: _____

主任技術者(監理技術者) _____

海側矢板(杭)部

取付番号	取付高さ	水平度	支保材の 天端高	矢板法線に対する 取付角度	矢板法線に対する 取付間隔	定着ナットの締付け
NO.1						
NO.2						
NO.						
NO.						
NO.						
NO.						

陸側控矢板(杭)部

取付番号	取付高さ	水平度	支保材の 天端高	矢板法線に対する 取付角度	矢板法線に対する 取付間隔	定着ナットの締付け
NO.1						
NO.2						
NO.						
NO.						
NO.						
NO.						

鋼杭打込記録

工事名: _____

主任技術者(監理技術者) _____

打設年月日		標高 (m)	50cmごとの 打撃回数 (回)	累計打撃回 数 (回)	50cmごとの 平均貫入量 (cm)	リバウンド量 (cm)	ラム落下高 (m)	摘 要
杭 番号	外 径							
	杭 長							
	板 厚							
	メーカー							
	打込み時間							
	杭打機 名称							
	型 式							
	全 重 量							
	ラム 重 量							
打止管理		設計値	実測値					
		天端高(m)						
		先端深度(m)						
		地盤高(m)						
		根入長(m)						
		総打撃回数						
		最終貫入量(S)						
許容 支持力		設計値	実測値					
許容 支持力 算定式	$R_u = \frac{ef \times 2WH}{S + 1/2K}$ ef:ハンマーの効率=0.5 H:ハンマーの落下高(m) W:ハンマーの重量(kN)							

鋼杭出来形管理表

工事名: _____

主任技術者(監理技術者) _____

番 号	長 さ (m)	打設 日 年月	杭 頭 天 端 高 (m)			杭 先 端 高 (m)			杭 の 傾 斜 (度)			備 考
			設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	

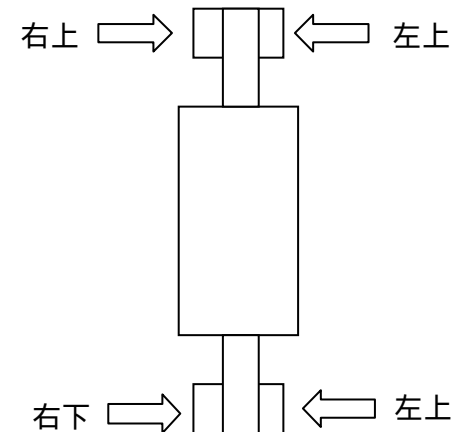
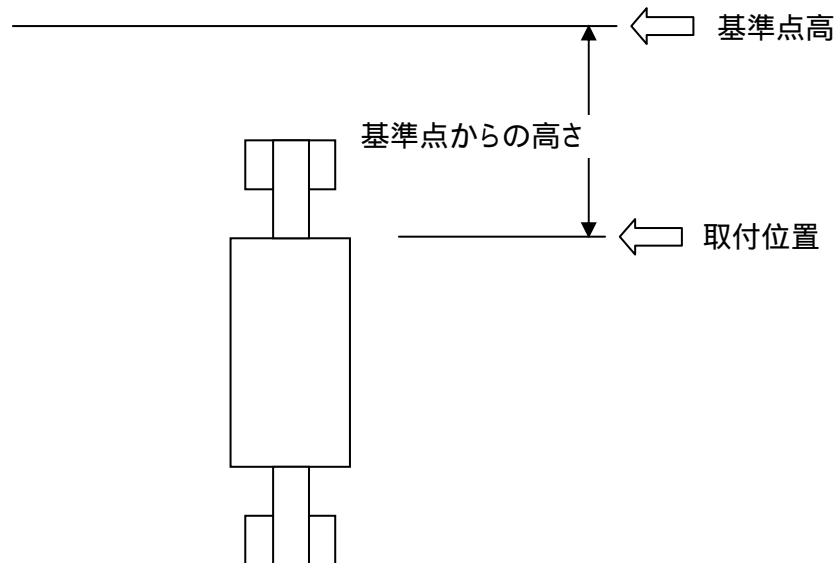
電気防食出来形管理表

平成 年 月 日

工事名: _____

主任技術者(監理技術者) _____

陽極NO	陽 極 取 付							溶 接 部							
	取付位置			基準点からの高さ				溶 接 長				脚 長			
	設計値	実測値	差	基準点高	設計値	実測値	差	右上	左上	右下	左下	右上	左上	右下	左下

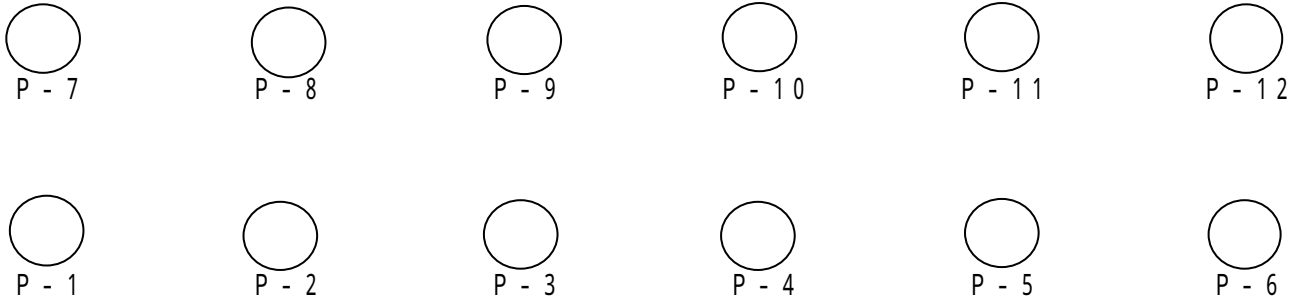
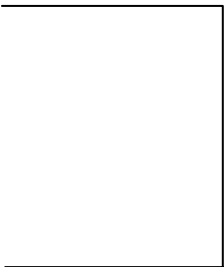


電気防食電位測定管理表

工事名: _____

主任技術者(監理技術者) _____

測定水深	測定位置												備考		
	P-1	P-2	P-3	P-4	P-5	P-6	P-7	P-8	P-9	P-10	P-11	P-12			

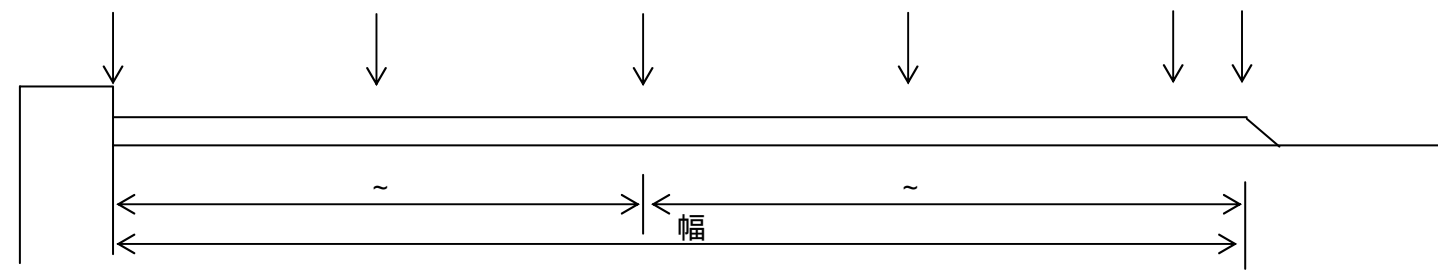


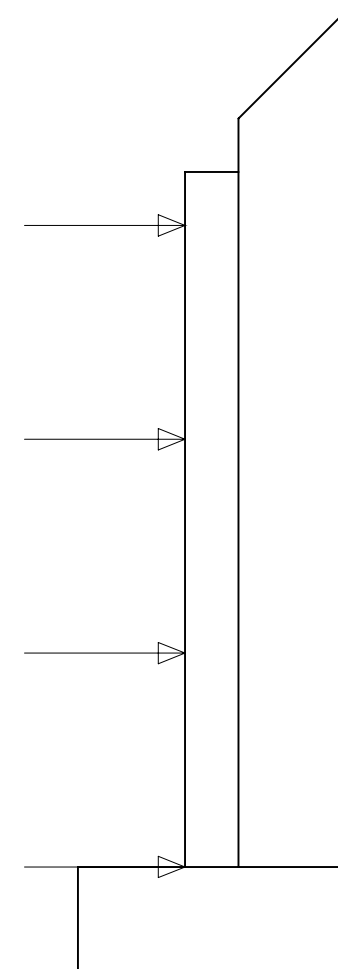
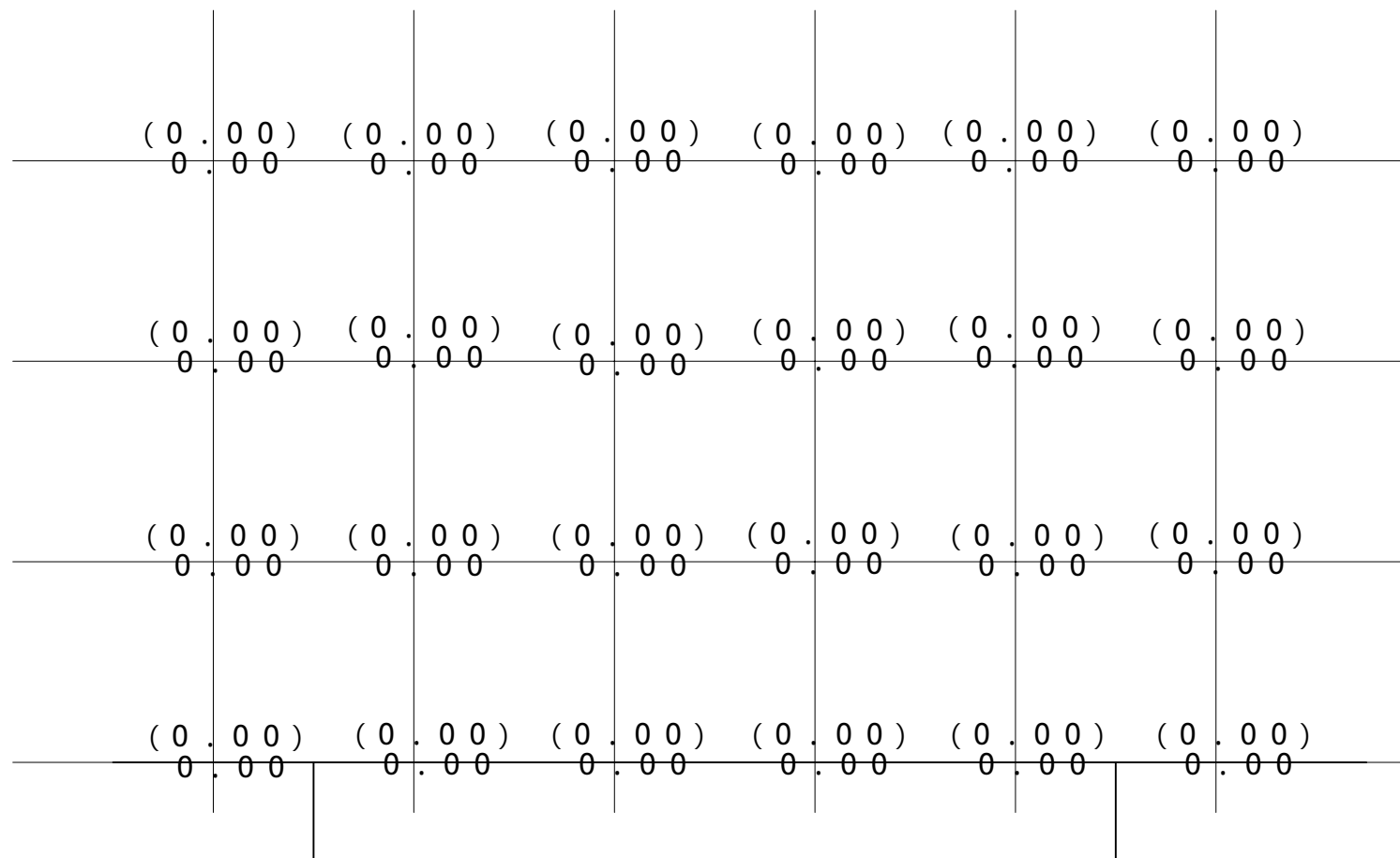
路盤出来形管理表

工事名: _____

主任技術者(監理技術者) _____

測点	種別	高さ						幅			延長		
		路盤設計厚	路床高	路盤高	厚さ	線上	法線上	線上	線上	法線上	線上		
NO.							~ m	~ m	~ m	~ m	~ m	~ m	
NO.													
NO. +													
NO.													





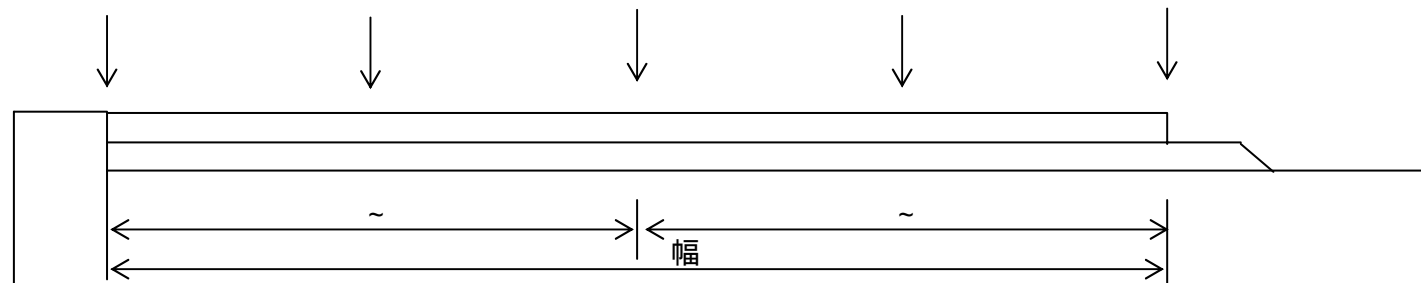
凡 例
(): 設計値
実 数: 実測値

舗装出来形管理表

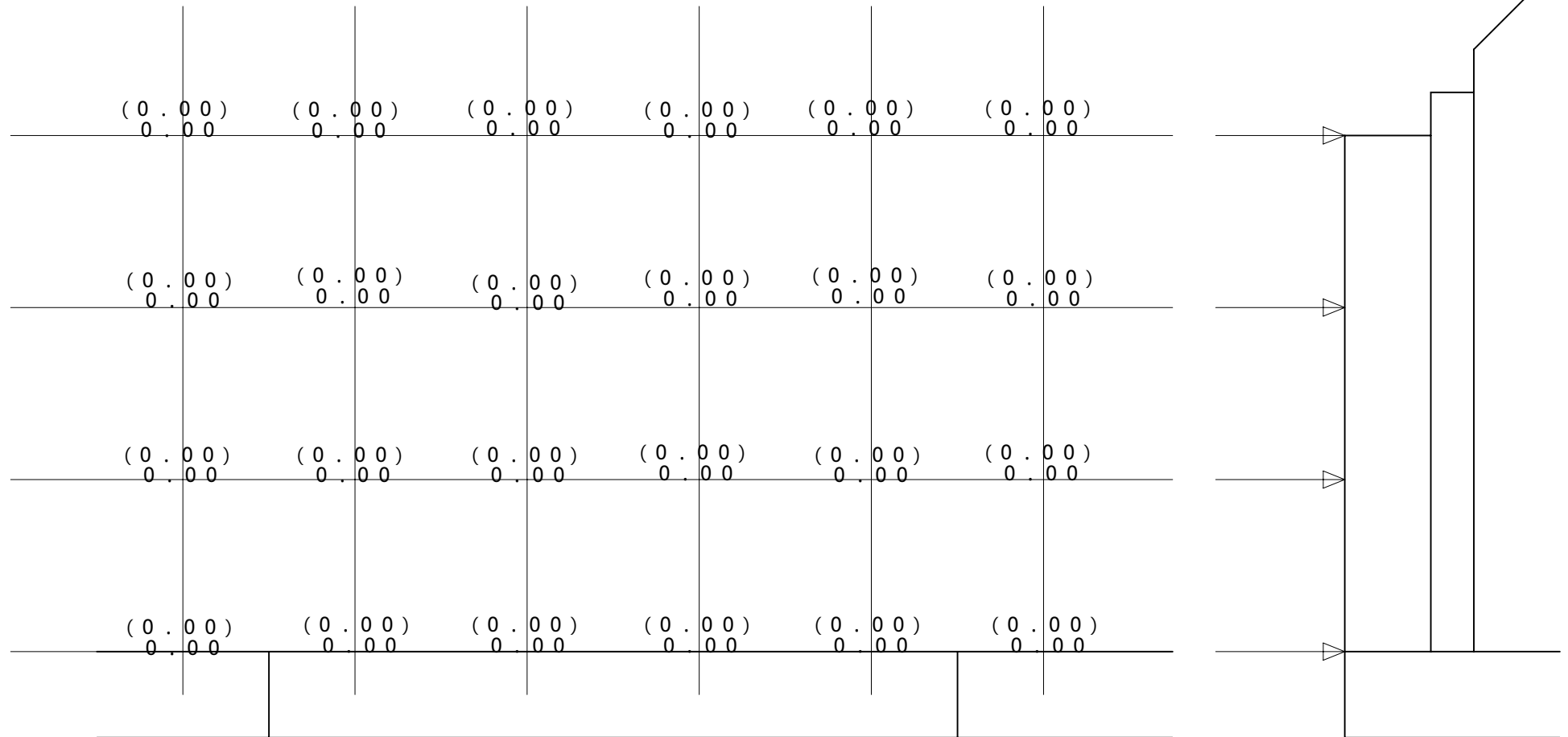
工事名: _____

主任技術者(監理技術者) _____

測点 種別	種別	高 さ						幅			延 長		
		舗装設計厚	路盤高	天端高	厚さ			~	~	~	線上 m	法線上 m	線上 m
NO.													
NO.													
NO. +													
NO.													



舗装出来形管理図



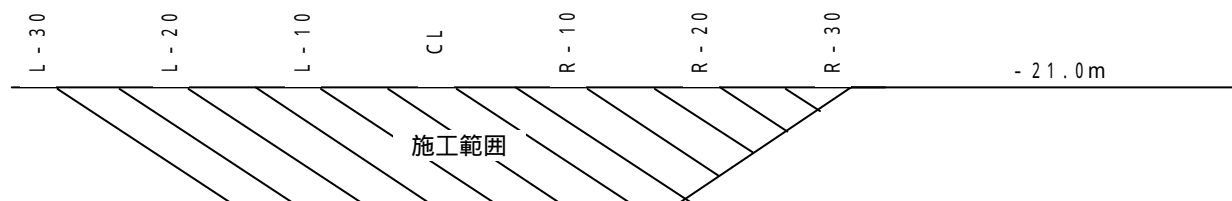
凡 例
(): 設計値
実 数: 実測値

置換材出来形管理表

工事名: _____

主任技術者(監理技術者) _____

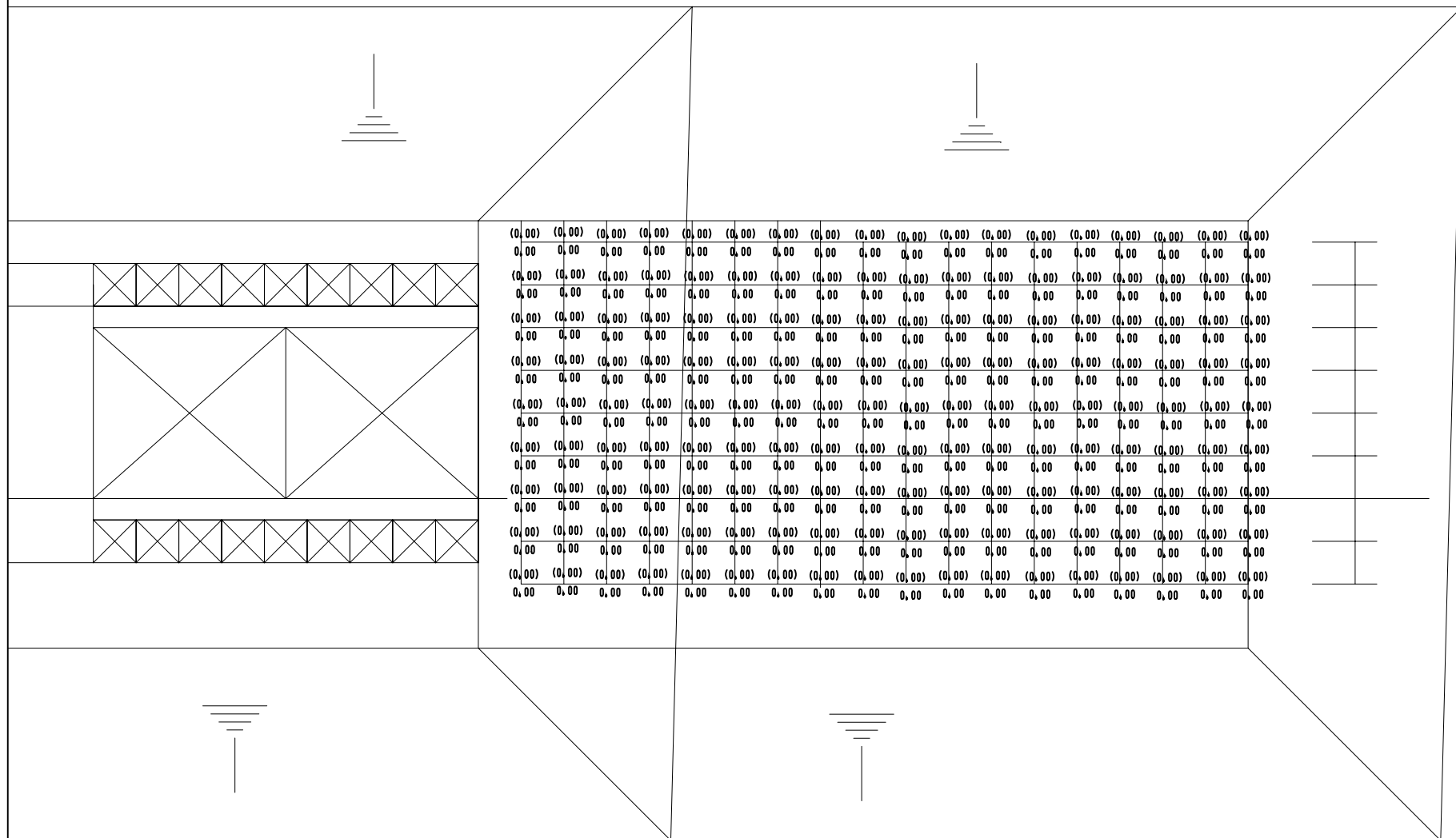
測点	種別	天 端 高							天 端 幅		延 長			
		L - 30m	L - 20m	L - 10m	CL	R - 10m	R - 20m	R - 30m	港外側	港内側	港外側	法線上	港内側	
NO.	設計値													
	測定値											NO.	NO.	NO.
	差											}	}	}
NO. + .	設計値													
	測定値													
	差													
NO.	設計値													
	測定値													
	差													
NO. + .	設計値													
	測定値													
	差													
NO.	設計値													
	測定値											ε	ε	ε
	差													
NO. + .	設計値													
	測定値													
	差													
NO.	設計値													
	測定値													
	差													
NO.	設計値													
	測定値													
	差													
NO.	設計値													
	測定値													
	差													
NO.	設計値													
	測定値											NO.	NO.	NO.
	差													



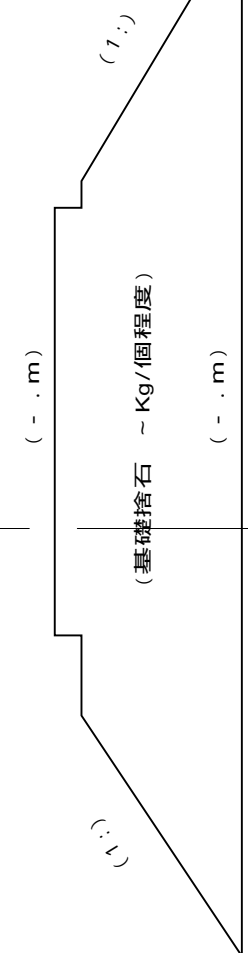
基礎石均し出来形管理図(1)

平面図

港内側



(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)
0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)
0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)
0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)
0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)
0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)
0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)
0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)
0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)
0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00



(-.m)

(基礎捨石 ~ Kg/個程度)

(-.m)

港外側

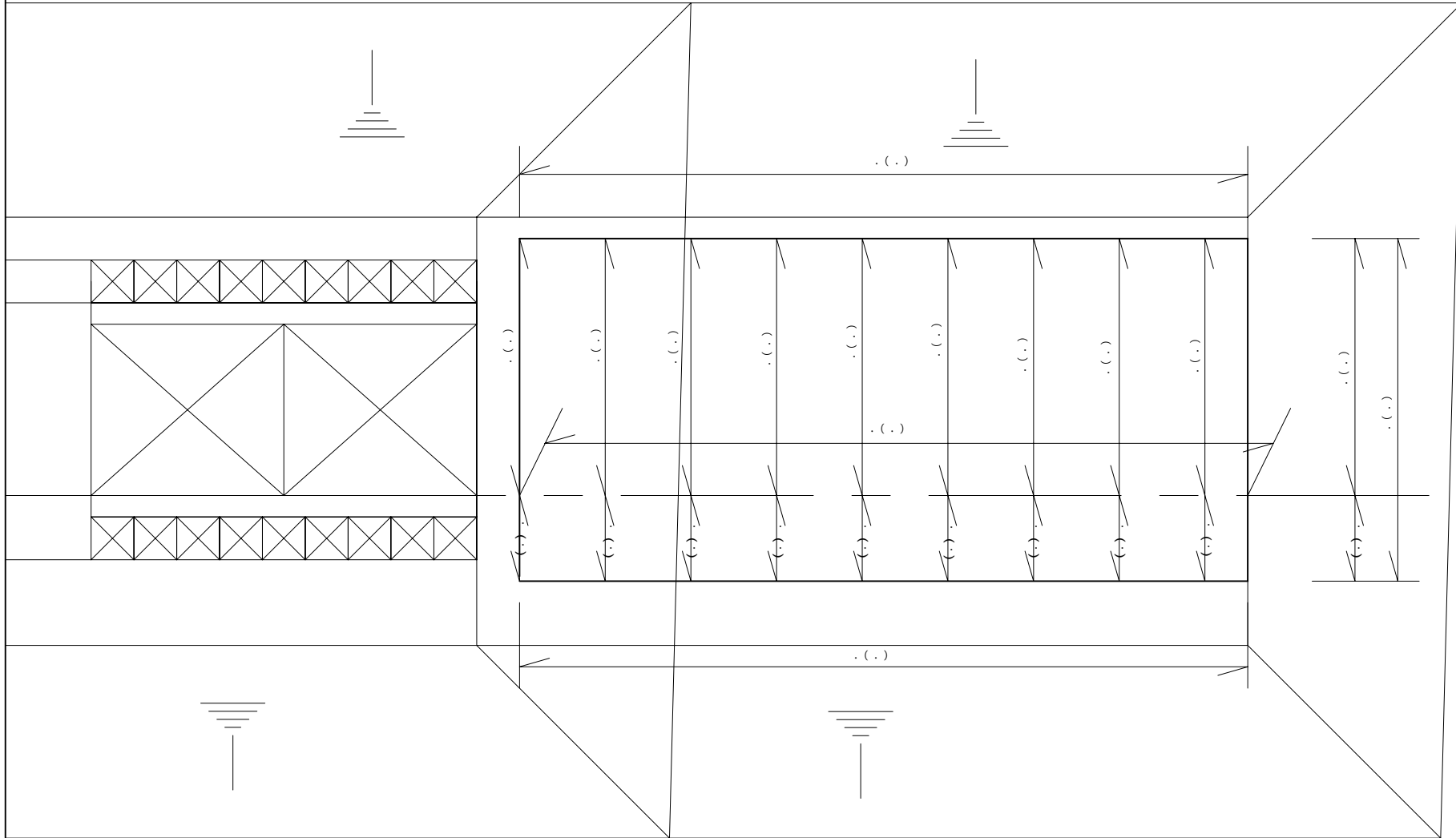
NO. NO. NO. NO. NO. NO. NO. NO. NO.

凡例
 ():設計値
 実数:実測値

基礎石均し出来形管理図(2)

平面図

港内側



(1:1)

(-.m)

(基礎捨石 ~ Kg/個程度)

(-.m)

港外側

- NO. _____
- NO. _____
- NO. _____
- NO. _____
- NO. _____
- NO. _____
- NO. _____
- NO. _____
- NO. _____

凡例

() : 設計値

実数 : 実測値

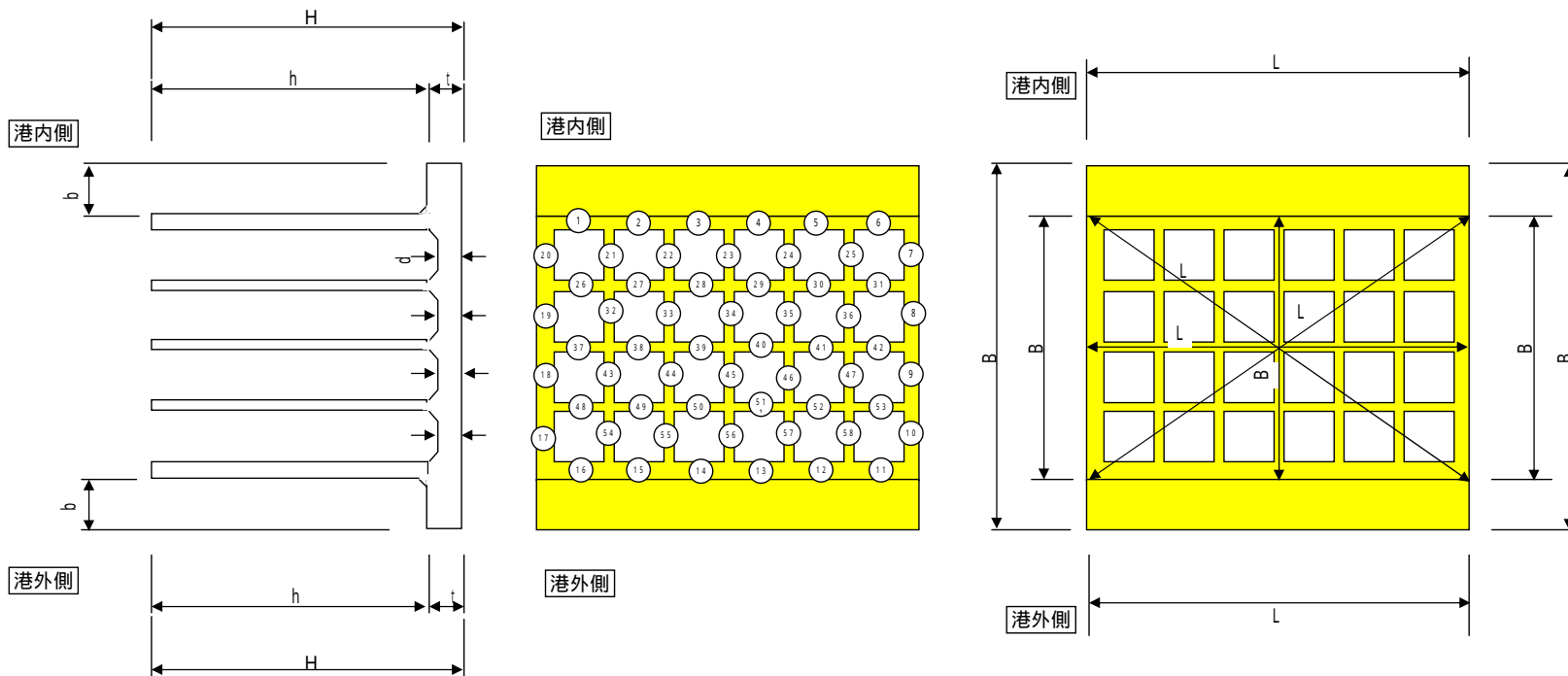
ケーソン製作出来形管理表

様式・出来形 5 - 1 - 1
平成 年 月 日

工事名: _____

主任技術者(監理技術者) _____

区用	号函	段目	筒所	測定値	検査値	差	筒所	測定値	検査値	差	筒所	測定値	検査値	差
<壁厚>														
側壁 =	±													
隔壁 =														
<フチゲ>														
B' =	+													
L =	-													
b =														
t =														
<底板厚>														
d =	+													
<延長>														
L =	+													
<幅>														
B =	+													
<対角>														
L' =	±													
<高さ>														
H =	+													
	-													

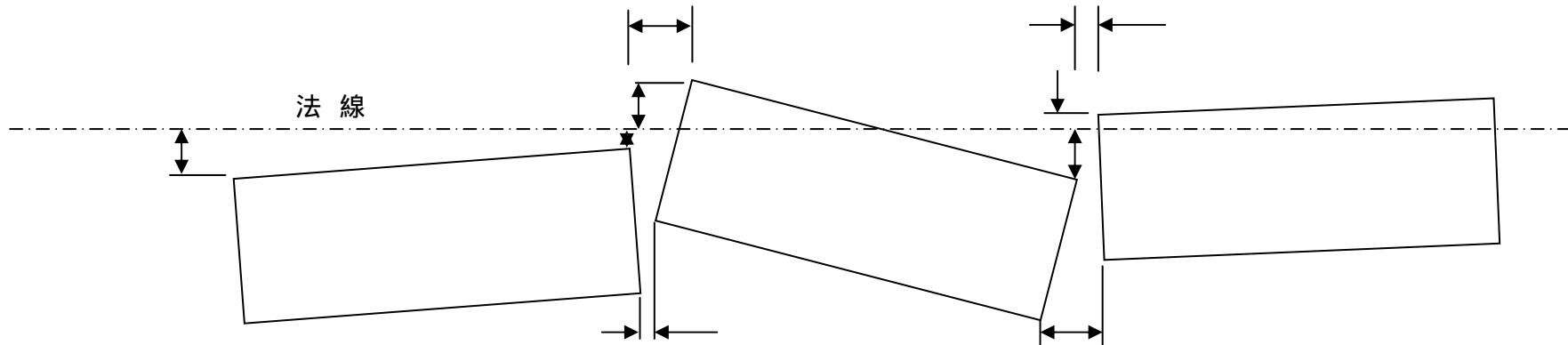


ケーソン据付出来形管理表

工事名: _____

主任技術者(監理技術者) _____

ケーソン 番号	法線に対する出入り					据付目地間隔					天端高さ				
	測定位置	測定月日	設計値	実測値	差	測定位置	測定月日	設計値	実測値	差	測定位置	測定月日	設計値	実測値	差
NO.1						-									



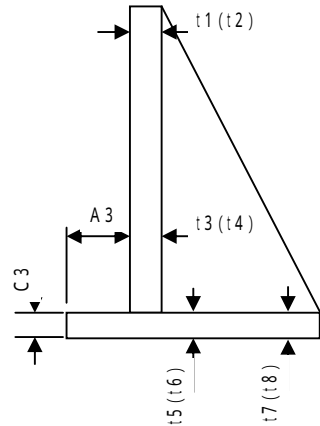
L型ブロック製作出来形管理表

工事名: _____

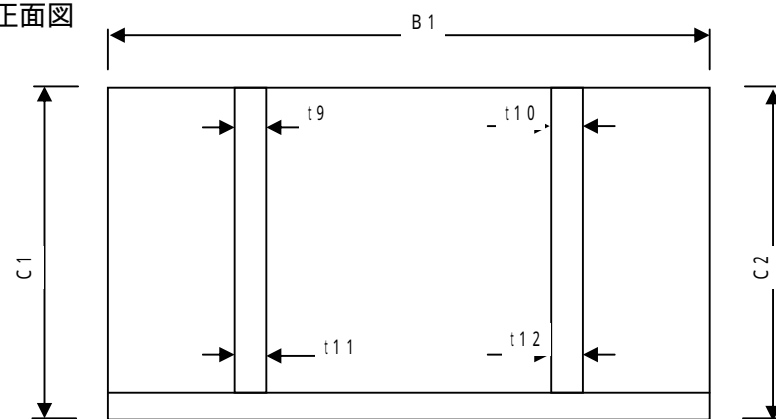
主任技術者(監理技術者) _____

製作番号	幅			長さ						高さ			各部材厚さ												
	A1	A2	A3	B1	B2	B3	B4	B5	B6	C1	C2	C3	t1	t2	t3	t4	t5	t6	t7	t8	t9	t10	t11	t12	
	設計値																								
	実測値																								
	差																								
	設計値																								
	実測値																								
	差																								
	設計値																								
	実測値																								
	差																								
	設計値																								
	実測値																								
	差																								
	設計値																								
	実測値																								
	差																								
	設計値																								
	実測値																								
	差																								
	設計値																								
	実測値																								
	差																								

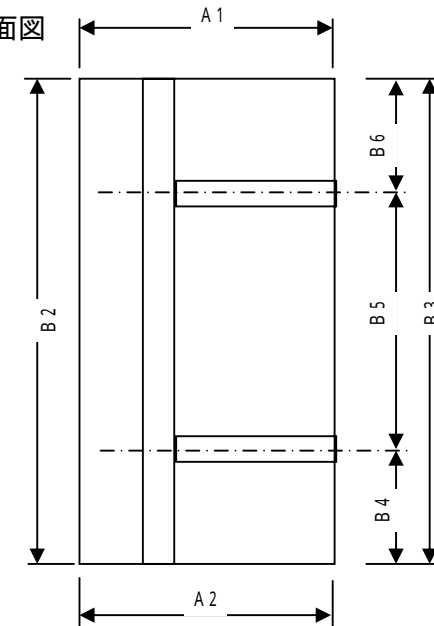
側面図



正面図



平面図



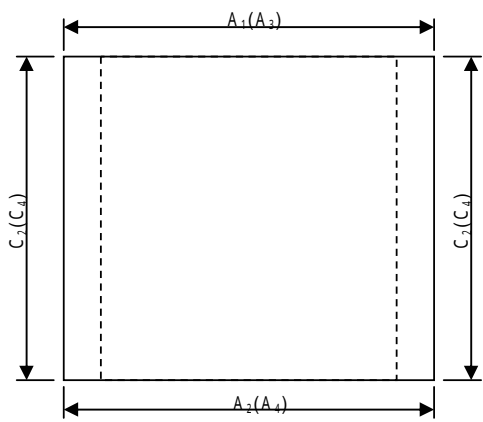
セルラーブロック製作出来形管理表

工事名: _____

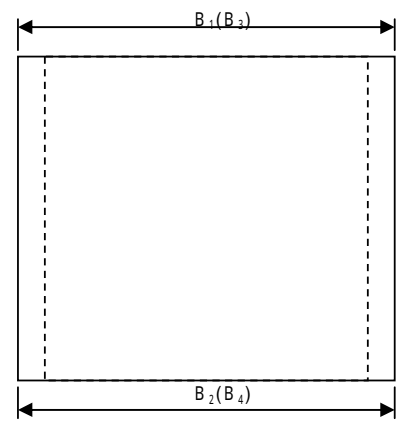
主任技術者(監理技術者) _____

製作番号	幅				長さ				高さ				各部材厚さ								対角線		
	A1	A2	A3	A4	B1	B2	B3	B4	C1	C2	C3	C4	t1	t2	t3	t4	t5	t6	t7	t8	1	2	
設計値																							
	実測値																						
差																							

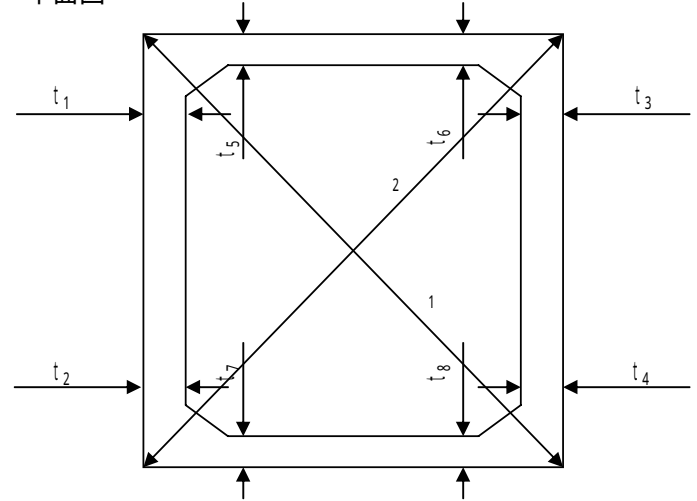
側面図



正面図



平面図



ブロック製作等 外見チェックリスト

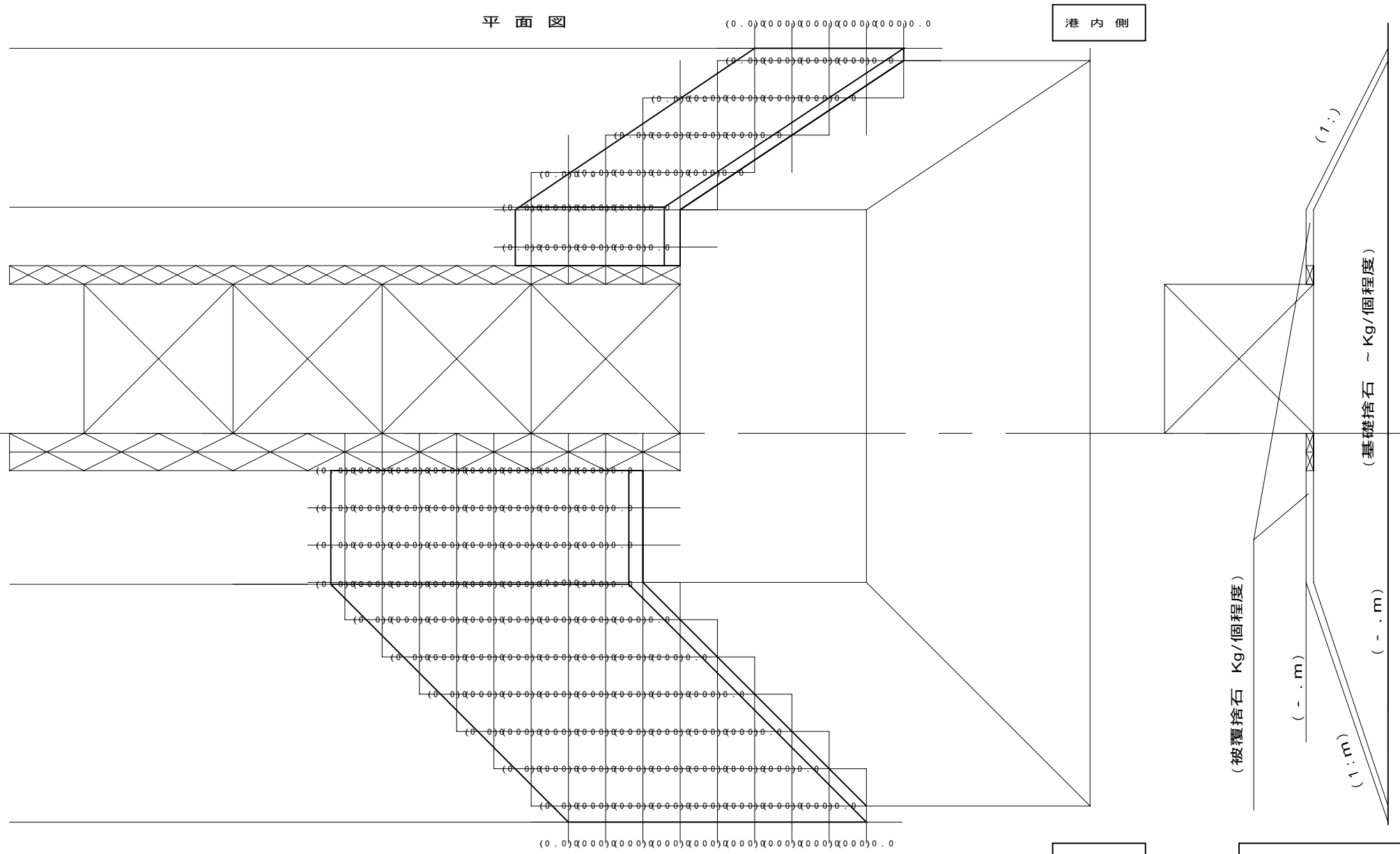
工事名: _____

主任技術者(監理技術者) _____

チ ャ ッ ク 項 目	
製作番号(ブロックNO)	
製作日	
検査日	
大きな気泡はないか	
ひびわれはないか	
ジャンカはないか	
ワイヤー傷はないか	
ブロックのカケはないか	
泥などの付着はないか	
ナンバリングに誤記はないか	
その他	
総 評	
略 図	

被覆石均し出来形管理図(1)

平面図



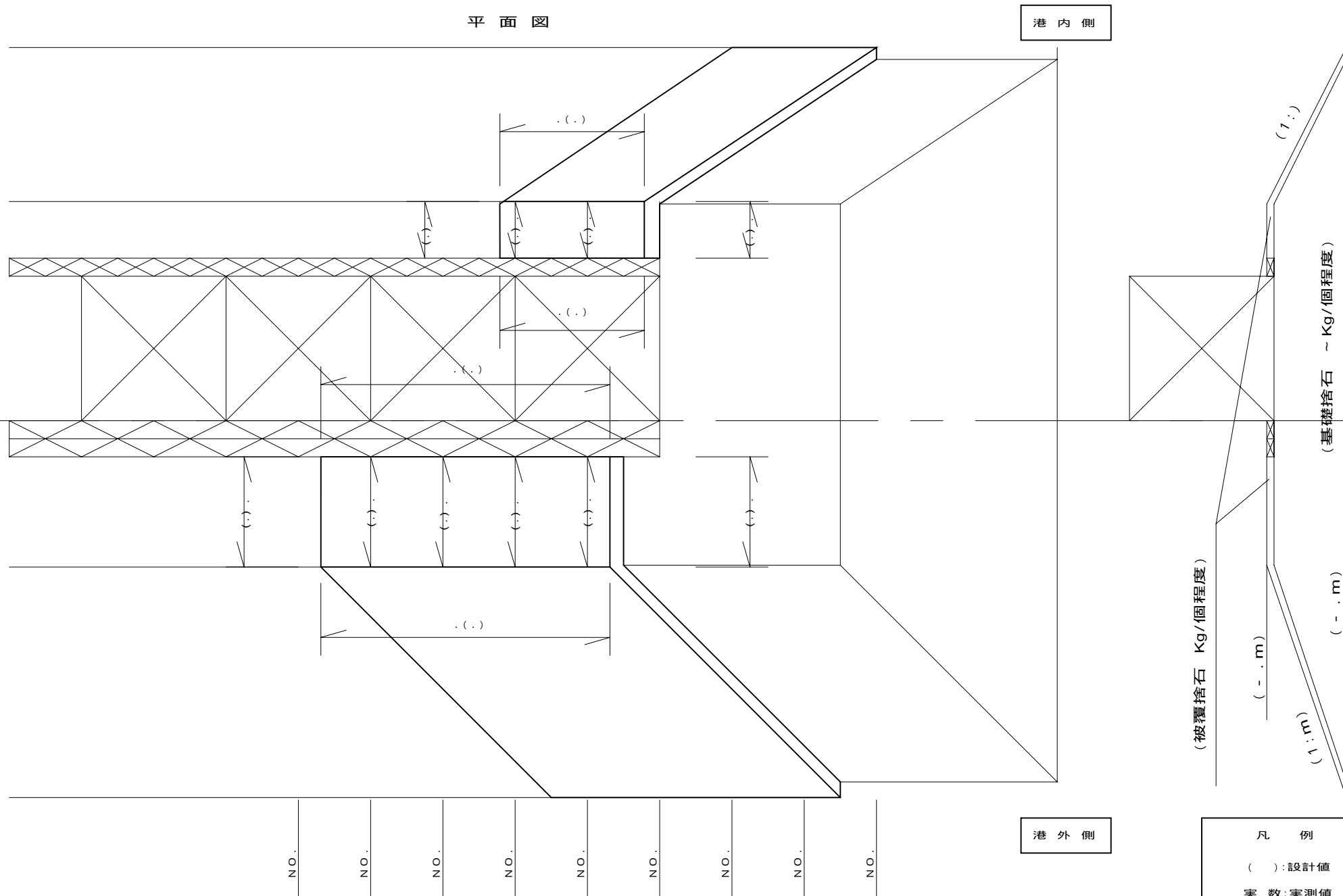
NO. NO. NO. NO. NO. NO. NO. NO. NO.

凡例
 (): 設計値
 実数: 実測値

工事名: _____

被覆石均し出来形管理図(2)

平面図

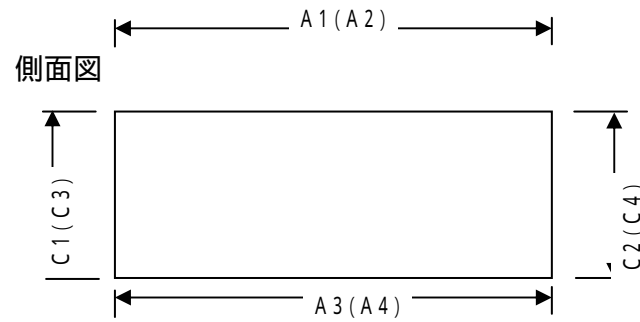
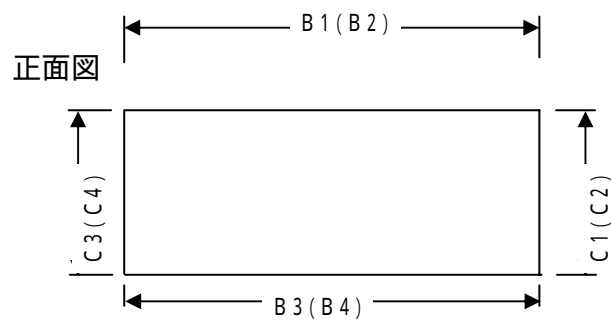


根固ブロック製作出来形管理表

工事名: _____

主任技術者(監理技術者) _____

製作番号		長さ				幅				長さ				備考
		上側		下側		上側		下側		右側		左側		
		B1	B2	B3	B4	A1	A2	A3	A4	C1	C2	C3	C4	
	設計値													
	実測値													
	差													

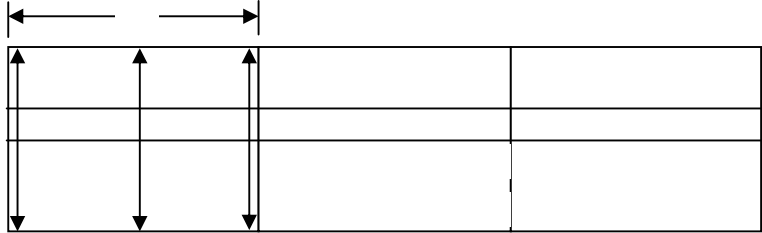
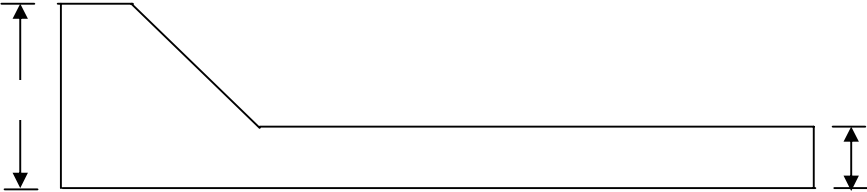


上部コンクリート(防波堤)出来形管理表

工事名: _____

主任技術者(監理技術者) _____

ケース等 NO.	測定月日	天 端 高 (厚 さ)				天 端 幅				延 長				法線に対する出入り			
		測点	設計値	測定値	差	測点	設計値	測定値	差	測点	設計値	測定値	差	測点	設計値	測定値	差

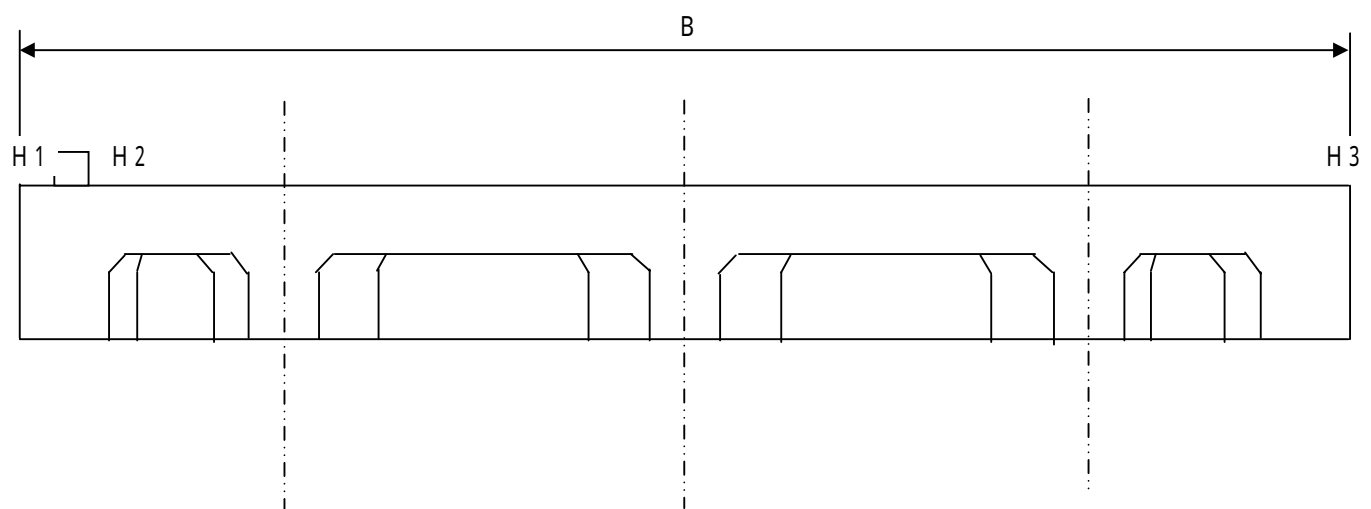
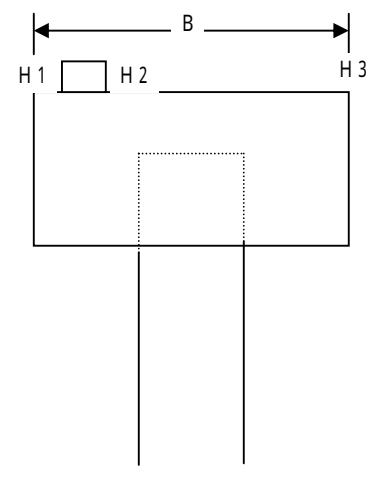


上部コンクリート(岸壁)出来形管理表

工事名: _____

主任技術者(監理技術者) _____

測点	天 端 高 (厚 さ)									天 端 幅			延 長			法線に対する 出 入 り		
	H1			H2			H3			B			L					
	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差



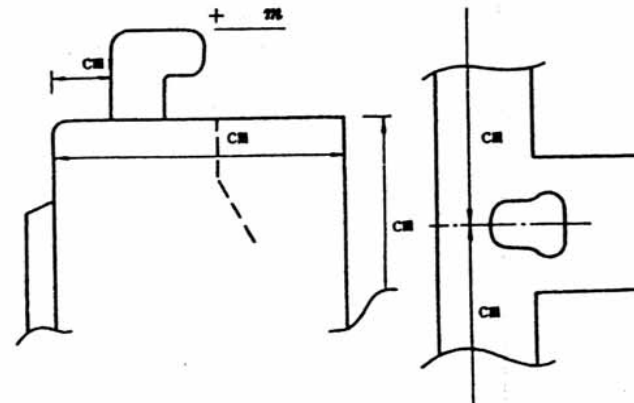
係船柱出来形管理表

工事名: _____

主任技術者(監理技術者) _____

番号	岸壁前面に対する出入り	天端高	中心間隔	基礎コンクリート(直柱)			備	考
				幅	長さ	高さ		
基点0より	-	-	-	-	-	-		

係船柱測定位置図



防舷材出来形管理表

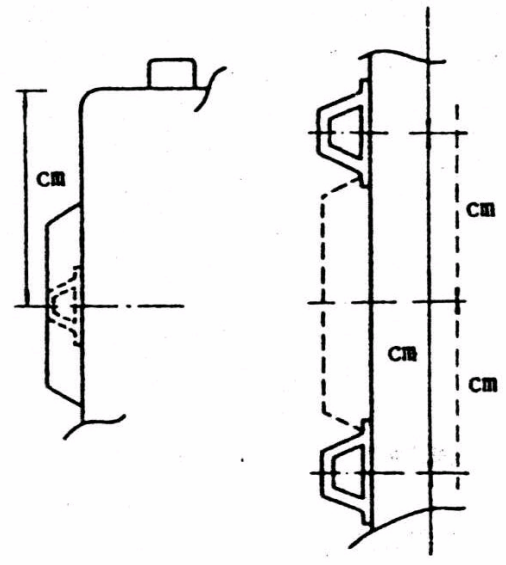
平成 年 月 日

工事名: _____

主任技術者(監理技術者) _____

番号	取付高さ	中心間隔	備	考
基点0より	-	-		

防舷材測定位置図



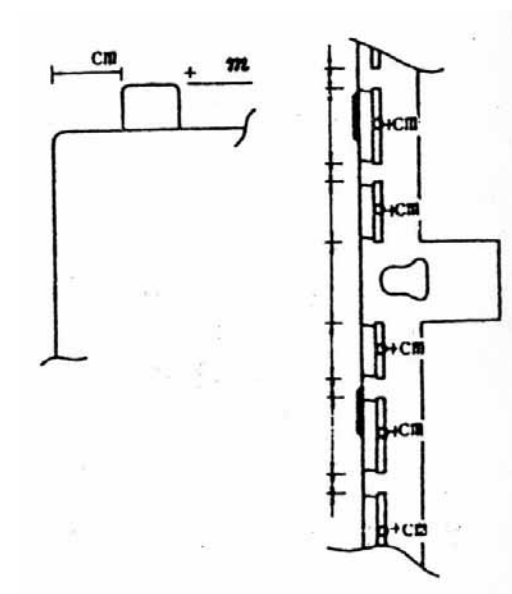
車止出来形管理表

工事名: _____

主任技術者(監理技術者) _____

番号	岸壁前面に対する出入り	天端高	取付間隔	備	考
基点0より	-	-	-		

車止測定位置図

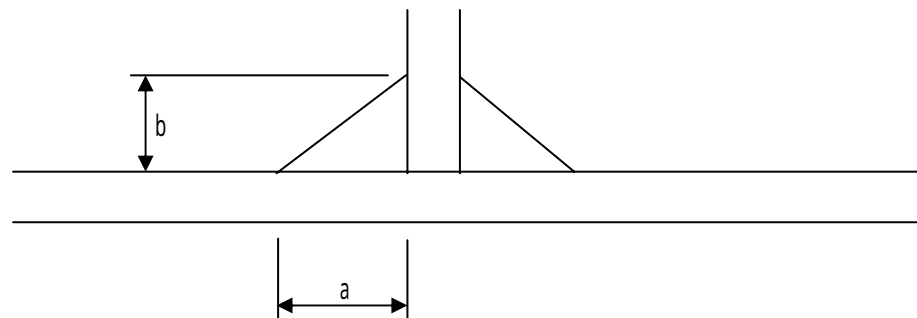


すみ肉溶接出来形管理表

工事名: _____

主任技術者(監理技術者) _____

測定箇所	溶接脚長		溶接長	測定箇所	溶接脚長		溶接長	
	a	b			a	b		
設計値				設計値				
	実測値				実測値			
	差				差			



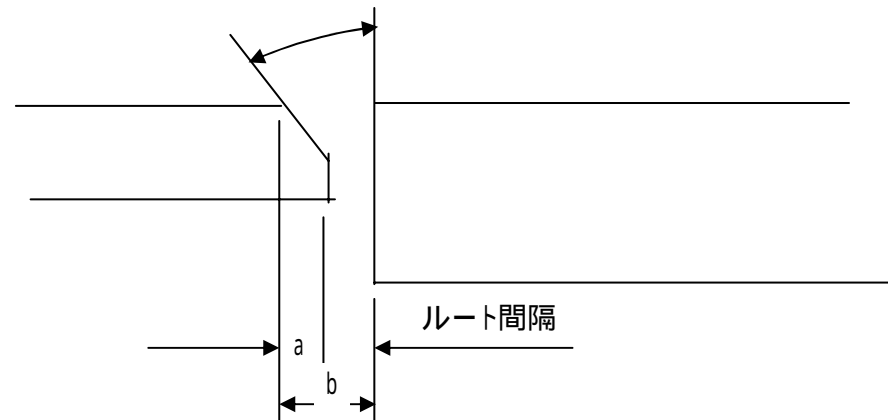
突合わせ溶接出来形管理表

平成 年 月 日

工事名: _____

主任技術者(監理技術者) _____

測定箇所	溶接脚長			溶接長	測定箇所	溶接脚長			溶接長
	A	B				A	B		
設計値					設計値				
	実測値					実測値			
	差					差			



鉄筋フレア溶接出来形管理表

平成 年 月 日

工事名: _____

主任技術者(監理技術者) _____

測定箇所		鉄筋径 D	のど厚 a	溶接長	測定箇所		鉄筋径 D	のど厚 a	溶接長
	設計値					設計値			
	実測値					実測値			
	差					差			

浚渫出来形管理表

工事名: _____

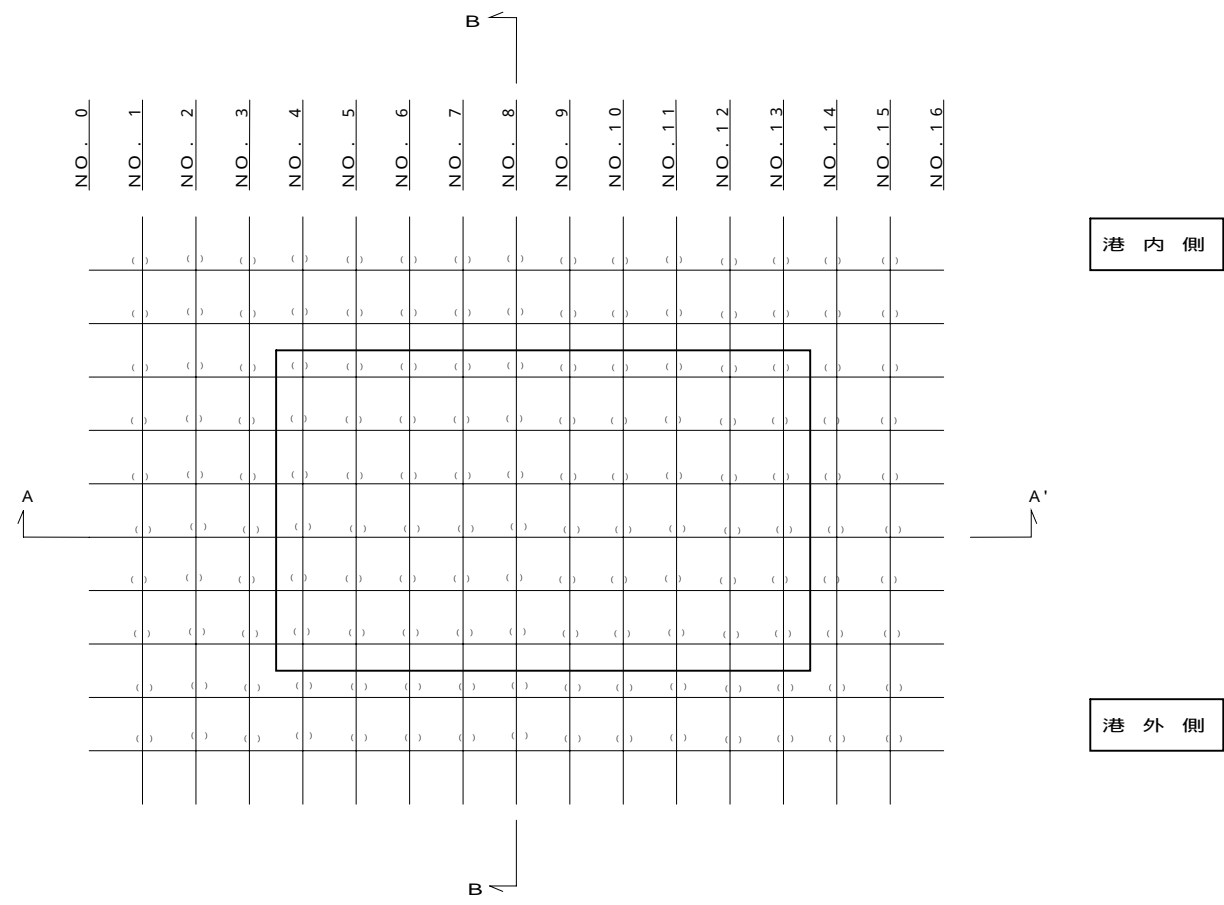
主任技術者(監理技術者) _____

測点NO. 距離NO.	NO.	NO. + . m	NO.	NO. + . m	NO.	NO. + . m	NO.	NO.	NO.	NO.	NO.	NO.	NO.
+ . m		15.20											
		15.30											
		-0.10											
+ . m													
+ . m													
+ . m													
+ . m													
+ . m													
+ . m													
+ . m													

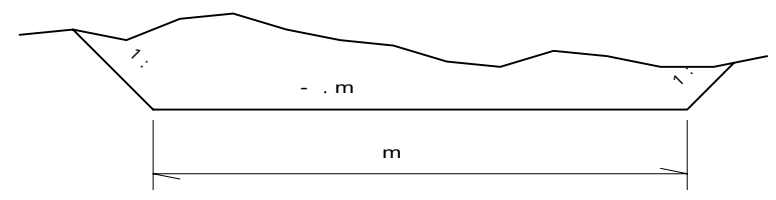
工事名: _____

浚渫出来形管理図

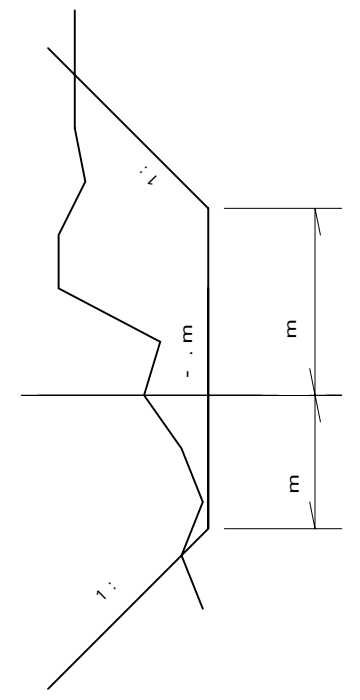
深 浅 図



A - A 断面



B - B 断面



凡 例

() : 設計値

実 数 : 実測値

港湾工事品質管理基準及び規格値

凡 例

①特 : 図面及び特記仕様書
②共 ; 土木工事共通仕様書 第9編 港湾編

港湾工事情質管理基準

目 次

1 . 土		
1 - 1	一般事項	1
2 . 石材等		
2 - 1	砂	2
2 - 2	砂利・砕石	2
2 - 3	石	2
3 . 骨 材		
3 - 1	セメントコンクリート用骨材	3
3 - 2	路盤材	4
3 - 3	アスファルトコンクリート用骨材	5
3 - 4	フィラー	5
3 - 5	安定処理路盤材	5
4 . 木 材		
4 - 1	一般事項	6
5 . 鋼 材		
5 - 1	鋼矢板及び鋼杭	6
5 - 2	鋼板及び形鋼等	7
5 - 3	棒 鋼	7
5 - 4	控 工	8
5 - 5	コンクリート舗装用鋼材	8
6 . セメント及び混和材料		
6 - 1	セメント	9
6 - 2	混和材料	9
6 - 3	コンクリート用水	9
7 . セメントコンクリート製品		
7 - 1	一般事項	10

8 . 瀝青材料	
8 - 1 舗装用アスファルト材	10
8 - 2 プライムコート及びタックコート	10
9 . 芝・樹木等	
9 - 1 芝及び種子	11
9 - 2 植木等	11
10 . 目地材料	
10 - 1 目地材	11
10 - 2 コンクリート舗装用目地材	12
11 . 防食材料	
11 - 1 アルミニウム合金陽極	12
11 - 2 防食塗装	12
11 - 3 被覆防食材料	13
12 . 防舷材	
12 - 1 ゴム防舷材	13
13 . 係船柱	
13 - 1 係船柱	14
14 . 車止め・縁金物	
14 - 1 車止め・縁金物	14
15 . マット	
15 - 1 アスファルトマット	15
15 - 2 繊維系マット	15
15 - 3 合成樹脂系マット	15
15 - 4 ゴムマット	15
16 . コンクリート	
16 - 1 レディーミクストコンクリート	16
16 - 2 コンクリートミキサー船	17
16 - 3 現場練りコンクリート	17
16 - 4 暑中コンクリート	19
16 - 5 寒中コンクリート	19

16 - 6	水中コンクリート	20
16 - 7	袋詰コンクリート	20
16 - 8	水中不分離性コンクリート	20
16 - 9	プレパックドコンクリート	20
16 - 10	コンクリート舗装	20
17. アスファルトコンクリート		
17 - 1	アスファルト舗装	21
18. その他		
18 - 1	ペーパードレーン	22
18 - 2	路盤紙	22
18 - 3	防砂目地板	22
18 - 4	区画線及び道路標示	22
18 - 5	道路標識	22
18 - 6	防護柵	22
18 - 7	溶接材	23
18 - 8	ガス切断材	23
18 - 9	汚濁防止膜	23

[参 考]

様式・品質 3-1	; 骨材のふるい分け試験(JIS A 1102)	24
様式・品質 12-1	; 防舷材形状管理表(例)	26
	; (別紙)防舷材形状測定箇所(例)	27
様式・品質 16-1	; コンクリート試験成績表(試験練用)	30
様式・品質 16-2	; コンクリート強度(圧縮 曲げ)管理表	32
様式・品質 16-3	; コンクリート強度(圧縮 曲げ)管理図	34

1.土

1-1 一般事項

区分	管理項目	管理内容	管理方法	品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
1)埋立材	材質	種類	観察	特による。	施工中適宜		
		品質	特による。	特による。	搬入前、採取地毎に1回	特による。	
2)裏埋材	材質	種類	観察	特による。	施工中適宜		
3)盛土材		品質	特による。	特による。	搬入前、採取地毎に1回	試験成績表を提出	
4)路床材	材質	外観	観察	特による。	搬入時、施工中適宜		
		粒度	JIS A 1204	特による。	搬入前、採取地毎に1回	試験成績表を提出	
		含水量	JIS A 1203	特による。	搬入前、採取地毎に1回	試験成績表を提出	
		塑性指数(425 μ mふるい通過分)	JIS A 1205	特による。	搬入前、採取地毎に1回	試験成績表を提出	
	修正 CBR	必要な値を満足していること。	舗装施工便覧	特による。	搬入前、採取地毎に1回	試験成績表を提出	
	突固め	最大乾燥密度、最適含水比	JIS A 1210 (C,D,E)	特による。	搬入前、採取地毎に1回	試験成績表を提出	
	締め固め	締め固め密度	含水量試験JIS A 1203 CBR 試験又は平板載荷試験JIS A 1211、JIS A 1215 締め固め密度JIS A 1214	特による。	1,000m ² に1箇所	記録紙及び管理表を作成し提出	
5)採取土	材質	種類	観察	特による。	施工中適宜		
		外観	観察	特による。	施工中適宜		
		品質	特による。	特による。	搬入前、採取地毎に1回	特による。	

2. 石材等

2-1 砂

区分	管理項目	管理内容	管理方法	品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
1) 敷砂 2) 改良杭材 3) 置換材	材質	外観	観察	異物の混入のないこと。	施工中適宜		
		種類、品質及び粒度	JIS A 1102 JIS A 1204	特による。	搬入前、採取地毎に1回	試験成績表を提出	
		シルト以下の細粒含有率	特による。	特による。	特による。	試験成績表を提出	
4) 中詰砂	材質	種類	観察	特による。	施工中適宜		
		外観	観察	異物の混入のないこと。	施工中適宜		
		最大粒径 単位体積重量	観察 特による。	特による。 特による。	施工中適宜 搬入前、採取地毎に1回	試験成績表を提出	湿潤又は飽和状態の材料について単位体積重量を確認する。
5) 載荷材	材質	外観	観察	異物の混入のないこと。	施工中適宜		
		種類、品質及び粒度	JIS A 1102 JIS A 1204	特又はJISの規定による。	搬入前、採取地毎に1回	試験成績表を提出	
		単位体積重量	特による。	特による。	搬入前、採取地毎に1回	試験成績表を提出	湿潤又は飽和状態の材料について単位体積重量を確認する。

2-2 砂利・碎石

区分	管理項目	管理内容	管理方法	品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
1) 碎石	材質	外観	観察	異物の混入のないこと。	施工中適宜		
		粒度	JIS A 1102 JIS A 1204	特による。	搬入前産地毎に1回	試験成績表を提出	
		比重	JIS A 1110	特による。	搬入前産地毎に1回	試験成績表を提出	
		吸水量	JIS A 1110	特による。	搬入前産地毎に1回	試験成績表を提出	

2-3 石

区分	管理項目	管理内容	管理方法	品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
1) 石	材質	外観	観察	共第1編 2-3-4による。	施工中適宜		
		石の種類	観察	特による。	施工中適宜		
		比重	JIS A 5006	特による。	産地毎に1回	試験成績表を提出	石質の変化がない場合は1年以内の試験成績表とする。
		規定外質量の比率	観察	特及びJIS A 5006による。	施工中適宜		

3. 骨 材

3 - 1 セメントコンクリート用骨材

区 分	管理項目	管理内容	管理方法	品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備 考
1) JIS工場製品	骨 材	使用材料の品質の確認	製造工場の試験成績表により確認	JIS工場製品以外・現場練りコンクリート以外を適用する。	製造前及び使用材料の変更時	試験成績表を提出	JIS A 5308 参照
2) JIS工場製品以外・現場練りコンクリート	骨 材	種類及び粗骨材の最大寸法	観 察	特による。 JIS A 5005 JIS A 5011	搬入時適宜		
		粒 度	共第 1 編 表2-3	共第 1 編 表2-1	配合設計前	試験成績表を提出	様式・品質3-1参照
		比重及び吸水量（細骨材）	共第 1 編 表2-3	JIS A 5005 JIS A 5011-1 JIS A 5011-2 JIS A 5011-3 JIS A 5011-4	配合設計前	試験成績表を提出	様式・品質3-1参照
		比重及び吸水量（粗骨材）	共第 1 編 表2-3	JIS A 5005 JIS A 5011-1 JIS A 5011-2 JIS A 5011-3 JIS A 5011-4	配合設計前	試験成績表を提出	様式・品質3-1参照
		粘土塊含有量	共第 1 編 表2-3	共第 1 編 表2-2	配合設計前	試験成績表を提出	
		洗い試験で失われるものの量	共第 1 編 表2-3	共第 1 編 表2-2	配合設計前	試験成績表を提出	
		比重1.95の液体に浮くものの量	共第 1 編 表2-3	共第 1 編 表2-2	配合設計前	試験成績表を提出	
		塩化物量	JIS A 5308 付属書 1 JIS A 5002	共第 1 編 表2-2	配合設計前	試験成績表を提出	
		やわらかい石片の含有量（舗装用粗骨材）	共第 1 編 表2-3	共第 1 編 表2-2	配合設計前	試験成績表を提出	
		有機不純物の量（細骨材）	共第 1 編 表2-3	共第 1 編 表2-2	配合設計前	試験成績表を提出	コンクリート標準示方書参照
		安定性（耐久性）	共第 1 編 表2-3		配合設計前	試験成績表を提出	砕砂、砕石等、JIS規格のあるもの以外の骨材については、コンクリート標準示方書参照
		骨材のアルカリシリカ反応（化学法）	共第 1 編 表2-3	無 害	配合設計前	試験成績表を提出	2法のうち、いずれかを選び試験する。
		骨材のアルカリシリカ反応（モルタルバー法）	共第 1 編 表2-3	無 害	配合設計前	試験成績表を提出	
海砂の塩分含有量	JIS A 5308 付属書 1 JIS A 5002	鉄筋コンクリートの場合は、細骨材の絶対質量に対し、NaClに換算して0.1%以下	配合設計前	試験成績表を提出			

区 分	管理項目	管理内容	管理方法	品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備 考
		すりへり減量（舗装用粗骨材）	共第1編 表2-3		配合設計前	試験成績表を提出	砕石等、JIS 規格のあるもの以外の骨材については、コンクリート標準示方書参照

3 - 2 路盤材

区 分	管理項目	管理内容	管理方法	品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備 考
1) 下層路盤材 (砕石、切込砕石、砂利及び切込砂利)	材 質	外 観	観 察	特による。	搬入時、施工中適宜		
		粒 度	JIS A 1102 JIS A 1204	特による。	搬入前、採取地毎1回	試験成績表を提出	
		含水量	JIS A 1203	特による。	搬入前、採取地毎1回	試験成績表を提出	
		塑性指数(425 μ mふるい通過分)	JIS A 1205	アスファルト舗装6以下 コンクリート舗装6以下	搬入前、採取地毎1回	試験成績表を提出	
	修正 C B R	必要な値を満足していること。	舗装施工便覧	アスファルト舗装20%以上 コンクリート舗装20%以上	搬入前、採取地毎1回	試験成績表を提出	
	突固め	最大乾燥密度、最適含水比	JIS A 1210 (C,D,E)	特による。	搬入前、採取地毎1回	試験成績表を提出	
	締め固め	締め固め密度	含水量試験JIS A 1203 CBR 試験又は平板載荷試験 JIS A 1211、JIS A 1215 締め固め密度JIS A 1214	特による。	1,000m ² に1箇所、ただし施工面積が1,000m ² 以下のものは1工事当たり1箇所以上	記録紙及び管理表を作成し提出	
2) 上層路盤材 (粒度調整材)	材 質	外 観	観 察	特による。	搬入時、施工中適宜		
		粒 度	JIS A 1102 JIS A 1204	共第1編 表2-4	搬入前、採取地毎1回	試験成績表を提出	
		含水量	JIS A 1203	特による。	搬入前、採取地毎1回	試験成績表を提出	
		塑性指数(425 μ mふるい通過分)	JIS A 1205	アスファルト舗装4以下 コンクリート舗装4以下	搬入前、採取地毎1回	試験成績表を提出	
	修正 C B R	必要な値を満足していること。	舗装施工便覧	アスファルト舗装80%以上 コンクリート舗装80%以上	搬入前、採取地毎1回	試験成績表を提出	
	突固め	最大乾燥密度、最適含水比	JIS A 1210 (C,D,E)	特による。	搬入前、採取地毎1回	試験成績表を提出	
	締め固め	締め固め密度	含水量試験JIS A 1203 CBR 試験又は平板載荷試験JIS A 1211、JIS A 1215 締め固め密度JIS A 1214	特による。	1,000m ² に1箇所、ただし施工面積が1,000m ² 以下のものは1工事当たり1箇所以上	記録紙及び管理表を作成し提出	

3 - 3 . アスファルトコンクリート用骨材

区 分	管理項目	管理内容	管理方法	品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備 考
1) アスファルト コンクリート用 骨材	材 質	種類及び最大粒径 粒 度	観 察	特による。 共第1編 表2-5	搬入時適宜 当初及び変動が認められる場合	試験成績表を提出	
		比重及び吸水量	JIS A 1102 JIS A 1204 JIS A 5001 JIS A 5008	特による。	当初及び変動が認められる場合	試験成績表を提出	
		粗骨材のすりへり減量	JIS A 1109 JIS A 1110	特による。	当初及び変動が認められる場合	試験成績表を提出	
		粗骨材のすりへり減量	JIS A 1121	特による。	当初及び変動が認められる場合	試験成績表を提出	

3 - 4 フィラー

区 分	管理項目	管理内容	管理方法	品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備 考
1) フィラー	材 質	種類及び最大粒径 粒 度	観 察	特による。 共第1編 表2-6	搬入時適宜 当初及び変動が認められる場合	試験成績表を提出	
			JIS A 1102 JIS A 1204 JIS A 5001 JIS A 5008				

3 - 5 安定処理路盤材

区 分	管理項目	管理内容	管理方法	品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備 考
1) セメント安定 処理路盤	材 料						6-1セメントを適用する。
	配 合	配合試験	特による。	特による。	配合毎	特による。	
	粒 度	混合物の粒度試験	JIS A 1102	特による。	特による。	特による。	
	締め固め	締め固め密度	締め固め密度測定JIS A 1214	特による。	1,000m ² に1箇所、ただし施工面積が1,000m ² 以下のものは1工事当たり1箇所以上	記録紙及び管理表を作成し提出	
	含水比	含水比試験	JIS A 1203	特による。	特による。	特による。	
2) アスファルト 安定処理路盤	セメント量	セメント量試験	舗装施工便覧	特による。	特による。	特による。	
	締め固め	締め固め密度	舗装施工便覧	特による。	1,000m ² に1箇所、ただし同一配合の合材100t未満のものは1工事1回以上	記録紙及び管理表を作成し提出	
	締め固め以外						17-1アスファルト舗装を適用する。

4. 木 材

4 - 1 一般事項

区 分	管理項目	管理内容	管理方法	品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備 考
1) 木 材	材 質	外観・種類	観 察	特による。	施工中適宜		
		品 質	特による。	特による。	搬入前、施工中適宜	特による。	

5. 鋼 材

5 - 1 鋼矢板及び鋼杭

区 分	管理項目	管理内容	管理方法	品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備 考
1) 鋼矢板	化学成分、機械的性質	JIS に適合していること。	製造工場の試験成績表(検査証明書)により確認	JIS A 5523 JIS A 5528	搬入時、ロット毎	試験成績表(検査証明書)を提出	
	外 観	有害な傷、変形等がないこと。	観 察	JIS A 5523 JIS A 5528	搬入時、全数		
	形状寸法	JIS 及び特の形状寸法に適合していること。	製造工場の試験成績表(検査証明書)により確認	JIS A 5523 JIS A 5528	搬入時	試験成績表(検査証明書)を提出	
	溶接部	割れ、ブローホール及びのど厚並びにサイズの過不足等有害な欠陥がないこと。	JIS Z 3104 放射線透過試験	特による。	特による。	試験成績表(検査証明書)を提出	
2) 鋼管矢板	本体・付属品の化学成分、機械的性質	JIS に適合していること。	製造工場の試験成績表(検査証明書)により確認	JIS A 5530	搬入時、ロット毎	試験成績表(検査証明書)を提出	
	外 観	有害な傷、変形等がないこと。	観 察	JIS A 5530	搬入時、全数		
	形状寸法	JIS 及び特の形状寸法に適合していること。	製造工場の試験成績表(検査証明書)により確認	JIS A 5530	搬入時	試験成績表(検査証明書)を提出	工場出荷時の測定表を含む
	溶接部	割れ、ブローホール及びのど厚並びにサイズの過不足等有害な欠陥がないこと。	JIS Z 3104 放射線透過試験	特による。	特による。	試験成績表(検査証明書)を提出	
3) 鋼管杭	本体・付属品の化学成分、機械的性質	JIS に適合していること。	製造工場の試験成績表(検査証明書)により確認	JIS A 5525	搬入時、ロット毎	試験成績表(検査証明書)を提出	
	外 観	有害な傷、変形等がないこと。	観 察	JIS A 5525	搬入時、全数		
	形状寸法	JIS 及び特の形状寸法に適合していること。	製造工場の試験成績表(検査証明書)により確認	JIS A 5525	搬入時	試験成績表(検査証明書)を提出	工場出荷時の測定表を含む
	溶接部	割れ、ブローホール及びのど厚並びにサイズの過不足等有害な欠陥がないこと。	JIS Z 3104 放射線透過試験	特による。	特による。	試験成績表(検査証明書)を提出	

区分	管理項目	管理内容	管理方法	品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
4) H形鋼杭	化学成分、機械的性質	JIS に適合していること。	製造工場の試験成績表(検査証明書)により確認	JIS A 5526	搬入時、ロット毎	試験成績表(検査証明書)を提出	
	外観	有害な傷、変形等がないこと。	観察	JIS A 5526	搬入時、全数		
	形状寸法	JIS 及び特の形状寸法に適合していること。	製造工場の試験成績表(検査証明書)により確認	JIS A 5526	搬入時	試験成績表(検査証明書)を提出	
	溶接部	割れ、ブローホール及びのど厚並びにサイズの過不足等有害な欠陥がないこと。	JIS Z 3104 放射線透過試験	特による。	特による。	試験成績表(検査証明書)を提出	

5 - 2 鋼板及び形鋼等

区分	管理項目	管理内容	管理方法	品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
1) 鋼板、形鋼等	化学成分、機械的性質	JIS に適合していること。	製造工場の試験成績表(検査証明書)により確認	JIS G 3101	搬入時、ロット毎	試験成績表(検査証明書)を提出	
	外観	有害な傷、変形等がないこと。	観察	JIS G 3101	搬入時、全数又は 結束毎		
	形状寸法	JIS 及び特の形状寸法に適合していること。	製造工場の試験成績表(検査証明書)により確認	JIS G 3192 JIS G 3193 JIS G 3194	搬入時	試験成績表(検査証明書)を提出	

5 - 3 棒 鋼

区分	管理項目	管理内容	管理方法	品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
1) 普通棒鋼	化学成分、機械的性質	JIS に適合していること。	製造工場の試験成績表により確認	JIS G 3112 JIS G 3101 JIS G 3117	搬入時、ロット毎	試験成績表(検査証明書)を提出	
			JIS G 3112 又は JIS G 3101 公的機関の 試験成績表により確認	JIS G 3112 JIS G 3101 JIS G 3117			
	外観	有害な傷、変形等がないこと。	観察	JIS G 3112 JIS G 3101 JIS G 3117	搬入時、全数又は 結束毎		
	形状寸法	JIS 及び特の形状寸法に適合していること。	製造工場の試験成績表(検査証明書)により確認	JIS G 3191 JIS G 3117	搬入時	試験成績表(検査証明書)を提出	
2) 異形棒鋼	化学成分、機械的性質	JIS に適合していること。	製造工場の試験成績表(検査証明書)により確認	JIS G 3112 JIS G 3117	搬入時、ロット毎	試験成績表(検査証明書)を提出	製造工場の試験成績表により確認できない場合
			JIS G 3112 公的機関の 試験成績表により確認	JIS G 3112 JIS G 3117			
	外観	有害な傷、変形等がないこと。	観察	JIS G 3112 JIS G 3117	搬入時、全数又は 結束毎		
	形状寸法	JIS 及び特の形状寸法に適合していること。	製造工場の試験成績表(検査証明書)により確認	JIS G 3191 JIS G 3117	搬入時	試験成績表(検査証明書)を提出	

5 - 4 控 工

区 分	管理項目	管理内容	管理方法	品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備 考
1) 腹起し							5-2鋼板及び形鋼等を適用する。
2) タイロッド	本体・附属品の化学成分、機械的性質	(一般構造用圧延鋼材の場合) JIS に適合していること。	製造工場の試験成績表により確認	JIS G 3101	ロット毎	試験成績表(検査証明書)を提出	
		(高張力鋼材の場合) 機械的性質は共第1編 2-6-5に、化学成分は特及び承諾した規格に適合していること。	製造工場の試験成績表(検査証明書)により確認	機械的性質は共第1編 表2-7、化学成分は特及び承諾した規格とする。	ロット毎	試験成績表(検査証明書)を提出	
	外 観	有害な傷、変形等がないこと。	観 察	異常が認められないこと。	搬入時、全数		
	形状寸法	特の形状寸法に適合していること。	製造工場の試験成績表(検査証明書)により確認	工事監督員が承諾した図面	搬入時	試験成績表(検査証明書)を提出	
	組立引張試験	特に適合していること。	特による。	特による。	特による。	試験成績表を提出	
3) タイワイヤー	本体・附属品の化学成分、機械的性質	JIS に適合していること。	製造工場の試験成績表(検査証明書)により確認	JIS G 3502 JIS G 3536 JIS G 3506 JIS G 3521	ロット毎	試験成績表(検査証明書)を提出	
		被覆材	特の規格に適合していること。	製造工場の試験成績表により確認	JIS K 6922-2	ロット毎	試験成績表を提出
	外 観	有害な傷、変形等がないこと。	観 察	異常が認められないこと。	搬入時、全数		
	形状寸法	特の形状寸法に適合していること。	製造工場の試験成績表(検査証明書)により確認	工事監督員が承諾した図面	搬入時	試験成績表(検査証明書)を提出	
		組立品引張試験	特に適合していること。	特による。	特による。	特による。	試験成績表を提出

5 - 5 コンクリート舗装用鋼材

区 分	管理項目	管理内容	管理方法	品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備 考
1) コンクリート舗装用鋼材							
イ) スリップバー ロ) タイバー ハ) チェアー ニ) クロスバー							5-3棒鋼を適用する。
ホ) 鉄 網	化学成分、機械的性質	JIS に適合していること。	製造工場の試験成績表(検査証明書)により確認	JIS G 3551	搬入時、ロット毎	試験成績表(検査証明書)を提出	
			JIS G 3112 公的機関の試験成績表により確認	JIS G 3551		試験成績表を提出	製造工場の試験成績表により確認できない場合
	外 観	有害な傷、変形等がないこと。	観 察	JIS G 3551	搬入時、全数又は結束毎		

区分	管理項目	管理内容	管理方法	品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
	形状寸法	JIS 及び特の形状寸法に適合していること。	製造工場の試験成績表(検査証明書)により確認	JIS G 3551	搬入時	試験成績表(検査証明書)を提出	

6.セメント及び混和材料

6-1 セメント

区分	管理項目	管理内容	管理方法	品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
1) JIS工場製品	セメント	使用材料の品質の確認	製造工場の試験成績表により確認	JIS工場製品以外・現場練りコンクリート以外を適用する。	製造前及び使用材料の変更時	試験成績表を提出	JIS A 5308 参照
2) JIS工場製品以外・現場練りコンクリート	外観 化学成分	セメントの種類 JIS に適合していること。	観察 製造工場の試験成績表により確認	JIS R 5210 JIS R 5211 JIS R 5212 JIS R 5213 JIS R 5214	搬入時適宜 1箇月1回又は搬入の都度	工事監督員が指示したとき試験成績表(検査証明書)を提出	

6-2 混和材料

区分	管理項目	管理内容	管理方法	品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
1) JIS工場製品	混和材料	使用材料の品質の確認	製造工場の試験成績表により確認	JIS工場製品以外・現場練りコンクリート以外を適用する。	製造前及び使用材料の変更時	試験成績表を提出	JIS A 5308 参照
2) JIS工場製品以外・現場練りコンクリート	化学成分	JIS 及び土木学会規準に適合していること。	製造工場の試験成績表により確認 土木学会規準 D.1	特による。 JIS A 6201 JIS A 6202 JIS A 6204 JIS A 6206	1箇月1回又は搬入の都度	工事監督員が指示したとき試験成績表(検査証明書)を提出	コンクリート標準示方書参照D.1;コンクリート用流動化剤品質規準

6-3 コンクリート用水

区分	管理項目	管理内容	管理方法	品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
1) JIS工場製品	水	使用材料の品質の確認	製造工場の試験成績表により確認	JIS工場製品以外・現場練りコンクリート以外を適用する。	製造前及び使用材料の変更時	試験成績表を提出	JIS A 5308 参照
2) JIS工場製品以外・現場練りコンクリート水(上水以外)	化学成分	コンクリートの強度に対する影響 有害物の含有量	JIS A 5308 付属書 9 公的機関の試験成績表により確認	JIS A 5308 付属書 9 JIS A 5308 付属書 9	配合設計前 配合設計前	試験成績表を提出 試験成績表を提出	コンクリート標準示方書参照

7. セメントコンクリート製品

7 - 1 一般事項

区分	管理項目	管理内容	管理方法	品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
1) コンクリート杭 2) コンクリート 矢板 3) 境界ブロック	外観	有害な傷がないこと。	観 察	JIS A 5372 JIS A 5373	搬入時、全数	試験成績表(検査 証明書)を提出	曲げ強さは試験成績 表(検査証明書)で 確認する。
	形状寸法	JIS 及び特の形状寸法 に適合していること。	製造工場の試験成績表 (検査証明書)により確認	JIS A 5361 JIS A 5363 JIS A 5365			

8. 瀝青材料

8 - 1 舗装用アスファルト材

区分	管理項目	管理内容	管理方法	品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
1) アスファルト コンクリート 舗装用材 (アスファルト)	化学成分	特の品質であること。	石油アスファルト JIS K 2207 又は製造工 場の試験成績表により確 認	試験方法 針入度試験 JIS K 2207 軟化点試験 JIS K 2207 伸度試験 JIS K 2207 蒸発量試験 JIS K 2207 比重試験 JIS K 2249 セイボルトフロール 度試験 舗装施工便覧 アスファルト乳剤の 品質試験 JIS K 2208 クレオソート油加工 エタール・タール ピッチ試験方法 JIS K 2439 カットバックアス ファルトの品質試験 ASTM D 2027 ASTM D 2028	当初及び製造工場 又は規格の変化毎	試験成績表(検査 証明書)を提出	

8 - 2 プライムコート及びタックコート

区分	管理項目	管理内容	管理方法	品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
1) タックコート・ プライムコート	化学成分	JIS 及び特の形状寸法 に適合していること。	製造工場の試験成績表に より確認	JIS K 2208	搬入時適宜	試験成績表(検査 証明書)を提出	

9. 芝・樹木等

9-1 芝及び種子

区分	管理項目	管理内容	管理方法	品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
1) 芝	土	性状が生育に適していること。	特又は試験成績表により確認	共第1編 2-10-1又は特による。	産地毎に1回	試験成績表を提出	
	芝	種類、品質が特に適合していること。	品質等証明書により確認	共第1編 2-10-2又は特による。	産地毎に1回	品質等証明書を提出	
	肥料	種類、品質及び配合が特に適合していること。	種類、品質は品質等証明書により確認 配合は特による。	特による。	種類毎に1回	品質等証明書を提出	
2) 種子 3) 播種	土	性状が生育に適していること。	特又は試験成績表により確認	共第1編 2-10-1又は特による。	産地毎に1回	試験成績表を提出	
	種子	種類、品質及び配合が特に適合していること。	種類、品質は品質等証明書により確認 配合は特による。	特による。	種類毎に1回	品質等証明書を提出	
	肥料	種類、品質及び配合が特に適合していること。	種類、品質は品質等証明書により確認 配合は特による。	特による。	種類毎に1回	品質等証明書を提出	
	土壌改良剤、養生剤	種類、品質が特に適合していること。	品質等証明書により確認	特による。	種類毎に1回	品質等証明書を提出	

9-2 植木等

区分	管理項目	管理内容	管理方法	品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
1) 樹木 2) つる性植物 3) 竹	土	性状が生育に適していること。	特又は試験成績表により確認	共第1編 2-10-1又は特による。	産地毎に1回	試験成績表を提出	
	樹木	種類、品質が特に適合していること。	特による。	共第1編 2-10-3又は特による。	種類毎に搬入後適宜	品質等証明書を提出	
	肥料	種類、品質及び配合が特に適合していること。	種類、品質は品質等証明書により確認 配合は特による。	特による。	種類毎に1回	品質等証明書を提出	

10. 目地材料

10-1 目地材

区分	管理項目	管理内容	管理方法	品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
1) 目地材	材質	種類	観察	特による。	施工中適宜	試験成績表(検査証明書を提出)	
		品質	特による。	特による。	搬入時、ロット毎		

10 - 2 コンクリート舗装用目地材

区分	管理項目	管理内容	管理方法	品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
1) 目地材	材質	種類	観察	特による。	施工中適宜		
		品質	特による。	特による。	搬入時、ロット毎	試験成績表(検査証明書)を提出	
2) 注入材	材質	種類	観察		施工中適宜		
		品質	特による。		搬入時、ロット毎	試験成績表(検査証明書)を提出	

11. 防食材料

11 - 1 アルミニウム合金陽極

区分	管理項目	管理内容	管理方法	品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
1) 電気防食陽極	陽極の種類 化学成分 形状寸法	承諾した品質に適合していること。	製造工場の試験成績表(検査証明書)により確認	工事監督員が承諾した図面	搬入前	試験成績表(検査証明書)を提出	
		承諾図等の形状寸法に適合していること。	製造工場の測定結果表により確認	工事監督員が承諾した図面 各陽極の形状寸法の許容範囲は5%以内とする。	搬入前、全数	工場の測定表を提出	
	質量	承諾した品質に適合していること。	製造工場の測定結果表により確認計量器により測定	各陽極の質量の許容範囲は2%以内とし 取付総質量は陽極1個の標準質量の和を下回ってはならない。 ただし、陽極1個の標準質量が30kg未満の陽極質量の許容範囲は±4%の範囲とする。	搬入前、全数 搬入時、適宜	工場の測定表を提出	
	陽極板の電流効率等(陽極電位、発生電流)	特の値に適合していること。	製造工場の試験成績表により確認	90%以上	搬入前	試験成績表を提出	

11 - 2 防食塗装

区分	管理項目	管理内容	管理方法	品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
1) 塗装材	材質	種類	観察	特による。	施工中適宜		
		品質	特による。	特による。	搬入時、ロット毎	試験成績表(検査証明書)を提出	

11 - 3 被覆防食材料

区 分	管理項目	管理内容	管理方法	品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備 考
1) モルタルライニング	材 質	種 類	観 察	特による。	施工中適宜		
		品 質	特による。	特による。	搬入時、ロット毎	試験成績表（検査証明書）を提出	
2) 保護カバー	材 質	種 類	観 察	特による。	施工中適宜		
		品 質	特による。	特による。	搬入時、ロット毎	試験成績表（検査証明書）を提出	

12. 防舷材

12 - 1 ゴム防舷材

区 分	管理項目	管理内容	管理方法	品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備 考
1) ゴム防舷材	材 質	ゴムの物理試験（引張試験、硬さ試験、老化試験等）による材質が共第1編 表2-9に適合していること。	製造工場の試験成績表（検査証明書）により確認	共第1編 表2-9 JIS K 6250 JIS K 6251 JIS K 6253 JIS K 6257 JIS K 6262	製造前	試験成績表（検査証明書）を提出	
		性 能	反力及び吸収エネルギー	特による。	特による。	搬入前	試験成績表（検査証明書）を提出
	外 観	有害な傷等がないこと。	観 察	異常が認められないこと。	搬入時、適宜		
	形状寸法	長さ、幅、高さ、肉厚、ボルトの穴径及び中心間隔等	製造工場の測定結果表により確認	特及び工事監督員が承諾した詳細図等	搬入前、全数	工場の測定表を提出	様式・品質12-1(例)参照 別紙(例)参照
2) 取付金具	外 観	有害な傷等がないこと。	観 察	異常が認められないこと。	搬入時、適宜		
	形状寸法	特の形状寸法に適合していること。	観 察	特及び工事監督員が承諾した詳細図等	搬入時、適宜		

13. 係船柱

13 - 1 係船柱

区 分	管理項目	管理内容	管理方法	品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備 考
1) 係船柱	本体・付属品の化学成分、機械的性質	JIS の規定による。	製造工場の試験成績表(検査証明書)により確認	共第1編 表2-10	1 溶解毎	試験成績表(検査証明書)を提出	
	外 観	有害な傷、変形等がないこと。	観 察	異常が認められないこと。	搬入時、全数		
	形状寸法	特の形状寸法に適合していること。	製造工場の測定結果表により確認	共第1編 図5-1~3 及び共第1編 表5-1	搬入前、全数	工場の測定表を提出	

14. 車止め・縁金物

14 - 1 車止め・縁金物

区 分	管理項目	管理内容	管理方法	品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備 考
1) 鋼 製 (縁金物を含む)	本体、被覆材、付属品の化学成分、機械的性質	JIS の規定による。	製造工場の試験成績表(検査証明書)により確認	共第1編 表2-11	搬入前	試験成績表(検査証明書)を提出	
	外 観	使用上有害な反り、溶接部の不良個所等がないこと。	観 察	異常が認められないこと。	搬入時適宜		
	形状寸法	特の形状寸法に適合していること。	製造工場の測定結果表により確認	特による。	搬入前、全数	工場の測定表を提出	
2) その他 (縁金物を含む)	材 質	特の形状寸法に適合していること。	製造工場の測定結果表により確認	特による。	搬入前	試験成績表(検査証明書)を提出	
	外 観	使用上有害な反り等がないこと。	観 察	異常が認められないこと。	搬入時適宜		
	形状寸法	特の形状寸法に適合していること。	製造工場の測定結果表により確認	特による。	搬入前、全数	工場の測定表を提出	

15. マット

15-1 アスファルトマット

区分	管理項目	管理内容	管理方法	品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考	
1) アスファルトマット	材質	合材の配合、合材の強度、アスファルトの針入度、マットの押抜き強度が特に適合していること。	製造工場の試験成績表により確認	共第1編 2-16-1又は特による。	1,000m ² に1回	試験成績表及び配合表を提出	17-1アスファルト舗装を適用する。	
	外観	補強材の種類は特に適合していること。	観察	特による。	搬入時、適宜			
	形状寸法	厚さ		スチールテープ等で測定	特による。	20枚に1枚を2箇所	管理表を作成し提出	
		幅及び長さ		スチールテープ等で測定	特による。	20枚に1枚を1箇所	管理表を作成し提出	
2) 摩擦増大用マット	材質						15-1-1アスファルトマットを適用する。	
	形状寸法						15-1-1アスファルトマットを適用する。	

15-2 繊維系マット

区分	管理項目	管理内容	管理方法	品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
1) 繊維系マット	材質及び規格	伸び、引裂、引張強度等が特に適合していること。	製造工場の試験成績表により確認	特による。	搬入前、適宜	試験成績表を提出	引張試験JIS L 1908 引裂試験JIS L 1908

15-2 合成樹脂系マット

区分	管理項目	管理内容	管理方法	品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
1) 合成樹脂系マット	材質及び規格	伸び、引裂、引張強度、比重、耐海水引張強度等が特に適合していること。	製造工場の試験成績表により確認	特による。	搬入前、適宜	試験成績表を提出	引張試験JIS K 6723 引裂試験JIS K 6252 比重試験JIS K 7112 耐海水試験 JIS K 6773

15-3 ゴムマット

区分	管理項目	管理内容	管理方法	品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
1) ゴムマット	材質及び規格	硬度、伸び、引裂、引張強度等が特に適合していること。	製造工場の試験成績表により確認	特による。	搬入前、適宜	試験成績表を提出	引張試験JIS K 6251 引裂試験JIS K 6252
2) 摩擦増大用マット	材質	特による。	製造工場の試験成績表により確認	特による。	特による。	試験成績表を提出	
	形状寸法	特による。	スチールテープ等で測定	特による。	特による。	管理表を作成し提出	

16. コンクリート

16-1 レディーミクストコンクリート

区 分	管理項目	管理内容	管理方法	品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備 考	
1) JIS工場製品	配 合	規定の品質が得られることの確認	レディーミクストコンクリート配合報告書の確認 配合設計の基礎となる資料の検討	JIS A 5308 及び特による。 JIS A 5308 及び特による。	製造前及び使用材料の変更時 製造前及び使用材料の変更時	配合報告書を提出 配合設計の基礎資料を提出	水セメント比の算定方法、配合修正の条件と方法	
		試験練り	JIS A 1138 又はプラントによりコンクリートを製造し、スランプ、空気量、強度、塩化物量、その他の品質の確認		JIS 工場製品以外で工事監督員が指示した時	試験成績表を提出	様式・品質16-1参照	
	スランプ	スランプ試験	JIS A 1115 JIS A 1101 荷卸し地点で採取、試験	共第1編 表4-2	供試体作成時	管理表を作成し提出	様式・品質16-2参照	
	沈下度	沈下度試験（舗装用コンクリートに適用）	土木学会規準「振動台式コンソリッド試験方法」	特による。	供試体作成時	管理表を作成し提出		
	空気量	空気量試験	JIS A 1115 JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128 荷卸し地点で採取、試験	規定値に対する許容範囲は± 1.5%	供試体作成時	管理表を作成し提出	様式・品質16-2参照	
	強 度	供試体の作成	JIS A 1115 JIS A 1132 荷卸し地点で作成		1日1回とし、1日の打設量が150m ³ を超える場合は1日2回とする。ただし、同一配合の1日当り打設量が少量の場合は、工事監督員の承諾を得て打設日数に関係なく100m ³ ごとに1回とすることができる。			
		圧縮試験	JIS A 1108	1回の試験結果は、呼び強度（指定強度）の値の85%以上 3回の試験結果の平均値は、呼び強度（指定強度）の値以上	供試体作成毎1回の試験は、3個の供試体の平均値とする。	管理表を作成し提出	様式・品質16-2参照 少量の場合は省略できる。	

区 分	管理項目	管理内容	管理方法	品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備 考
		曲げ試験	JIS A 1106	1回の試験結果は、呼び強度（指定強度）の値の85%以上3回の試験結果の平均値は、呼び強度(指定強度)の値以上	供試体作成毎1回の試験は、3個の供試体の平均値とする。	管理表を作成し提出	様式・品質16-2参照少量の場合は省略できる。
	コンクリート温度	温度測定	供試体作成場所で測定 打設場所で測定	特による。 5 以上35 以下	供試体作成毎	管理表を作成し提出	様式・品質16-2参照 配合報告書の「指定事項」と対比
	塩化物含有量	塩化物量試験	JIS A 1115 JIS A 5308 附属書 5	JIS A 5308 による。	第1回コンクリート打設前及び使用材料の変更時	試験成績表を提出	無筋コンクリートで用心鉄筋が入らない構造物は全塩化物イオン量の制限はしない。

16 - 2 コンクリートミキサー船

区 分	管理項目	管理内容	管理方法	品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備 考
1) コンクリートミキサー船							16-1レディーミキストコンクリートを適用する。

16 - 3 現場練りコンクリート

区 分	管理項目	管理内容	管理方法	品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備 考
1) 現場練りコンクリート							
イ) 配合指定	示方配合	試験練り	JIS A 1138 又はプラントによりコンクリートを製造し、スランプ、空気量、強度、塩化物量、その他の品質の確認		施工前1回	試験成績表を提出	様式・品質16-1参照 ₂₈ は、配合強度を標準とする。
	現場配合	細骨材の表面水量	JIS A 1111 JIS A 1125		1日1回以上	試験成績表を提出	
		骨材の粒度	JIS A 1102	共第1編 表2-1	1日1回	試験成績表を提出	2-1砂を適用する。
	材料の計量	計量装置の精度パッチミキサ	静荷重試験		6箇月1回	検定合格証又は試験成績表(写)を提出	
		連続練りミキサ	キャリブレーション		工事開始前1回	各材料ごとのキャリブレーション結果を提出	
		計量誤差パッチミキサ	0点、設定針、表示針を観察、確認	共第1編 表4-1	午前、午後の作業開始時		

区 分	管理項目	管理内容	管理方法	品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備 考	
			連続8バッチについて計量時の指示値又は自動記録を読み取る。	共第1編 表4-1	1箇月1回	試験成績表を提出		
		連続練りミキサ	カウント数、表示針を観察、確認	共第1編 表4-1	午前、午後の作業開始時			
		練混ぜ性能バッチミキサ	JIS A 1119		6箇月1回	試験成績表を提出	コンクリート標準示方書参照	
	練混ぜ	連続練りミキサ	土木学会規準「連続ミキサの練混ぜ性能試験方法」			工事開始前1回	試験成績表を提出	コンクリート標準示方書参照
		練混ぜ時間バッチミキサ	時間測定	規定の時間以上及び同時間の3倍以下		午前、午後の作業開始時		
		外観、均一性、ワーカビリティ等	観 察			全バッチ		
	スランプ又は沈下度	スランプ試験	JIS A 1115 JIS A 1101 打設現場で採取、試験	共第1編 表4-2		供試体作成時	管理表を作成し提出	様式・品質16-2参照
		沈下度試験（舗装用コンクリートに適用）	土木学会規準「振動台式コンシステンシー試験方法」			供試体作成時	管理表を作成し提出	
	空気量	空気量試験	JIS A 1115 JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128 荷卸し地点で採取、試験	規定値に対する許容範囲±1.5%		供試体作成時	管理表に記録提出	様式・品質16-2参照
	強 度	供試体の作成	JIS A 1115 JIS A 1132 打設現場で作成			1日1回とし、1日の打設量が150m ³ を超える場合は1日2回とする。ただし、同一配合の1日当り打設量が少量の場合は、工事監督員の承諾を得て打設日数に関係なく100m ³ ごとに1回とすることができる。		
		圧縮試験	JIS A 1108	1回の試験結果は、指定強度の値の85%以上、3回の試験結果の平均値は、指定強度の値以上		供試体作成毎1回の試験は、3個の供試体の平均値とする。	管理表及び管理図を作成し提出	様式・品質16-2、16-3参照少量の場合は省略できる。

区 分	管理項目	管理内容	管理方法	品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備 考
		曲げ試験	JIS A 1106	1回の試験結果は、指定強度の値の85%以上、3回の試験結果の平均値は、指定強度の値以上	供試体作成毎1回の試験は、3個の供試体の平均値とする。	管理表及び管理図を作成し提出	様式・品質16-2、16-3参照少量の場合は省略できる。
	コンクリート温度	温度測定	供試体作成場所で測定、打設場所で測定	特による。	供試体作成毎	管理表を作成し提出	様式・品質16-2参照
	塩化物含有量	塩化物量試験	JIS A 1115 JIS A 5308 附属書 5 出荷場所又は荷卸し場所で測定	特による。	第1回コンクリート打設前及び使用材料の変更時	試験成績表を提出	無筋コンクリートで用心鉄筋が入らない構造物は全塩化物イオン量の制限はしない。
ロ) 品質指定							16-1レディーミクストコンクリートを適用する。

16 - 4 暑中コンクリート

区 分	管理項目	管理内容	管理方法	品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備 考
1) 暑中コンクリート	水及び骨材の温度	温度測定	温度測定		随 時		その他の項目は、レディーミクストコンクリート・現場練コンクリートを適用する。
	コンクリート温度	温度測定	供試体作成場所で測定、打設場所で測定	特による。暑中コンクリートは35 以下	供試体作成毎	管理表を作成し提出	様式・品質16-2参照

16 - 5 寒中コンクリート

区 分	管理項目	管理内容	管理方法	品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備 考
1) 寒中コンクリート	水及び骨材の温度	温度測定	温度測定		随 時		その他の項目は、レディーミクストコンクリート・現場練コンクリートを適用する。
	コンクリート温度	温度測定	供試体作成場所で測定、打設場所で測定	特による。寒中コンクリートは5 ~ 20	供試体作成毎	管理表を作成し提出	様式・品質16-2参照

16 - 6 水中コンクリート

区 分	管理項目	管理内容	管理方法	品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備 考
1) 水中コンクリート							16-1レディーミクストコンクリートを適用する。

16 - 7 袋詰コンクリート

区 分	管理項目	管理内容	管理方法	品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備 考
1) 袋詰コンクリート							16-1レディーミクストコンクリートを適用する。

16 - 8 水中不分離性コンクリート

区 分	管理項目	管理内容	管理方法	品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備 考
1) 水中不分離性コンクリート							16-1レディーミクストコンクリートを適用する。

16 - 9 プレパックドコンクリート

区 分	管理項目	管理内容	管理方法	品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備 考
1) プレパックドコンクリート							16-1レディーミクストコンクリートを適用する。

16 - 10 コンクリート舗装

区 分	管理項目	管理内容	管理方法	品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備 考
1) コンクリート舗装							16-1レディーミクストコンクリートを適用する。

17. アスファルトコンクリート

17-1 アスファルト舗装

区分	管理項目	管理内容	管理方法	品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考	
1) アスファルト コンクリート	配合設計	試験練り及びマーシャル試験	工事監督員の承諾する方法により、特の品質が得られることを確認	共第1編 2-18-1又は特による。	共第1編 2-18-1による。	試験成績表及び配合表を提出	舗装撤去、復旧等簡易なものについては工事監督員の承諾を得て省略することができる。	
	材料の計量	計量機の検定						検定合格証(写)提出
		計量誤差				工事監督員が必要と認めるとき測定		
		骨材の合成粒度(ホットビン)	JIS A 1102 JIS A 1204 現場配合決定時の粒度と対比			1日1回		
	混合物	ミキサ排出時の温度	温度測定	事前に工事監督員に承諾を得た温度に対し±25 かつ185以下		運搬車毎	適宜	
		敷き均したときの温度(初転圧直前)	温度測定	110 以上		運搬車毎ただし同一配合の合材100t未満のものは1日2回(午前、午後)	管理図を作成し提出	
		安定度等	舗装施工便覧(マーシャル安定度試験方法)	共第1編 2-18-1		1日1回	管理図を作成し提出	
		抽出アスファルト量	舗装施工便覧(アスファルト混合物の抽出試験方法)	舗装施工便覧		抽出試験1日1回 印字記録の場合は、全数	管理図を作成し提出	
		粒 度	抽出ふるい分け試験又は印字記録	舗装施工便覧		抽出試験1日1回 印字記録の場合は、全数	管理図を作成し提出	
		コアによる密度の測定	舗装施工便覧(締め固めた歴青混合物の密度試験方法)	規準密度の94%以上		1,000m ² 毎に1回	管理図を作成し提出	

18. その他

18-1 ペーパードレーン

区分	管理項目	管理内容	管理方法	品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
1) ドレーン材	材質	種類	観察	特による。	施工中適宜	試験成績表を提出 管理表を作成し提出	
		品質	特による。	特による。	搬入前に1回		

18-2 路盤紙

区分	管理項目	管理内容	管理方法	品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
1) 路盤紙	材質	種類	観察	特による。	施工中適宜		
		品質	特による。	特による。	搬入前に1回		

18-3 防砂目地板

区分	管理項目	管理内容	管理方法	品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
1) 防砂目地板	材質	種類	観察	特による。	施工中適宜		
		品質	特による。	特による。	搬入前に1回		

18-4 区画線及び道路標示

区分	管理項目	管理内容	管理方法	品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
1) 区画線及び道路 標示	材質	種類	観察	特による。	施工中適宜		
		品質	特による。	共第1編 2-19-4又は 特による。	搬入前に1回		

18-5 道路標識

区分	管理項目	管理内容	管理方法	品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
1) 道路標識	材質	種類	観察	特による。	施工中適宜		
		品質	特による。	共第1編 2-19-5又は 特による。	搬入前に1回		

18-6 防護柵

区分	管理項目	管理内容	管理方法	品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
1) 防護柵	材質	種類	観察	特による。	施工中適宜	工事監督員が指示 したとき試験成績 表(検査証明書) を提出	
		JIS規準に適合してい ること。	製造工場の試験成績表に より確認	共第1編 2-19-6又は 特による。	搬入前に1回		

18 - 7 溶接材

区 分	管理項目	管理内容	管理方法	品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備 考
1) 溶接材	材 質	種 類	観 察	特による。	施工中適宜		
		JIS規準に適合していること。	製造工場の試験成績表により確認	共第1編 2-19-7又は特による。	搬入前に1回	工事監督員が指示したとき試験成績表(検査証明書)を提出	
	溶接部の強度	引張及び曲げ	JIS Z 3121、3131等公的機関の試験成績により確認	特による。	特による。	試験成績表(検査証明書)を提出	
		非破壊試験	JIS Z 3104放射線透過試験の他、 <input type="checkbox"/> による。 カラーチェック	特による。	特による。	写真又はフィルムを提出 写真を提出	

18 - 8 ガス切断材

区 分	管理項目	管理内容	管理方法	品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備 考
1) ガス切断材	材 質	種 類	観 察	特による。	施工中適宜		
		JIS規準に適合していること。	製造工場の試験成績表により確認	共第1編 2-19-8又は特による。	搬入前に1回	工事監督員が指示したとき試験成績表(検査証明書)を提出	

18 - 9 汚濁防止膜

区 分	管理項目	管理内容	管理方法	品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備 考
1) 汚濁防止膜	材 質	種 類	観 察	特による。	施工中適宜		
		品 質	特による。	特による。	搬入前に1回	特による。	

骨材のふるい分け試験 (J I S A 1 1 0 2)

様式・品質 3 - 1

工事名 _____
 工種 _____
 プラント名 _____
 試料採取 _____
 場所 _____
 試験年月日 _____
 試験場所 _____
 測定者 _____ 印

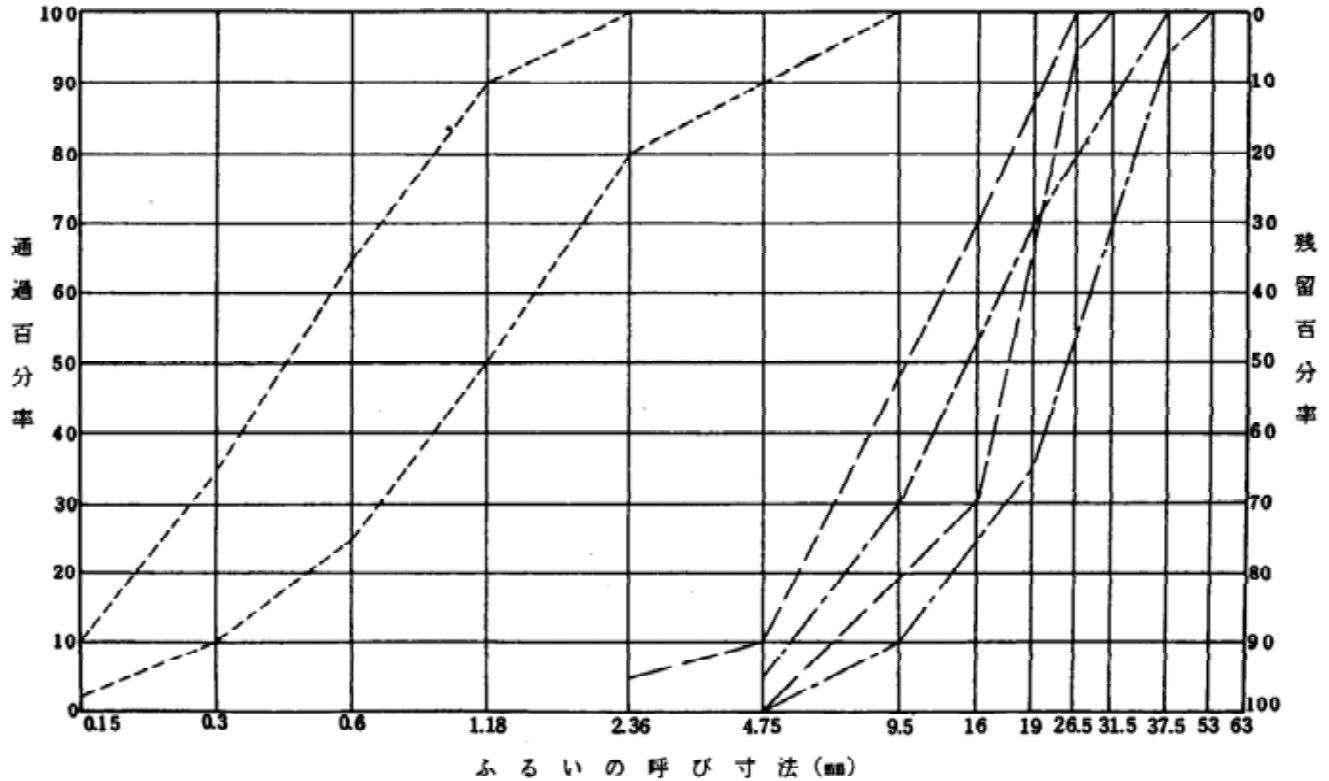
	細骨材	粗骨材
最大寸法	/	
産地		
比重		
吸水量		

比重、吸水量は 年 月 日の測定値

現場代理人 _____ 印

細骨材の種類				粗粒率				粗骨材の種類				粗粒率			
ふるい の 呼び 寸 (mm)	ふるい の 法	残留 量 (kg)	質量 百分率 (%)	累加 質量 百分率 (%)	ふるい の 呼び 寸 (mm)	ふるい の 法	残留 量 (kg)	質量 百分率 (%)	累加 質量 百分率 (%)	ふるい の 呼び 寸 (mm)	ふるい の 法	残留 量 (kg)	質量 百分率 (%)	累加 質量 百分率 (%)	
					63										
					53										
					37.5									・	
9.5					31.5										
4.75					26.5										
2.36					19									・	
1.18					16									・	
0.6					9.5									・	
0.3					4.75									・	
0.15					2.36									・	
皿				100	皿				100					100	
計			100		計			100					100		

粒 度 曲 線



防 眩 材 形 状 管 理 表 (例)

工 事 名 _____ 型 式 _____

年 月 日 _____ 現場代理人 _____ ・印 _____

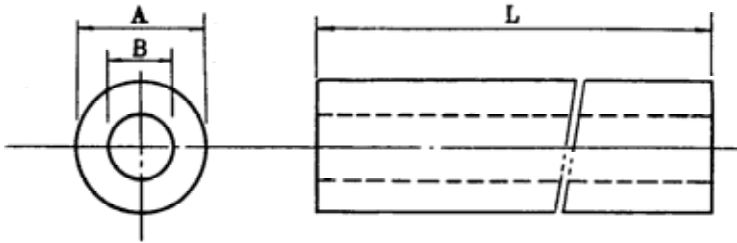
単位 mm

測定箇所		標準寸法				備 考
長 さ	L ₁					
	L ₂					
幅	A					
	B					
高 さ	H					
肉 厚	d ₁					
底 版 厚	d ₂					
ボルト穴径						
ボルト穴の 中心間隔	C					
	l ₁					
	l ₂					
そ の 他						

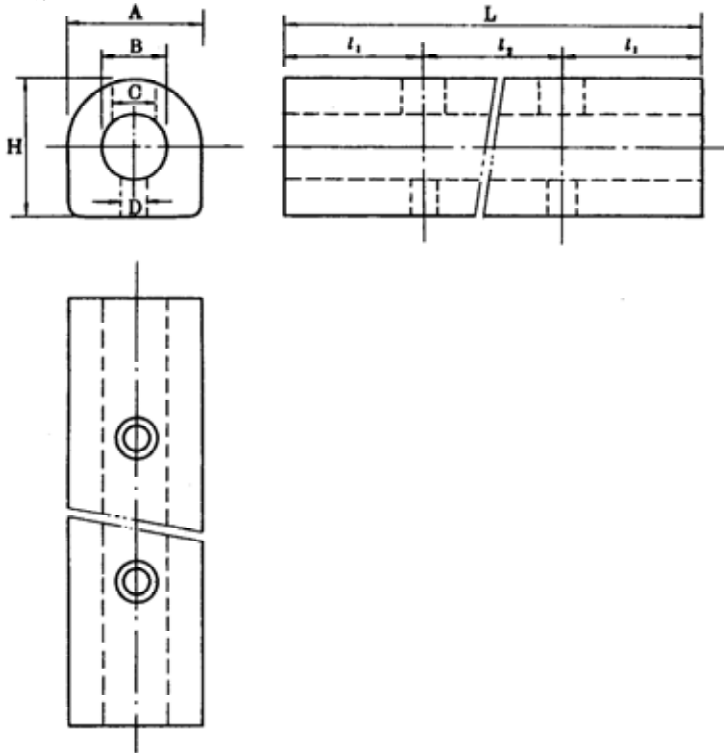
(別紙)

防眩材形状測定箇所(例)

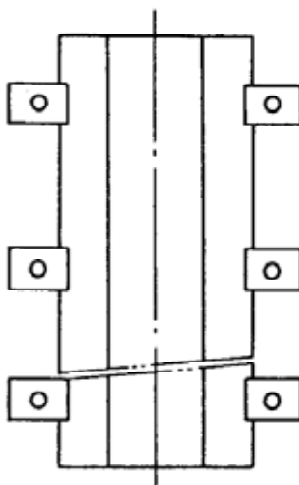
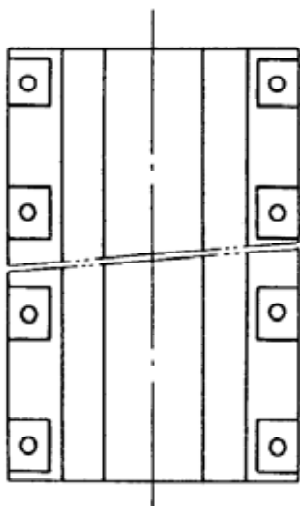
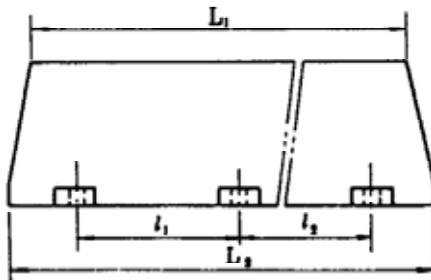
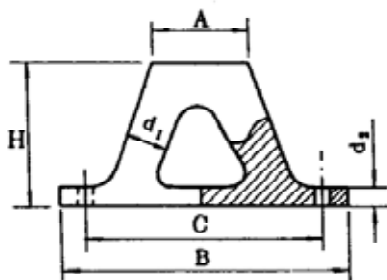
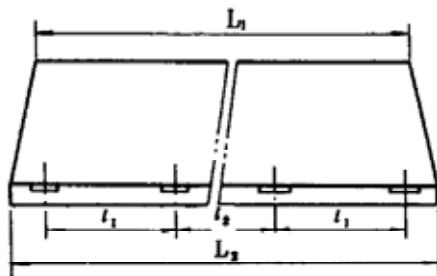
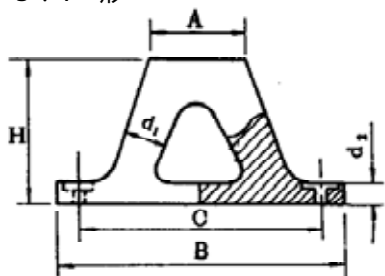
1. 中空円筒形



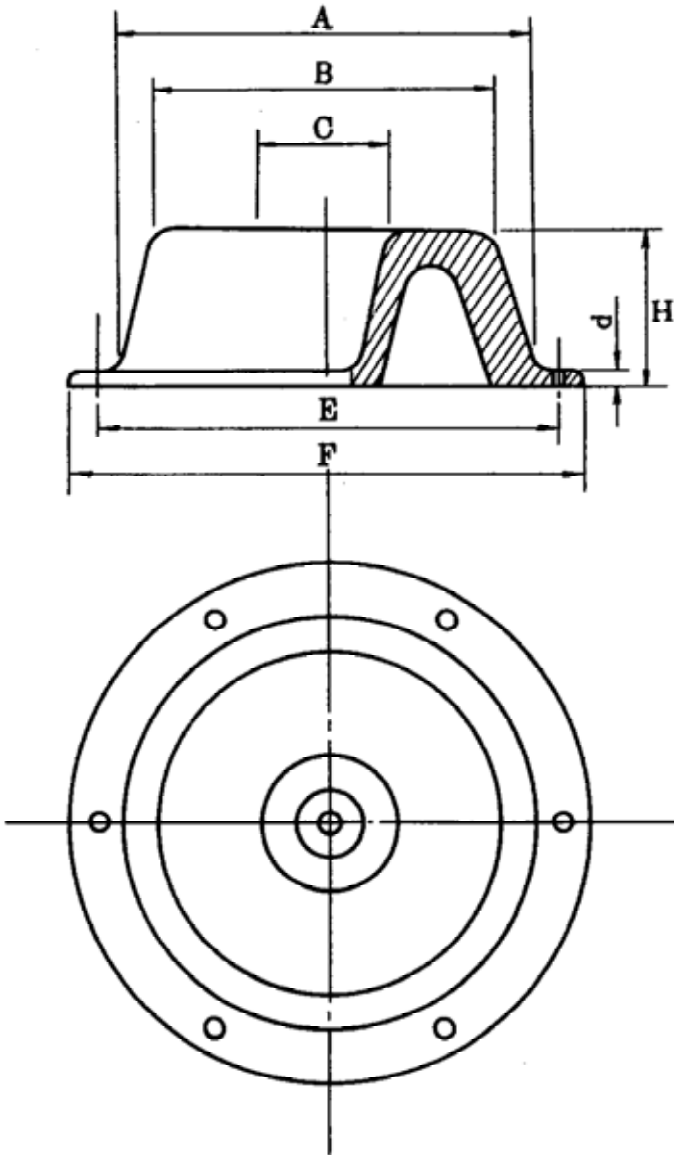
2. D 形



3. V 形



4. サークル形



コンクリート試験成績表（試験練用）

工事名 _____

工 種 _____

試験日 年 月 日

立会者 _____

試験場所 _____

_____ 印

1 示方配合表

粗骨材の 最大寸法 (mm)	スランプの 範 囲 (cm)	空気量の 範 囲 (%)	水セメント比 W/C (%)	細骨材率 s/a (%)

2 現場配合表

コンクリート量 (m ³)	W (kg)	C (kg)	S (kg)	G (kg)
1				

3 試料採取及び養生 (JIS A 1115 及び 1132)

採 取 年 月 日	
採 取 場 所	
採 取 時 刻	
天 候	
気 温	
コンクリート温度	
ス ラ ン プ	
空 気 量	
養 生 方 法	
養 生 温 度	
材 令	

プラント名 _____

測定者 _____ 印

現場代理人 _____ 印

単 位 量 (kg/m ³)				
水, W	セメント, C	細骨材, S	粗骨材, G	混和剤()

混 和 剤 (ml, g)	表 面 水 (%)		摘 要	
	S	G		

4 試験成績表 (JIS A 1108 又は 1106)

供 試 体 番 号		1	2	3	平 均
供 試 体 の 直 径	cm				
" 幅	"				
" 高 さ	"				
" 長 さ	"				
" スパン	"				
最 大 荷 重	kN				
圧 縮 強 度	N/mm ²				
曲 げ 強 度	"				
破 壊 状 況					
そ の 他					

コンクリート強度（圧縮）管理表

工事名 _____ 工種 _____

打設年月日	番号	スランプ (cm)	空気量 (%)	温度 ()		
					試験月日	X ₁

設計条件

呼び強度	N/mm ²	標準偏差	N/mm ²
粗骨材の最大寸法	mm	変動係数	%
スランプの範囲	cm ~ cm	割増係数	
空気量の範囲	% ~ %	配合強度	N/mm ²

X管理

管理限界=

UCL =

LCL =

$$\bar{X} = \frac{X}{N} =$$

JIS工場の場合はRs、Rm、 $(X - \bar{X})^2$ 、標準偏差、変動係数、割増係数、配合強

現場代理人 _____ 印 _____

28			R s	Rm	$(X - \bar{X})^2$	摘 要
X_2	X_3	平均値 X				

図

R s 管理図

Rm管理図

標準偏差 $= \sqrt{\frac{(X-\bar{X})^2}{N-1}}$

$\bar{X} \pm 2.66R_s$ 管理限界 = $3.27R_s$ 管理限界 = $2.57R_m$
(n=3)
 UCL = UCL =

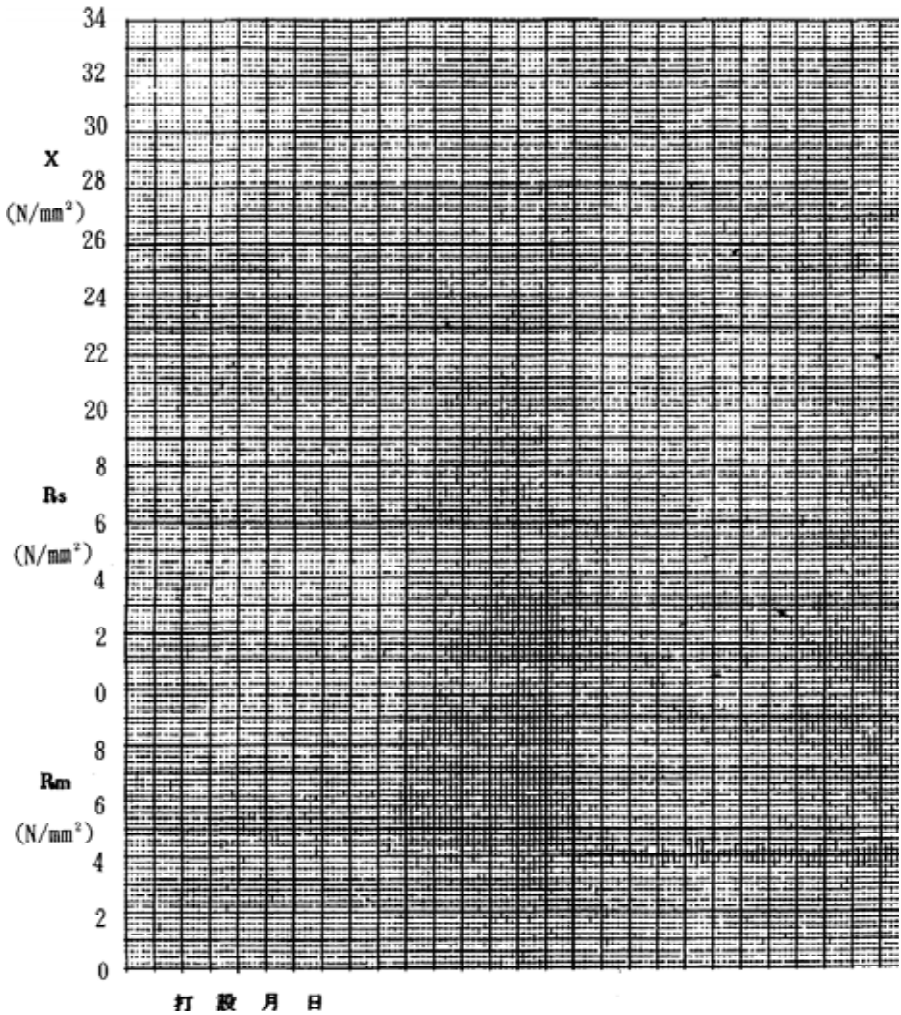
$\bar{R}_s = \frac{R_s}{N-1} =$ $\bar{R}_m = \frac{R_m}{N} =$ 変動係数 $V = \frac{\quad}{\bar{X}} \times 100 =$

度は不要

コンクリート強度（圧縮）管理図

工事名 _____

工種 _____



現場代理人

・印

